

十

正四位勲二等阪本鈇之助叙勲

、件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和七年二月五日

内閣總理大臣犬養毅



内閣

裏面白紙

昭和七年二月五日勅令
昭和七年二月五日勅令

賞勳局 第二十九號

内閣

シク

昭和七年二月五日勅令

昭和六年十二月十六日 内閣書記官長

内閣書記官長

内閣總理大臣 齋 賞勳局總裁

正四位勲二等 阪本 鈺之助 叙勲ノ件 別紙ノ通議定候條 此段 允裁ヲ仰ク

昭和六年十二月二十六日

賞勳局總裁 下條

書記官

議定官

可 否



敍勳議案

正四位勳二等阪本鈺之助

右者明治二十二年十月以來日本赤十字社滋賀縣委員副長岡山及東京

賞勳局

支部副長福井鹿兒島支部長或ハ名古屋市委員長トシテ多年赤十字社業務ニ執掌シ殊ニ大正六年五月本社常議員トナリ同七年六月常任理事ニ擧ケラレ本社事業ノ計畫並實施、衝ニ當リ大正九年推サレテ副社長ニ就任スルヤ益々社業ノ刷新向上ニ努力シ大ニ其ノ業績ヲ發揮セリ大正七年西伯利亞出兵ニ方リテハ我將卒等ノ醫療救護ニ任セシメ大正九年ニハ

西伯利亞ノ曠野ニ漂浪セシ波蘭國
兒童七百六十五名ヲ救濟シ就中大正
十二年九月關東地方大震火災ニ際シ
テハ本社カ率先救護ニ任シ其ノ取扱
患者數實ニ五十六萬餘人ニ及ヒ處置
機宜ニ適シ良好ナル成績ヲ擧ケタリ
又内ニ在リテハ益々赤十字社ノ内容ヲ
充實シ救療諸機關ノ増設保護事
業ノ創設等ニ盡カシ今日ノ如キ社運
ノ隆昌ヲ來セリ一面明治四十四年八月

賞勳局

貴族院議員ニ勅任セラレ爾來今日ニ
至ルマテ克ク其ノ職ニ竭シタル等其ノ
功績顯著ナリト認ム仍テ陸海軍兩大
臣ノ上奏ヲ勘査シ勲等ヲ擬議スル
左ノ如シ
叙勲一等授瑞寶章

裏面白紙

日本赤十字社副社長貴族院議員正四位勳二等阪本鈔之助
右者別紙功績書ノ通功績顕著ナル者ニ付
特別ノ恩召ヲ以テ勳一等ニ叙シ瑞寶章
ヲ授ケラレ度
謹テ奏ス

昭和六年十二月 日

陸軍大臣 荒木貞夫



海軍大臣 大角岑生



陸軍

功績書

日本赤十字社副社長 貴族院議員 正四位勲二等 阪本鈔之助

右者明治二十二年十月日本赤十字社滋賀縣委員副長、囑託ヲ受ケ爾來岡山及東京支部副長、福井、鹿兒島支部長或ハ名古屋市委員長トシテ多年赤十字社業務ニ歎掌シ殊ニ大正六年五月本社常議員トナリ同七年六月常任理事ニ擧ケラル、ヤ本社事業ノ計画並實施、衝ニ當リ大正九年推サレテ副社長ニ就任スルヤ益々社業ノ刷新向上ニ努力シ大ニ其業績ヲ發揮セリ同人ノ常任理事就任以後本社トシテ與ケタル主ナル業績ハ實ニ左、如クニシテ之等ノ事業ハ實際ノ任ニ當リタル同氏ノ献策努力ニ依レルモノ頗ル

多シ

陸軍

- 一、大正七年我西伯利亞出兵ニ方リテハ同年七月ヨリ同十一年十月ニ至ル四年三ヶ月、間臨時救護班ヲ東部西伯利亞ニ派遣シ專心我將卒等ノ醫療救護ニ任セシメ大ニ國家ニ貢獻セリ
- 二、大正九年七月ニ於テハ歐洲大戰ノ慘禍ヲ受ケ西伯利亞、曠野ニ漂浪セシ波蘭國兒童七百六十五名ヲ救濟シ且ツ之ヲ懇切ニ其ノ本國ニ送還シテ彼等ニ多大ノ感激ヲ與ヘ國交上ニ寄與セシコト大ナルモノアリ
- 三、大正十年三月支那北部大饑饉、爲悲惨ナル景況ヲ呈スルヤ直ニ患者救護、爲救護班ヲ派遣シ其ノ取扱患者數毎員ニ二万一千名ニ達ス此間

本人ハ北京、天津、其他、被害地ニ赴キ自ラ救護班ヲ督勵シ支那官民ニ多大ノ好感ヲ與ヘタリ

四、大正十年七月ヨリ同十四年四月ニ亘ル三年十月月間薩哈連州亞港ニ救護班ヲ派遣シテ在留民ノ救療ニ從事セシメ其ノ取扱患者數一萬二千三百餘名ニ及ヘリ

五、大正十一年四月ヨリ同年十月ニ亘ル間支那第一奉直戰ニヨリ發生シタル多數ノ傷病者ニ對シ救護ヲ實施シ其取扱患者數八百餘名ニ及ヒ隣邦民人ヲシテ我仁俠博愛ノ譽ニ感激セシメタリ

六、大正十二年九月關東地方大震火災救發スルヤ本社カ率先救護ニ任シ其取扱患者數實員ニ五十六萬餘人ニ及ヒ處置機宜ニ適シ而モ良好

ナル成績ヲ擧ケタルハ本人ノ計畧指導ニ負フトコロ大ナリ

七、第一奉直戰ノ傷病者救護、為大正十三年十一月ヨリ同十四年三月ニ亘ル間再ヒ救護班ヲ派遣シテ救護ニ任セシメ大正十四年十二月ヨリ同十五年六月ニ至ル間、及昭和三年一月ヨリ同四年三月ニ亘ル間支那山東省方面ノ動乱ニ際シテモ支那傷病兵ノ救護ヲ實施シ多大ノ業績ヲ擧ケタリ

八、大正十五年十月東京ニ於テ第一回東洋赤十字會議ヲ開催スルヤ之カ計畧ニ參與シ而モ其ノ計畧實施共ニ適切ニシテ友邦諸赤十字社トノ親善關係ヲ一層良好ナラシメタリ

九昭和二年三月丹後地方ニ於ケル震災ニ際シテ
ハ時機ヲ失セス救護班ヲ派遣シ其取扱患
者數二万三千有餘名ニ及ヒ救護ニ關スル
功績頗ル大ナリ

十昭和三年支那事變ニ當リテハ陸軍患者輸送
船長城丸ニ於ケル傷病者、船内救護ニ從事
セシムル爲救護班ヲ派遣シ多大ノ功績ヲ擧
ケ又昭和五年十一月伊豆地方ニ於ケル震災
ニ當リテハ直々ニ救護班ヲ派遣シ罹災者ノ
救護ニ任セシメ克ク其目的ヲ達成セシメタリ

以上ノ如ク幾多ノ事變或ハ災害ニ方リ常ニ機
ヲ失セス救護班ヲ派遣シテ内外民ノ救護救濟
ニ任セシメ多大ノ功績ヲ收メタル外尚内ニ在リテハ

陸軍

益々赤十字社、内容ヲ充實シ病院診療所、
増設ヲ初メ妊産婦及児童ノ保護事業タル
産院、妊産婦保護所、海濱學校、其他巡回
産婆、囑託産婆養成所、児童健康相
談所、夏季児童保養所學校看護婦等
各種ノ施設ヲナシ更ニ結核療養所等ヲ設置シ
殊ニ陸海軍除役兵、收容治療ニ力ヲ用ヒ又
少年赤十字ノ事業ヲ起ス等諸種ノ社會
事業ヲ創設或ハ擴張シテ今日、如キ社運ノ
隆昌ヲ來シタルモノニシテ其、社勢力ノ伸長、内容
ノ充實及各種施設整備ノ狀況ハ附表附録ノ如シ
以上ノ如ク赤十字社事業カ益々發展興隆スルニ至
リシモノ之レ一ツニ本人カ理事又ハ副社長トシテ

終始一貫業務ニ盡瘁シ其計更指道守宜シキ
ニ適ヒタル結果ニシテ其功績ハ最モ顯著ナリ

陸軍

裏面白紙

一、東部西伯利亞派遣救護班

期 間	區 分	派遣救護員	取 扱 人 員	患 者 人 員	経 費
自大正七年七月 至今十年十月		三一	六三、九九六	六五〇、九八七	一、二六七、九〇七 ^〇

一、波蘭兒童救濟

大正九年七月本社ハ歐洲大戰ノ慘禍ヲ受ケ西國ノ曠野ニ漂浪セル波蘭國兒童ヲ救濟シ之ヲ本國ニ送還ス救濟シタル兒童七百六十五名、附添人八十名、經費貳拾壹万九百拾拾圓

一、支那北部派遣救護班

期 間	區 分	派遣救護員	取 扱	患 者	経 費
自大正十五年三月 至今 年六月		一八	実人負 二〇、九五四	延人負 四九、五八三	五六、三九六 〇

一、陸哈囉州派遣救護班

期 間	區 分	派遣救護員	取 扱	患 者	経 費
自大正十年七月 至今 十四年四月		四六	実人負 一三、三二七	延人負 一五、九九六	一一、三〇二 〇

一、奉天、直隸兩軍衝突ニ依ル傷病者救護

期 間	區 分	派遣救護員	取 扱	患 者	経 費
自大正十年四月 至今 年十月 於テ取扱フ		奉天病院 於テ取扱フ	実人負 八〇五	延人負 二五、四一八	五、四七〇 〇

一、關東地方大雨震災

期 間	區 分	救護ニ従事 シタル職員	取 扱	患 者	経 費
自大正十三年九月 至今 十三年九月		四、四六六	実人負 五六、三八一	延人負 二、〇六七、五〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇 〇

一、再々奉直戦ニ依ル傷病者救護

大正十三年十一月ヨリ同十四年三月ニ亘リ再々奉直戦ノ傷病者救護ノ為本社ハ本社病院副院長以下七名ヲ派遣シ取扱ヒタル患者ハ孰レモ重傷者ニシテ實數僅五十一名ニ過キサルヲ鑑み治療日數三千六百九十日ヲ要シ 経費壹万七百拾五日ヲ支出セリ

一、山東省方面ノ動乱ニ依ル支那傷病兵救護

期 間	區 分	派遣救護員	取 扱	患 者	経 費
			実人負	延人負	

自大正十四年三月
至十五年六月
濟南病院
後所ノ救護
職費ニ係ルモノ

共一三六
二五〇二二
一、五〇〇〇〇

一、東洋赤十字會議

大正十五年十一月第二回東洋赤十字會議ヲ東京ニ開クニ
當リ計畫宜シキニ適ヒ友邦諸社トノ親善厚キヲ加フ

一、丹後地方ニ於ケル震災

報 聞	區 分	派 遣 救 護 員	取 扱 費	患 者 延 入 員	經 費
自昭和三年三月 至今 年六月		三七六	実入員 二、三七二一	一〇四、五二四	一八、九八六〇〇

一、支那事件救護

(陸軍病院院長城丸勤務)

裏面白紙

期		一北俣豆地方震災		期		一北俣豆地方震災	
自昭和三年六月 至今 年十月	區分	賑濟救護費	賑濟救護費	自昭和三年六月 至今 年十月	區分	賑濟救護費	賑濟救護費
		三八	三八			三八	三八
		取 入 負 六八〇	取 入 負 六八〇			取 入 負 六八〇	取 入 負 六八〇
		延 人 負 三、一二二	延 人 負 三、一二二			延 人 負 三、一二二	延 人 負 三、一二二
		経 費 二五九〇八円〇	経 費 二五九〇八円〇			経 費 二五九〇八円〇	経 費 二五九〇八円〇
		取 入 負 四、三九二	取 入 負 四、三九二			取 入 負 四、三九二	取 入 負 四、三九二
		延 人 負 一八、五一四	延 人 負 一八、五一四			延 人 負 一八、五一四	延 人 負 一八、五一四
		経 費 一七、三五六円〇	経 費 一七、三五六円〇			経 費 一七、三五六円〇	経 費 一七、三五六円〇
自昭和五年十月 至今 六年一月	區分	賑濟救護費	賑濟救護費	自昭和五年十月 至今 六年一月	區分	賑濟救護費	賑濟救護費
		一三九	一三九			一三九	一三九
		取 入 負 四、三九二	取 入 負 四、三九二			取 入 負 四、三九二	取 入 負 四、三九二
		延 人 負 一八、五一四	延 人 負 一八、五一四			延 人 負 一八、五一四	延 人 負 一八、五一四
		経 費 一七、三五六円〇	経 費 一七、三五六円〇			経 費 一七、三五六円〇	経 費 一七、三五六円〇

日本赤十字社

年/區分	年	年	年	年	年	年	年
大正六年	1.730	1.319	八四	2.12	1.42	四〇九、一九六	九六
合七年	1.818	九二八	九六	2.25	2.32	八五一、〇九四	四四
合八年	1.873	一四一	三七	2.55	2.32	九五五、三三四	〇五
合九年	1.936	七〇一	二四	2.55	2.32	一〇五、〇五六	六八
合十年	1.931	三五六	三〇	2.55	2.32	六六七、五八六	七三
合十一年	2.086	八〇六	九八	2.55	2.32	一、五〇六、三八四	三六
合十二年	1.887	〇二六	三三	2.55	2.32	六〇六、九五二	八四
合十三年	1.998	四〇四	八七	2.55	2.32	八五四、八八一	九五

年 酬金、寄附金ノ收納

年 酬 金

寄 附 金

大正十四年	1.13	一、九六三、五一三	七四	1.29	五、〇〇三	〇二
昭和九年	1.27	二、二〇八、一三九	九九	2.10	八、六七、五九四	四六
合三年	1.10	一、九七九、三四五	七五	1.50	六、一五、二六五	九五
合四年	1.11	一、九一七、三四二	八七	2.41	九、九八、九九八	七一
合五年	1.00	一、六二五、五六〇	九三	2.11	八、二二、六二八	七五

右ノ表ノ如ク概シテ年酬金、寄附金ノ收納逐年甚ク下ガルハ常務副社長タル阪本鈔之助ノ督勵ニ因ルコト大ナリ

大正六年次降

日本赤十字社々業進展概要

○ 社 負 救

大正六年	一七九八・八三五
昭和五年	二五四〇・四〇六

○ 救 護 準 備

年度	區分	看護婦組織救護班 延 救 準 備 数	看護人組織救護班 延 救 準 備 数	病 院 延 救 準 備 数	旅 館 延 救 準 備 数	列 車 延 救 準 備 数
大正六年		一三六	一三三	三九	二八	二
昭和五年		一七九	一六一	一〇	三	二

○ 救 護 員 及 生 徒

大正六年	五・一四七	七四二
昭和五年	六・〇九四	一・五七四

陸 軍

○ 災 害 救 護

年度	區分	事件数	救護日数	患者實人員同 延人員救護員数
大正六年		二五一	六八三	一四・一六七
昭和五年		七七〇	二・四六六	五・一八五三

○ 常 設 診 療 所 於 於 救 護

年度	區分	患者實人員同 延人員
大正六年		七五四二
昭和五年		一三・一三八六

○ 巡 回 救 療 所 於 於 救 護

年度	區分	患者實人員同 延人員
大正七年		七・七七二
昭和五年		九六・三九九

救急函一依救護

大正十四年 三八九三〇
昭和五年 四〇三一九九

結核豫防撲滅事業

年度	區分	實入	實出	延入	延出	外入	外出
大正六年		一四八三	一〇六七四二			七〇九一	一一六一七八
昭和五年		一六八二	一〇六一七六			六六三六	一五八一八一

兒童保護

年度	區分	夏季保養所 收容児童数	健康相談所 取扱人复数	身板看護所 取扱児童数	海濱學校 取扱児童数	児童院 実入実出人数
大正九年		三五七				
昭和五年		七一九九	六九七七三	一三五	一七六	一六八 三三九 三四三二

陸軍

妊産婦保護

年度	區分	實入	實出	延入	延出	外入	外出
大正十一年		三六六	六六六六			六四八	三六六七
昭和五年		七三二八	九四四一九			一五二六三	九四六三五

常備産婆及産婆生徒養成

年度	區分	常備産婆	産婆生徒
大正十一年		一〇	一〇
昭和五年		一〇二	三一五

病院取扱患者数

年度	區分	入院	退院	入院	退院	外入	外出
大正六年		一六	二六五二六	六二一六六	五三四一〇六	一八三九三九一	
昭和五年		二六	五〇三九九	一二六八二一二	四二一一九九〇	四四四八四七九	

少年赤十字

年	員数	国員数
大正十一年	二四三	五三〇八八
昭和五年	六三六〇	一四七一、六六六
○ 各種資金合計		
大正六年	二、二二一、三九五	
昭和五年	四、三三二、五六一五	

陸 軍

履歷書

日本赤十字社副社長貴族院議員正四位勲二等及本館之助

安政四年六月二十日 生

籍 東京府士族

現任所 東京府東京市麻布区飯倉町三丁目二番地

明治十年一月十六日 四等學子區取締申付

同 年七月二十三日 三等學子區取締申付

同 年八月六日 廢職

同 十一年一月八日 寫字雇申付月給八円

同 十三年六月十七日 依願雇差免

同 年八月六日 任内務九等属

同 年八月六日 衛生局事務取扱申付假事

同 年十二月二十七日 中央衛生會事務取扱兼務申付假事

陸軍

明治十三年十月一日 任内務八等属

同 十四年十月三日 任内務七等属

同 十五年六月十九日 任内務六等属

同 年十月二十日 任内務五等属

同 十七年二月五日 任内務四等属

同 年二月二十日 中央衛生會御用掛兼勤申付假事

同 十八年十月十二日 漢賀縣へ出向申付假事

同 年十月二十六日 任漢賀縣二等属

同 年十月二十六日 學務課長兼衛生課長申付假事

同 年十月二十六日 慶務課兼勤申付假事

同 十九年一月二十四日 地方衛生會委員申付假事

同 年一月二十五日 官報口告主任申付假事

同 年六月十一日 慶務課長兼學務課長申付假事

同	年七月二十三日	地方官々制發布ニ付廢官
同	年七月二十三日	任滋賀縣屬
同	年七月二十三日	叙判任官一等給下給俸
同	年七月二十三日	第一部議事課長兼第二部庶務課長ヲ命ス
同	年九月三十日	當分内尋常師範學校長事務攝理ヲ命ス
同	二十年十月廿六日	文官普通試驗委員ヲ命ス
同	年十一月二十四日	任控訴院書記官
同	年十一月二十四日	叙奏任官四等
同	年十一月二十四日	下級俸下賜
同	年十一月二十四日	函館控訴院詰ヲ命ス
同	壬午年一月四日	函館控訴院會計主務ヲ命ス
同	年五月二十三日	名古屋控訴院詰ヲ命ス
同	年五月二十三日	名古屋控訴院會計主務ヲ命ス
明治	壬午年六月二十日	任滋賀縣書記官
同	年六月二十日	叙奏任官四等賜下給俸
同	年七月二日	第二部長ヲ命ス
同	年七月二日	滋賀縣會計主務ヲ命ス
同	年七月二日	文官普通試驗委員長ヲ命ス
同	年十一月二十日	第一部長兼勤ヲ命ス
同	二十三年一月二十四日	第一部長ヲ命ス
同	年一月二十日	滋賀縣會計主務ヲ免ス
同	年二月四日	官報々告主任ヲ命ス
同	年二月二十日	知事代理ヲ命ス
同	年三月四日	知事代理ヲ解ク
同	年三月十九日	文官普通試驗委員長ヲ命ス
同	年五月二日	中級俸下賜

同	年十月十日	任奈良縣參事官
同	年十月十一日	叙奏任官四等
同	年十月十日	年俸千四下賜
同	年十月三十日	内務部第一課及兼務ヲ命ス
同	年十月二十日	文官普通試験委員及ヲ命ス
同	年十月二十日	内務部第二課及兼務ヲ命ス <small>内務部第一課及兼務也故</small>
同	年十月十六日	叙奏任官三等
同	年三月三日	叙從六位
同	年八月十六日	官等俸給令改正
同	年三月廿一日	任岡山縣書記官
同	年三月廿一日	叙高等官六等
同	年四月十日	文官普通試験委員及ヲ命ス
同	年三月廿七日	官報々告主任ヲ命ス
陸 軍		
明治	五年十月十二日	叙高等官五等
同	元年一月八日	非職ヲ命ス
同	年三月廿一日	明治三十八年叙及功ニ依リ全百五十四下賜
同	年五月四日	依願免本官
同	年三月三十日	叙正六位
同	年三月三十日	特旨ヲ以テ位一級被進
同	世年一月十八日	任貴族院書記官
同	年一月十八日	叙高等官五等
同	年一月十八日	四級俸下賜
同	年一月十九日	議事課勤務ヲ命ス
同	年三月十四日	會計課長ヲ命ス
同	年三月十四日	收入官吏ヲ命ス
同	年三月十四日	兼編纂課及議事課勤務ヲ命ス

同	年三月十七日	兼内務書記官
同	年三月十七日	叙高等官五等
同	年三月十七日	縣治局勤務ヲ命ス
同	年四月二十六日	三級俸下賜
同	年四月二十七日	任東京府書記官
同	年四月二十七日	叙高等官五等
同	年四月二十七日	文官普通試験委員長ヲ命ス
同	年四月二十七日	小學校教員檢定試験委員長ヲ命ス
同	年四月二十七日	神職尋常試験委員長ヲ命ス
同	年四月二十七日	社司社掌試験委員長ヲ命ス
同	年四月二十七日	官報々告主任ヲ命ス
同	年四月二十七日	主任收入官吏ヲ命ス
同	年四月二十七日	小學校教員恩給審査委員長ヲ命ス
同	年四月二十七日	臨時博覽會委員ヲ命ス
同	年五月六日	株式會社東京府農工銀行監理官ヲ命ス
同	年五月九日	東京市區改正委員ヲ命ス
同	年五月九日	東京市區改正委員會幹事ヲ命ス
同	年七月十九日	小學校教員檢定試験委員長ヲ命ス
同	年十月三日	年俸千貳百圓下賜
同	年十月十四日	叙高等官四等
同	年十月十四日	東京地方森林會議員ヲ命ス
同	年十月十四日	文官普通懲戒委員ヲ命ス
同	年十月二十七日	

同 年七月一日	府縣制第百四十三條、事審查委員長ヲ命ス
同 年十月二日	府縣制第百五十五條第三項ニ依リ東京府參事會員ヲ命ス
同 年十一月三十日	改正條約實施並地方制度實施ニ關スル勳勞不勤 ニ付特ニ金貳百五十圓賞與
同 年三月二日	依願東京市區改正委員會幹事被免
同 年四月一日	官等俸給令改正
同 年四月一日	一級俸下賜
同 年十一月三日	叙高等官三等
同 年三月十四日	叙從五位
同 年七月二十七日	叙勳五等授瑞寶章
同 年三月八日	任福井縣知事
同 年二月八日	叙高等官三等
同 年二月八日	三級俸下賜
明治三十五年七月五日	叙高等官二等
同 年三月十六日	叙正五位
同 年七月二十日	叙勳四等授瑞寶章
同 年七月十三日	今報宣戰奉告、為其管内官國幣社ハ敎使 參向被仰付
同 年八月十五日	今報平和克復ニ付奉告、為其管内官國幣 社ハ敎使參向被仰付
同 年七月十四日	二級俸下賜
同 年九月四日	叙勳三等授旭日中綬章
同 年四月一日	明治三十七八年事件、功ニ依リ勳三等旭日中 綬章及金貳千圓ヲ賜フ
同 年七月二十七日	任鹿兒島縣知事
同 年七月二十七日	叙高等官二等

同 年十二月二十七日	二級俸下賜
同四十二年四月十日	叙従四位
同 年十一月四日	一級俸下賜
同四十二年八月十七日	叙高等官一等
同四十二年四月一日	俸給令改正一級俸
同 年六月二十日	故松密顧問官子爵稅所篤薛送ノ節 幣帛下賜ニ付勅使被仰付
同四十四年七月四日	依願免本官
同 年七月四日	名古屋市長就任ノ裁可ヲ受ク
同 年八月二十日	貴族院令第一條第四項ニ依リ貴族院議員 ニ任ス
同 年九月十日	叙正四位
同 年九月十日	特旨ヲ以テ位一級被進
明治四十四年八月二十日	恩賜財團濟生會評議員ヲ囑託ス
同 年八月二十日	本年六月鹿児島縣民施療為金百円寄附 候餞奇特ノ為其賞木杵一組下賜候事
大正元年八月一日	明治十五年勅令第五十六号ノ旨ニ依リ韓國 合併記念章ヲ授英セラル
同三年十月十日	維新史料編纂會委員被仰付
同四年十一月一日	大正四年勅令第一五四号ノ旨ニ依リ大禮記念 章ヲ授英セラル
同五年四月一日	叙勲二等授瑞寶章
同 年四月一日	大正三年事件ノ功ニ依リ勲三等瑞寶章ヲ授賜テ
同六年一月二十日	名古屋市長退職
同 年一月二十日	大正三年一月鹿児島縣櫻島爆発際罹災窮 身金百円寄附候奇特ノ為其賞木杵一組下賜候事

同八年八月十五日	道路會議議員被仰付
同九年十月十日	東京市區改正ニ關シ盡力不勤ニ依リ 銀杯一組ヲ賜フ
同十年十月三日	日本赤十字社副社長被仰付
同十年十一月一日	大正四年乃至九年戰役ノ功ニ依リ金杯一箇ヲ賜フ
同十年七月一日	敕令第二七二號ノ旨ニ依リ國勢調査記念章ヲ授ク
同十二年七月二日	臨時六都市制度調査會委員被仰付
同十五年八月三十日	小作調査會委員被仰付
昭和三年十月一日	金杯一箇ヲ賜フ
同十年十月十日	昭和三年敕令第一八八號ノ旨ニ依リ大 禮記念章ヲ授與セラル

陸軍

17

陸昭第三一號

勅第一七七四號

官房第三九〇五號

昭和六年十二月十九日

叙勲ノ件進達

陸軍大臣 荒木貞夫

海軍大臣 大角岑生

内閣總理大臣 犬養毅殿

日本赤十字社副社長貴族院議員阪本鈔之助叙勲ノ件
右進達ス



裏面白紙

陸軍

十
日本赤十字社概要

167

日本赤十字社概要

一 目的

日本赤十字社は國際條約の主義に據り、列國赤十字社の協約に従ひ、戦時傷病者を救護し又天災事變の救護を爲すの外、健康の増進、疾病の豫防及苦痛の軽減を圖ることを目的とし、之に必要なる各般の事業を行ふものである。

二 起 原

本社は明治十年西南の役に當り、有志者が篤志救護團體「博愛社」を組織して、征討總督有栖川宮殿下の御允許の下に、征討軍及義軍の傷病者を救護したことに始まり、其の後小松宮殿下の有難い御命旨に遵つて本社を永續せしむることにしたのである。明治十九年政府の赤十字條約加入に伴つて、本社は亦翌三十年に社則を改め社名を日本赤十字社と稱し、萬國赤十字に同盟し大正八年赤十字社聯盟に加はることになつた。

明治三十四年政府は特に日本赤十字社條例を公布して、官憲と本社との關係及地位を明かにせられた。即ち本社は陸海軍の戦時衛生勤務を補助する目的を有すること、陸海軍大臣の監督を受けること、又社長、副社長は勅任せられること、その他本社に對し各般の便宜、保護を與へられること等を定められた。

三 帝室の恩眷

本社は、天皇、皇后兩陛下至高貴の御保護を仰ぎ、恒に帝室の優渥なる恩眷を忝くしてある。例へば最初本社を設けた時には、金千圓を下賜せられ其の後本社御補助として年々金五千圓、後壹萬圓に御増額下賜せらるゝのみならず更に資本として金十萬圓を賜はつた、又現今の病院を新築するに付ても建築並附屬品調製費として十萬圓を下賜せられ敷地も御料地を拜借し全部宮内省の御給を蒙つて出来た様な次第である。爾來病院へも度々御下賜金があつたが、本社は基礎が漸く確立するに及んで御下賜の年金を御辭退申上げたけれども、病院の方は尙ほ年々金壹萬圓を維持費として御下賜あらせられ、又、皇后陛下には毎年治療費の御補助を賜はるのみならず、寒氣の初

には入院中の救助患者に反物並裁縫料を御惠みになつてゐる。本社總會の折には毎に皇后陛下行啓を仰出され、社業御獎勵の旨を賜はる例になつてゐる、又時には本社及病院に親臨あらせられ、實況を御覽せらるゝこともあり、一同感激いたしてゐることである。

本社の特別社員には御苑の拜觀を蒙許され、佩有勳章者には宮城内の拜觀、又陸軍大演習の際には陪觀及賜儀の恩命を忝くする例になつてゐる。昭憲皇太后は本社創立以來社業を勸奨あらせられたが、更に明治四十五年全世界に亘り赤十字社の平時救護事業御獎勵の恩召を以て、萬國赤十字社聯合に對し金十萬圓御下賜あらせられた。此の賜金は、皇太后の御名を戴き「昭憲皇太后基金」と稱せられ赤十字國際委員會之を管理し、毎年四月十一日、皇太后の御祭日を記念として基金の利子配賦方を申出の赤十字諸社に分贈されて居る。世界人道に及ぼす其の絶大なる効果を思ふと今更ながら窮りなき御遺徳を仰ぐ次第である。

四 本社の組織

本社は皇族を總裁に推戴し、其の下に社長、副社長、理事、常議員、監事を置いて、

各其の職制を定め、社務を周到に處理してゐる。

本部を東京に置き、支部を地方廳(臺灣には總督府)所在地に設け更に支部の下に市役所(北海道には支廳及市役所、東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市にては區役所)所在地に委員部を設け、又町村役場所在地に分區を設け、地方長官に支部長を、市長(北海道には支廳長及市長、東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市にては區長)に委員長を、町村長に分區長を囑託し、朝鮮、滿洲、樺太、臺灣にも略ぼ同様の機關を置き、外國にも必要の場所に特別委員部を置き現在十一箇所に及んでゐる。右の外府縣の支廳所在地には特に委員部を設けた所もある。

五 事業の大略

(1) 戦時救護事業

イ 救護準備 本社が救護事業を遂行するには、之に當る人々之に要する材料とを準備せねばならぬこと勿論である。此の準備定員は救護醫員四百九十六人、救護看護婦

長四百六十八人、救護看護人長二十八人、救護看護婦六千九百三十八人、救護看護人三百六十八人合計八千七百七十四人であつて、之を以て看護婦組織の救護班百七十九箇、看護人組織の救護班十箇、病院船二隻、病院列車二列車及若干の救護自動車を編成することになつてゐる。昭和五年四月現在の救護員は救護醫員二百五十九人、救護看護婦長二百七十一人、救護看護人長三人、救護看護婦五千五百八十八人、救護看護人九千四百六十七人である。又本部に屬する救護材料準備品は大震災の爲めに殆ど全部喪失したが、年度計畫を立て、其の復興に努め、今や其の大部は整備してゐる。各支部に於ける救護準備は皆其の分擔に應じて整備されてゐる。

ロ 救護看護婦、看護人の養成 元來本社及支部の病院は救護員の養成機關として設立せられたものであるから、前記の救護準備定員に要する救護看護婦及救護看護人の生徒は皆各病院に分賦して之を養成してゐるのである。看護婦生徒は十六年以上二十五歳未満の女子を採用するのであつて、三年間社費を以て教育し、卒業すれば之に救護看護婦を命じ、二年間何時でも本社に召集し應ずる義務を負ふのであるが、目下千五百餘人の生徒を養成してゐる。又看護人生徒は年齢二十年以上四十五歳未満の男子

を採用するのであつて、十箇月間社費を以て教育し、卒業すれば之に救護看護人を命じ、十年間何時でも本社に召集し應ずる義務を負ふのである。

下賜あらせられ、又 皇后陛下には毎年慶奉費の御補助を賜はるのみならず、実氣の朝

には入院中の救助患者に反物並裁縫料を御恵みになつてゐる。本社總會の折には毎に 皇后陛下行啓を仰出され、社業御奨励の令旨を賜はる例になつてゐる。又時には本社及病院に親臨あらせられ、實況を察せられたることもあり、一同感激いたしてゐる ことである。

本社の特別社員には御遊の拜觀を差許され、頗有功業者には宮城内の拜觀、又陸軍大 宿習の際には陪觀及賜儀の恩命を蒙る例になつてゐる。 昭憲皇太后は本社創立以來社業を勸奨あらせられたが、更に明治四十五年全世界に亘 る赤十字社の平時救護事業御奨励の思召を以て、萬國赤十字社聯合會對し金十萬圓御 下賜あらせられた。此の賜金は、皇太后の加名を戴き「昭憲皇太后基金」と稱せられ、 赤十字國際委員會之を管理し、毎年四月十一日、皇太后の御祭日を記念として基金の 利子配賦方を申出の赤十字諸社に分割されて居る。世界人道に及ぼす其の絶大なる効 果を想ふとき今更ながら窮りなき御遺徳を仰ぐ次第である。

四 本社の組織

本社は皇族を總裁に推戴し、其の下に社長、副社長、理事、常議員、監事を置いて、

各其の職制を定め、社務を周到に處理してゐる。

本部を東京に置き、支部を地方廳、奉天にては總督府所在地に設け更に支部の下に市 役所、北海道にては支廳及市役所、東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市にては區 役所、所在地に委員部を設け、又町村役場所在地に分區を設けあり、地方長官に支部長 を、市長（北海道にては支廳長及市長、東京市、京都市、大阪市、名古屋市及横濱市にて は區長）に委員長を、町村長に分區長を囑託し、朝鮮、滿洲、樺太、臺灣にも略ぼ同様 の機關を置き、外國にも必要の場所に特別委員部を置き現在十一箇所に及んでゐる。 右の外前縣の支廳所在地には特に委員部を設けた所もある。

五 事業の大略

(1) 戦時救護事業

イ 救護準備 本社が救護事業を遂行するには、之に當る人々之に要する材料を準備せねばならぬこと勿論である。此の準備委員は救護委員四百九十六人、救護看護婦

長四百六十人、救護看護婦長二十八人、救護看護婦六千九百三十人、救護看護婦人三百 六十人合計八千二百七十四人であつて、之を以て看護婦組織の救護班百七十九箇、看護 婦人組織の救護班十箇、病院船二隻、病院列車二列車及若干の救護自動車で編成する ことになつてゐる。昭和五年四月現在の救護委員は救護委員二百五十九人、救護看護婦 長二百七十一人、救護看護婦長三人、救護看護婦五千五百八十八人、救護看護婦人九十四 人合計六千二百七十七人である。又本部に屬する救護材料準備品は大震災の爲めに殆ど 全部喪失したが、年度計畫を立て、其の復興に努め、今や其の大部は整備してゐる。

ロ 救護看護婦、同看護人の養成 元來本社及支部の病院は救護員の養成機關として 設立せられたものであるから、前記の救護準備委員に要する救護看護婦及救護看護婦人 の生徒は皆各病院に分賦して之を養成してゐるのである。看護婦生徒は十六年以上二 十五年未満の女子を採用するのであつて、三年間社費を以て教育し、卒業すれば之に 救護看護婦を命じ、十二年間何時でも本社の召集に應ずる義務を負ふのであるが、目下 千五百餘人の生徒を養成してゐる。又看護人生徒は年齢二十年以上四十五年未満の男子

を採用するのであつて、十箇月間社費を以て教育し、卒業すれば之に救護看護婦人を命 じ、十年間何時でも本社の召集に應ずる義務を有するのである。

ハ 軍人傷病者救護 本社の主たる目的は戦時陸海軍の衛生勤務を援助することにあ るから、戦時に際しては病院船、病院列車、救護自動車等を以て軍人傷病者を輸送し又救 護班を陸海軍の病院、病院船、病院列車、患者自動車等に派遣して勤務に服せしむること 勿論であるが、尙其の外に戦地住民の傷病者をも救療することがある。昭和三年支 那動亂に際しては、同仁會濟南醫院内に本社救護所を設けて、支那側傷病者の救護を行 ひ、臨時救護班を陸軍運輸部に派遣して、陸軍患者輸送船の船内救護に従事せしめた。

ニ 俘虜救恤 俘虜は軍人傷病者と同じく戰鬥力を失つたもので既に國際條約に於て も之を保護することに定めてあるが、明治四十五年米國華府に開かれた第九回萬國赤 十字總會でも、各國赤十字社は俘虜を救恤すべきことを決議した。その後間もなく起 つた歐洲大戦の際には、本社は直に我國内及西比利に抑留されてゐた獨、地、洪、土 等各國の俘虜の救恤を行つた。尙其の以前日清、日露の戦役に際しても、本社は此の 事業を實施した。

四 平時事業

イ 災害救護 地震、火災、洪水、暴風、海嘯、噴火、艦船及汽車遭難等の災害に際し機 宜を失せず傷病者其の他を救護し其の苦痛を軽減することは最切實なる業務である。 本社は急に應じて救護に此の事業を遂行せんが爲め豫め支部をして救護員及救護材料 を準備せしめ、何時にても活動することを得るやうにし、支部長は地方長官と連絡し て之を統轄し實施することにしてゐる。

明治二十一年釜山噴火の時、昭憲皇太后の仁慈なる思召を奉體して救護員を派遣 したので、本社の災害救護を爲した初めである。爾來毎年數萬人を救護したのである が、殊に大正十二年の大震災には百七十九箇の應急救護所を設け、又東京本社病院 及産院を擴張すると共に臨時救護班の病院、傳染病院、産院、乳兒院、兒童收容所等を 開き、四千四百六十餘人の救護従事員を以て、二百餘萬人を救護したのは、近來の顯 著なる事業である。又大正十四年及昭和二年の山陰地方に於ける震災に當つても、直 に救護班を出し又臨時の病院等を開いて救護に力を盡し、其の各地に起る大小の災

害に際しては毎に救済を實施したのである。

口 結核預防撲滅 明治四十年英國會教に開かれた第八回赤十字國際會議決議の主旨に基き、本社は大正三年結核預防撲滅の事業を開始し、各地に診療所を設けて患者の早期発見に努め、又收容機關として療養所十箇所を特設し、又は本社及支部病院内に結核病室を置き、或は他の病院、醫院等に收容を依頼して、病者の散逸を防止することに努めてゐる。其の外衛生展覽會、講話又は印刷物の配布等に依り、公衆に對し結核の預防撲滅に關する智識の啓蒙普及を圖つてゐる。

ハ 救療 貧困患者の救療は、目下東京本社病院の外二十四箇の支部病院、三十七箇の診療所、二十六箇の巡回診療所等之を實施して毎年數萬人の患者を救療してゐる。
ニ 兒童及妊産婦保護 兒童を保護して其の健康を圖るには先づ妊産婦の保護を必要とする見地から産院、妊産婦保護所等々を設け、又産後を得難き僻遠の地には巡回産婆を派出していづれも主として無料の取扱を爲し、其の他産婆養成所十二箇所を設けて目下産婆生徒三百餘人を養成してゐる。兒童保護の爲めに兒童健康相談所を設けて保育の相談に應じ、又毎年小學校の夏季休暇を利用して、臨時に海濱又は林間に保養所を設

けて虚弱兒童を養護し、又千葉県富津に海濱學校を常設して虚弱兒童を收容し體質の改善を圖ると共に小學校の課程を授けてゐる。其の他小學校に看護婦を派遣して兒童衛生を補助し、或は兒童の養護者に對し講習會を開いて養護上の智識の普及に努めてゐる。

ホ 衛生講習會 我國現在の衛生状態に鑑み衛生教育の普及を以て昭和二年より各地に於て衛生講習會を實施することゝしてゐるが漸次盛況に向ひつゝある。

ヘ 少年赤十字 大正九年福西國「ジュネーヴ」に開かれた第一回赤十字社聯盟總會の決議に従ひ、本社は大正十一年以來少年赤十字の事業を實施してゐる。小學校の教育當局者を登用して、五學年以上の男女兒童を以て少年赤十字團を組織せしめ、教師が(一)博愛の精神即ち人道の尊重(二)良國民たるの理解、體得(三)健康の保全及増進に關し、實際的教育を施すに當り之を活用するを以て其の趣旨とする。最近殊に著しき進歩をなして、昭和五年四月末日に於てその團數六千〇五十九、參加學童數百四十二萬〇百四十八人に及び、益々増加の狀況を呈し堅實なる發達をなしつゝある。

(四) 國際救護事業

各國赤十字社間には戰時でも亦災害の時でも互に救護上の協力をなすべき規約もあり先例もある。日清、日露の戰役、東北地方の飢饉、關東の大震火災、近くは丹後地方の大震災に當り外國から資金又は衛生材料を寄贈せられ、或は救護員を以て協力を與へられて救護實施上多大の便宜を得たが、本社は亦屢々外國に對して協力した、曾ては土、米、伊、支等各國の難船、震災、火災、洪水等近くは白、蘭、暹、滿洲、埃瑪、葡、アルメニア、米國フロリダ州、馬來半島、支那、佛國等に火災、震災、山火、飢饉、風害等ありし時又歐洲大戦の際英、葡、或各國並西比利、薩哈噠及支那擾亂の際にも救護員を派遣し、若くは金品を寄贈し其の地波蘭國兒童及露國避難民を救助し、勃爾牙利亞避難民救濟資金の寄贈を爲したることなどは其の著しき例である。

(4) 參考館、雜誌刊行等

本社創立以來五十年を経過して其の實施した各般の事業は指を偲ぶるに遑がないのである。此の過去の歴史を回顧し又將來に向つて社業の參考に資し且廣く本社に對する世人の理解と協力とを得んが爲めに、常設公開の參考館を東京芝公園所在の本社構内に建設した。此の參考館には本社の沿革、事業及外國赤十字の狀況並に本社事業の一たる通俗衛生教育に關する各種の資料を陳列し、又圖書室、講堂を設けて常に閱覽、集會等の用に供し、時々衛生講話活動寫真會を開催して赤十字主義の普及に努め世益を圖りつゝある。此の參考館建設に同一の趣旨に依り、機關雜誌「博愛」を月刊して社業宣傳の使命を帯びしめてゐる。尙英文雜誌「ジャパンマガジン」に本社の記事掲載せしめて居る。少年赤十字の發展と共に最近雜誌「少年赤十字」を創刊した。其の他海外赤十字彙報、海外少年赤十字彙報を初め隨時各般の印刷物を學事、衛生、社會事業の當局者に寄贈し、時々參考館に特別展覽會を開催し又陳列品を各支部に貸出し其の外各地に參考資料を出品陳列して觀覽に供する等社旨の普及に努めてゐる。

六 社 員

本社の事業の實施と之に要する準備とは多額の資金を要することであつて、それは本社の現在有する資産だけでは到底不充分なので、之は一に人道博愛の崇高なる觀念と報國奉公の眞摯なる精神とを以て、本社の趣旨に賛同する人々の淨財に依つての外はない。内外國人を問はず、男女老幼を論せず、誰でも社員たることを得るのであつて、年々金三圓以上を十年間積出するか、又は一時に金二十五圓以上を積出する者を終身正社員とし、金二百圓以上の寄附者を特別社員に推薦し、金千圓以上の寄附者に對しては、一々上奏、勅諭を経る之に有功章を贈り、金壹萬圓以上の寄附者には有功章の外に、政府より紺綬褒章を授與せられ特殊の特遇を賜はることになつてゐる。其の他本社に對し金壹百圓以上を寄附する者は總て褒賞條例に依り政府より表彰せられる。又社員の佩用する本社の記章は、政府より受くる勳章及記章と共に公然佩用することを得られてゐる。之は獨り本社員のみならず有する特典であつて他に例がない。

七 本社役員

現在本社の役員は左の通りである。

- 社長 公府 徳川家達
- 副社長 公府 徳川 團順
- 理事 長崎省五 澤 颯之丞 桑田 熊藏 阪本 彰之助
- 理事 長崎省五 澤 颯之丞 桑田 熊藏 松井 茂

- 候爵 大久保 利武 鶴田 順次郎 窪田 静太郎
- 常議員 子爵 石黒 忠恵 子爵 實吉 安純 落合 泰藏 原 保太郎

改善を期すと共に小学校の課程を授けてゐる。其の他小学校に看護婦を派遣して児童衛生を援助し、或は児童の養護者に對し講習會を開いて養護上の智識の普及に努めてゐる。

ホ 衛生講習會 我國現在の衛生状態に鑑み衛生教育の普及を以て昭和二年より各地に於て衛生講習會を實施することとしてゐるが漸次盛況に向ひつゝある。少年赤十字 大正九年暹羅西國「ジュネーグ」に開かれた第一回赤十字社聯盟總會の決議に従ひ、本社は大正十一年以來少年赤十字の事業を實施してゐる。小學校の教育當局者を登壇して、五學年以上の男女児童を以て少年赤十字團を組織せしめ、教師が(一)博愛の精神(二)人道の尊重(三)良國民たるの理解、禮得(四)健康の保全及増進に關し、實際的教育を施すに當り之を活用するを以て其の趣旨とする。最近殊に著しき進歩をなして、昭和五年四月末日に於てその團數六千〇五十九、參加學童數百四十二萬〇百四十八人に及び、益々増加の狀況を呈し堅實なる發達をなしてゐる。

(3) 國際救護事業

各國赤十字社間には戰時でも亦災害の時でも互に救護上の協力をなすべき規約もあり先例もある。日清、日露の戰役、東北地方の飢饉、關東の大震火災、近くは丹後地方の大震災に當り外國から資金又は衛生材料を寄贈せられ、或は救護員を以て協力を與へられて救護實施上多大の便宜を得たが、本社は亦屢々外國に對して協力した、曾ては土、米、伊、支等各國の難船、震災、火災、洪水等近くは白、蘭、墨、澳洲、政瑪、葡、アルメニア、米國フロリダ州、馬來半島、支那、佛國等に火災、震災、山火、飢饉、風害等ありし時又歐洲大戦の際英、佛、露各國並西比利、薩哈曉及支那擾亂の際にも救護員を派遣し、若くは金品を寄贈し其の他波蘭國兒童及露國避難民を救助し、勃爾牙利亞避難民救濟資金の寄贈を爲したことなどは其の著しき例である。

(4) 参考館、雜誌刊行等

本社創立以來五十年を経過して其の實施した各般の事業は指を便ふるに遑がないのである。此の過去の歴史を回顧し又將來に向つて社業の参考に資し且廣く本社に對する世人の理解と協力を得んが爲めに、常設公開の参考館を東京芝公園所在の本社構内に建設した。此の参考館には本社の沿革、事業及外國赤十字の狀況並に本社事業の一たる通俗衛生教育に關する各種の資料を陳列し、又圖書室、講堂を設けて常に閱覽、集會等の用に供し、時々衛生講話活動寫眞會を開催して赤十字主義の普及に努め世益を圖りつゝある。此の参考館建設と同一の趣旨に依り、機關雜誌「博愛」を月刊して社業宣傳の使命を帯びしめてゐる。尙英文雜誌「ジャパンマガジン」に本社の記事掲載せしめて居る。少年赤十字の發展と共に最近雜誌「少年赤十字」を創刊した。其の他海外赤十字會報、海外少年赤十字會報を初め隨時各般の印刷物を學事、衛生、社會事業の當局者に寄贈し、時々参考館に特別展覽會を開催し又陳列品を各支部に貸出し其の外各地に參考資料を出品陳列して觀覽に供する等社旨の普及に努めてゐる。

六 社員

本社の事業の實施と之に要する準備とは多額の資金を要することであつて、それは本社の現在有する資産だけでは到底不充分なので、之は一に人道博愛の崇高なる觀念と報國本公の眞摯なる精神とを以て、本社の趣旨に賛同する人々の淨財に俟つの外はない。内外國人を問はず、男女老幼を論せず、誰でも社員たることを得るのであつて、年々金三圓以上を十年間輸出するか、又は一時に金二十五圓以上を輸出する者を終身正社員とし、金二百圓以上の寄附者を特別社員に推薦し、金千圓以上の寄附者に對しては一々上奏、勲章を経て之に有功章を贈り、金壹萬圓以上の寄附者には有功章の外に、政府より紺綬褒章を授與せられ特殊の待遇を賜はることになつてゐる。其の他本社に對し金壹百圓以上を寄附する者は總て褒賞條例に依り政府より表彰せられる。又社員の佩用する本社の記章は、政府より受ける勳章及記章と共に公然佩用すること許されてゐる、之は獨り本社員のみならず有する特典であつて他に例がない。昭和四年十二月現在の社員總數は二百五十三萬四千七百二十一入である。

七 本社役員

現在本社の役員は左の通りである。

- | | | | | |
|-----|----------|-------|---------|----------|
| 社長 | 公府 徳川家達 | 副社長 | 公府 徳川國順 | 阪本彰之助 |
| 理事 | 長崎省吾 | 澤 龍之丞 | 桑田熊藏 | 松井 茂 |
| 候爵 | 大久保利武 | 窪田静太郎 | | |
| 常議員 | 子爵 石黒忠恵子 | 實吉安純 | 落合泰藏 | 原 保太郎 |
| | 淺田徳則 | 服部金太郎 | 大島健一 | 候爵 絲須賀正昭 |
| | 伯爵 佐野常羽 | 志村源太郎 | 子爵 花房太郎 | 塚本清治 |
| | 男爵 古河虎之助 | 木下正中 | 平野 勇 | 宇佐美勝夫 |
| | 星野 錫 | 中川 望 | 平塚廣義 | 山田準次郎 |
| 監事 | 荒井賢太郎 | 正木勝次郎 | 内藤久寛 | |

日本赤十字社

東京市芝區芝公園五號地
電話 日 一、〇〇一番 一、〇〇二番
一、〇〇三番 一、〇〇四番
昭和五年六月印行

✚
昭和四年度事業年報

日本赤十字社

168
169

昭和四年度事業年報

目次

一 帝室ノ恩答	一頁
二 總會	一
三 社員	一五
四 表彰	一六
五 救護準備	一七
六 救護事業	一九
七 參考館	五七
八 少年赤十字	六〇
九 外國關係	六八
十 合計	七六

170

十一 名譽職並有給職員	一〇三
十二 雜件	一一九
十三 篤志看護婦人会	一二五
附 表	
一 社員統計表	
二 土地建物一覽表	
三 支部職員一覽表	
四 支部、朝鮮本部、奉天病院職員一覽表	
五 篤志看護婦人会職員並會員數一覽表	

昭和四年度事業年報

一、帝室ノ恩眷

○金品御下賜
天皇
皇后兩陛下ヨリ本社病院維持費金壹萬圓及
皇后陛下ヨリ本社病院救助患者施設費金五千圓例年ノ通御下賜アラセラルレ尙尙寒ニ際
シ本部及地方部各病院救助入院患者三百八十四名ニ對シ前年ト同ク木綿衣ヲ御下賜ア
ラセラルレ十二月十六日拜受セリ

二、總會及御親授

○本社通常總會
五月十四日東京市赤坂區青山權田原町憲法記念館構内ニ於テ本社第三十七回通常總會
ヲ舉行セリ當日

皇后陛下御名代トシテ博恭王妃經子殿下ヲ御差遣アラセラレ候殿ニ於テ御休憩中徳川副社長(平山社長病氣ニ付)報告書其ノ他ノ書類ヲ上リ社業ノ現況ヲ言上シテ後職員ニ拜謁ヲ賜ハレリ

午前十時十五分 總裁宮兼仁親王殿下御臨場副社長侯爵徳川國順議長席ニ著キ開會ヲ宣告シ昭和三年度事務算決算ノ報告ヲ爲シタル後同副社長ノ御先導ニテ 御名代宮殿下御臨場 皇后陛下ヨリ賜ハレル 令旨ヲ御代讀アラセラレ 總裁宮殿下ノ奉答アリ 畢テ議長開會ヲ宣告シ 御名代宮殿下御退場アラセラレタルハ午前十時二十六分ナリ 是日雅仁親王妃殿下、東伏見宮妃殿下、守正王妃殿下、鳩彦王妃殿下、春仁王妃殿下 台臨アラセラレ陸軍大臣代理阿部信行氏、海軍大臣代理山梨勝之進氏等列席セリ社員及職員ノ參會セシ者五千三十二名ニシテ 令旨及奉答左ノ如シ

令旨

日本赤十字社ハ本日茲ニ第三十七回ノ總會ヲ開クニ至レバカ諸般ノ事業益順調ニ進ミ殊ニ海外赤十字社トノ聯絡密接ヲ加ヘ其ノ聲譽内外ニ揚カラル多トス尙客年ノ支

那事變ニ際シテハ機宜ヲ失ハス直ニ臨時救護班ヲ派遣シ良好ノ成績ヲ收メタルヲ喜ブ總裁以下各員ノ勞苦想フヘシ今後更ニ人類ノ福祉増進ノ爲メ一致努力セムコトヲ望ム

奉答

日本赤十字社第三十七回通常總會ヲ開クニ方リ

皇后陛下御名代ヲ差遣ハサレ優渥ナル令旨ヲ賜フ光榮之ニ過クルナシ願フニ本社ノ事業逐年發達シ社運隆昌ニ趨キツ、アルハ偏ニ

陛下ノ懿徳ニ由ル所ニシテ洵ニ感激ノ至ニ勝ヘス今後一層諸員ヲ皆勵シテ人類幸福ノ増進ニ努メ以テ鴻恩ニ報イ奉ラムコトヲ期ス茲ニ謹ミテ奉答ス

○御視察

本社總會ノ前日五月十三日午前十時 總裁宮殿下ニハ本社ニ台臨アラセラレ本館樓上ニ於テ徳川、阪本兩副社長(平山社長病氣ニ付缺席)、各理事侍立ノ上午前、午後ニ涉リ 篤志者及功勞者九十二名ニ有功章ヲ、九百九十六名ニ特別社員章ヲ御親授アラセラレ

福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	靜	愛	三	奈	栢
井	田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	梨	岡	知	重	良	木
	一				八	三	一	二				一			
					六	一	一	一							
二	一				五	三	三	一	一	七	三	二	一	二	二
三	二	六	八	八	二	一	八	一	二	〇	八	三	五		
二	二				八	五	三	一	二	二	〇	三	六		
二	一	六	九	九	八	五	三	一	二	二	〇	三	六		
二	一	六	九	九	八	五	三	一	二	二	〇	三	六		

章記又ハ推薦書ハ徳用副社長ヨリ所管毎ニ各主事ニ交付セリ御親授人員内詳左ノ如シ

昭和四年五月十三日御親授受章者調

茨	千	群	埼	新	長	兵	神	大	京	北	所
城	葉	馬	玉	潟	崎	庫	奈	阪	都	海	管
							川			道	別
							縣				有
一	一	二	一	二			一	二	二	二	志
六							四				功
											功
											章
											勞
											賞
											特
											別
											社
											員
											章
											勞
											計
四	三	三	三	五			五	二	二	一	八
一	六	二	二	二			二		七		
四	二	一	一	一			一	二			
七	五	四	五	一			六		二	二	四
二	九	七	五	九			八		一	二	

當支部ハ明治二十七年創立以來年々遂ウテ隆盛ニ趨キ殊ニ今回ノ總會ニ際シ社員著シク増加シ本日ノ盛況ヲ呈セルハ諸氏盡力ノ致ス所ニシテ洵ニ嘉スヘシ

當地ハ往古ヨリ海外文物ニ接觸シ開明ノ先驅ヨルノ地ナリ諸氏其ノ歴史ニ鑑ミ更ニ一層協力發奮シ以テ國家ニ貢獻シ本社ノ聲譽ヲ中外ニ發揚セムコトヲ望ム

由日支部社員總會 四月十七日由日市山口高等商業學校校庭ニ於テ第四回社員總會及同支部療養院開院式暨同支部病院創立十周年記念式ヲ舉行ス 總裁宮殿下台臨アラセヨレ平山社長隨從セリ開會前縣廳正廳ニ於テ平山社長、大森支部長、赤松副長侍立ノ上篤志者及功勞者ニ有功章又ハ特別社員章ヲ御親授アラセラレテ總會場ニ台臨左ノ御諭旨ヲ賜フ

御諭旨

日本赤十字社由日支部第四回社員總會及同支部療養院開院式暨同支部病院創立十周年記念式ニ臨ミ茲ニ諸氏ト觀シク相見ルヲ得タルハ欣喜ニ堪ヘス

當支部ハ創立以來年々遂ウテ隆盛ニ趨キ兒童、新産婦保護、少年赤十字、療養院ノ

事業等其ノ計畫宜シキヲ得殊ニ病院ノ經營ハ優良ナル成績ヲ舉グ本日ノ盛況ヲ呈セルハ諸氏カ直接間接ニ盡力侍候セル結果ニシテ洵ニ嘉スヘシ

諸氏猶一層協力シテ本社事業ノ伸張ニ努メ他ノ模範タルヲ期セムコトヲ望ム

○朝鮮本部社員總會 朝鮮本部ハ 總裁宮殿下ノ密室ヨリ朝鮮博覽會へ御差遣相成リタル御序ヲ以テ 殿下ノ台臨ヲ仰キ十月三日京城昌德宮秘苑ニ於テ第四回社員總會ヲ開催シ理事侯爵大久保利武隨從セリ此ノ日總會場ニ於テ賜ヘリタル御諭旨左ノ如シ又前日(十月二日)總督府第一會議室ニ於テ大久保理事、兒玉總長等侍立ノ上社費ヲ補助セル篤志者ニ對シ有功章又ハ特別社員章ヲ御親授アラセラレシ

御諭旨

日本赤十字社朝鮮本部第四回社員總會ニ臨ミ茲ニ諸氏ト相見ルヲ得タルハ欣喜ニ堪ヘス

當本部ハ創立以來逐年隆昌ニ趨キ病院ノ經營、少年赤十字ノ事業等其ノ計畫宜シキヲ得殊ニ社員著シク増加シ本日ノ盛況ヲ呈セルハ諸氏盡力ノ致ス所ニシテ洵ニ嘉ス

ハシ
 諸氏更ニ一層協力シテ本社事業ノ進展ヲ圖リ益人進ニ貢獻セムコトヲ望ム
 ○地方部ニ於ケル御親授御親問 總裁宮殿下ノ台臨ヲ仰キ有功章、特別社員章等ノ御親授、少年赤十字團員ノ御親問ヲ仰キタル地方部左ノ如シ

所管別	月	日	御親授 御親問	御親授場 御親問場
東京	五月	八日	一八	支那樓上
大阪	四月	八日	六三	新築支那樓上
長崎	四月	十五日	一九	縣廳正廳
岡山	四月	十九日	一五	二五 借行社
山口	四月	十七日	三三	縣廳正廳
朝鮮	十月	二日	三三	三三 總督府會議室

附記 前掲ノ外大阪支部ニ於ケル全壹萬圓以上ノ寄附者十一名ニ對シ四月八日支部樓上ニ於テ全壹ヲ御親授アラセラレタリ

○委員部及分區總會、委員部及分區數

所管別	委員部總數	分區總會數	委員部數	分區數
北海道			二二	二六三
東京			一九	一七二
京都			八	三六〇
大阪			一六	二四五
神奈川縣			七	一五八
兵庫			五	四一五
長崎			五	一八四
新潟			四	四〇〇
埼玉			一	三六八
群馬			三	二〇三
千葉			一	三四六
茨城			一	三八〇
栃木			二	一七五

宮	熊	佐	大	福	高	愛	香	徳	和	山	廣	岡	島	島	富
									歌						
崎	本	賀	分	岡	知	綾	川	島	山	口	島	山	根	取	山
二	四	一九	六八	六九		一六	六	一	一七	一五	一二	一			二
三	二	一	三	八	二	四	二	一	一	三	六	三	一	三	二
九六	三二八	一三一	二五三	三二二	一八九	二七六	一七二	一三六	二二四	二一七	三八一	三八七	二七八	一八二	二六三

石	福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	靜	愛	三	奈
川	井	田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	梨	岡	知	重	良
六															
一	三	一	三	五	二	三	二	三	三	二	一	四	八	四	二
二一八	一七三	二二六	二二六	一六四	二二二	三六四	二〇二	三九	三三五	二〇〇	二〇二	三一七	二三五	三三五	一五一

鹿兒島	三	一四三
沖繩	四	五四
臺灣	五五	二八〇
計	三一〇	一、九六九
滿洲委員會	二四七	一、九六九
朝鮮本部	一五	一六
樺太委員會	一三	一三
樺太委員會	九	一一三

附記 本年中新設セラレタル委員部左ノ如シ

- 新潟支部 佐渡郡委員部
- 愛知支部 瀬戸市委員部
- 青森支部 八戸市委員部
- 岡山支部 津山市委員部
- 山口支部 山口市委員部
- 愛媛支部 宇和委員部

大分支部 中津市委員部
三、社員

○名譽社員推崇
 恒徳王殿下ヲ十月四日名譽社員ニ推崇シ 勅裁ヲ經テ有功章ヲ奉呈シ英國皇族グロス
 ター公殿下ヲ五月八日名譽社員ニ推崇セリ

○名譽社員薨去
 名譽社員邦彦王殿下ハ一月二十七日薨去アラセラレ同松平乘承氏ハ七月十三日、同男
 爵平山成信氏ハ九月二十五日薨去セリ

○社員數

社員種別	増員		減員		現在數	本年末數
	名譽	持別	名譽	持別		
名譽	二	二	一	一	三	五〇
持別	三五六	一	一	一	一三五	六七〇

正計	七六二五四	五五二六	七〇二八	三六九三	二四四九	二四六三三九
	七九八二七	五五二六	七〇二八	三六九三	二四四九	二五五四七二

備考 一 有功章佩用者ノ總數ハ六千六百九十四名ニシテ其ノ内本年中新ニ贈

與セラレタル者三百四十六名ナリ

一 本年ニ於テ年饗金完納者ハ四萬六千四百八十九名ナリ

四、表彰

○社資ヲ補助セル篤志者又ハ社業上ノ功勞者ニ對シ本年中贈與シタル金、銀、木杯、謝狀其ノ他ノ數左ノ如シ

種類	個數	志功勞	計
金杯(一組)	五		五
金杯(二個)	二		二
銀杯(一組)	一		一
銀杯(二個)	一		一
謝狀	一四		一四
計			一五

種類	個數	計
木杯(一組)	二一三	二〇四
木杯(二個)	五三六	九四三
謝狀	九七	四八
置時計		二二
銀製懐中時計		九
金製手釦		四
計		四一七

○二期以上ノ年饗金出金者ニ對シ本年中贈與シタル篤志表章數及年末現在數左ノ如シ

- 一等篤志表章 九十四名
- 二等篤志表章 四十名
- 三等篤志表章 二百四十四名
- 年末現在數 五千二百七名(一、二、三等共)

五、救護準備

○救護團體

○救護員及同生徒

救護團體別	定	數	本年未現在	未完成數
看護婦組織救護班	一七九		一五八	二一
看護人組織救護班	一〇		三	七
病院	二			
列車	二			

○救護員及同生徒

職別	要員任用	解職	轉職	死亡	現在數	不足數	入學	卒業	退學	現存數
救護員	四六	一七	一三	一	二五九	二二七	一	一	一	一
救護看護婦長	四〇	一七	二五	一	二六二	一七〇	一	一	一	一
救護看護人長	二六	一	一	一	二五	二五	一	一	一	一
救護看護婦	六九〇	四七五	二六七	一七	五二五	一七〇	一	一	一	一
救護看護人	三〇	一	六	一	九	二六	一	一	一	一
計	八三〇	五五七	三三〇	一七	二二五	一八〇	三	三	三	三

備考 表中救護看護婦ノ轉職ハ救護看護婦長ニ任用セラレタル者、ハ印ハ救護看護婦長候補生ナリ

○救護材料

救護團體別	本年未現在數	品目	本年未現在數
看護婦組織救護班	一五八班分	治療器械類	一一、四三三點
看護人組織救護班	一〇班分	病衣類	二二、四四七枚
病院船用材料	二分	作業被服類	五、三二六枚
		器具類	五〇、三〇四點
		患者運搬具類	七二七個
		天幕	八八四張

六、救護事業

○災害救護

所管別	事件數	救護日數	救護患者實數	同上延人員	救護員數
長崎	一三	六三	一、〇三九	一、〇六一	四五
新潟	二六	六九	二〇九	六七七	一三
埼玉	四	一五	五七	五七	一四
群馬	一二	二〇	一一五	一一〇	六六
千葉	七	八	三七	三七	一二
茨城	五	一五	五〇六	五三八	八八
栃木	一八	三五	一九三	一九三	六三
奈良	三	三	九	九	一一
三重	一三	五七	四四〇	五一六	八二
愛知	二三	二九	二七二	二七二	一〇四
静岡	二四	五二	四一五	七〇一	九二
山梨	一	一	六	六	四
滋賀	一一	三三	一九四	二〇八	五九
岐阜	一一	四六	八〇四	三、七二九	三六
長野	三〇	一一三	四一三	七二四	一〇三
宮城	一五	二四	一〇三	一〇三	三三
福島	二二	四二	一九一	一九一	八九

所管別	事件數	救護日數	救護患者實數	同上延人員	救護員數
北海道	九	一一九	六九九	一、八三一	二五
東京都	一九	八九	六三八	一、五一一	一二六
東京都	三二	一九二	一、〇〇二	一、〇二六	一三四
大阪府	一七	三〇	四〇四	四〇五	一四七
神奈川県	一三	二三	一一七	一一七	四七
兵庫	五	七	七九	七九	二〇

内 譯

本年中各支部臨時救護所ニ於テ取扱ヒタル救護ノ状況左ノ如シ

事件數 六百三十七件

救護日數 二千二百二十四日

救護患者實數 一萬四千六百九十八名

同延人員 二萬二千七百二十五人

救護員數 二千六百四十九名

高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	島	富	石	福	秋	山	青	岩
知	媛	川	島	歌	口	島	山	根	取	山	川	井	田	形	森	手
四	一三	一四	一四	一五	一四	一一	三一	四	六	一五	一九	五	二	七	一九	一三
四三	九一	二六	二七	一二	三二	七一	五三	六	一〇	三〇	五二	二八	三	一三	三八	一七
一六八	三四五	九七	八八	一六一	九一	八三三	四四九	一九	一四	八九	二三一	二一六	四	三九	一四二	七一
一六八	三四五	九七	八八	一六一	九一	一、三五	四四九	一九	一四	一〇四	二二六	二二六	四	三九	一四二	七一
一一	五一	四三	四六	四〇	七四	五〇	一一八	一三	一八	四六	五一	二七	八	一八	八一	六二

福	大	佐	熊	鹿	臺	朝	滿
岡	分	賀	本	兒	灣	鮮	洲
九	八	八	一六	五	七	一三	三〇
三二	二二	二一	三二	九	七	二七	三二八
二七九	一五三	五九	一三六	四四	一五	二五六	二、七五七
二七九	一六四	五九	一三六	四四	一五	二五六	四、〇六一
四三	三〇	三五	五五	二一	二八	七九	八八

備考 本表中事件數ヲ種別スレハ火山爆發一件、電車衝突一件、火災九件、食中毒一件、其他雜件六百二十五件ナリ

○濟南ニ於ケル支那傷病者救護
昭和二年以來ノ支那山東地方ニ於ケル動亂ニ際シ本社ハ昭和三年一月及五月ノ兩度ニ互リテ同仁會經營ノ濟南醫院内ニ本社救護所ヲ設置シ支那傷病者ノ救護ヲ實施セシメタリシカ昭和四年ニ入り尙引續キ同事業ヲ繼續セシメ後同地方平靜ニ歸シタルヲ以テ

一月三十一日之ヲ閉鎖セリ本年間取扱ヒタル延患者數ハ入院百五十人、外來三百四十四人計四百九十四人ニシテ本事業開始以來累計入院二千六百四十五人、外來一萬七千七十八人總計一萬九千七百五十五人ニ達セリ
 ○常設診療所ニ於ケル救護

本年中東京、京都、大阪、神奈川縣、兵庫、愛知、静岡、岐阜、宮城、廣島、福岡、宮崎、臺灣ノ十三支部及滿洲委員部ノ診療所ニ於テ取扱ヒタル患者左ノ如シ
 外來患者實數 十一萬六千五百三十六名 內 無料 八萬三千四百一名
 同 延 人 員 百三萬七千七百十人 內 無料 七十四萬九千二百三十一人
 收容患者實數 九百六十六名 內 無料 三百四十五名
 同 延 人 員 二萬四千六百二十六人 內 無料 六千八百九十三人

所管別	患者數		收容患者數	
	區分	實數	區分	實數
東京	無料	六、二一一	實	五六、四四二

所管別	區分	患者數		收容患者數	
		有料	無料	區分	實數
京都	有料	一一、四三五	一一、四二二	實	三八八
京都	無料	二、四四七	四四、一一八	實	一五
大阪	有料	一、一一〇	二、六六二		
大阪	無料	一五、一四八	四一、九三八		
神奈川縣	有料	二、七二二	二六、五九九		
神奈川縣	無料	七、七二四	四七、八三〇		
兵庫	有料	三、七八五	四八、四二四		
兵庫	無料	七、一三八	一一、四八二		
愛知	有料	四、八七三	五二、〇六四		
愛知	無料	二、五六九	二一、七六三	二三三	六、六二九
静岡	有料	二、五〇八	三四、八四四	一七	七三七
静岡	無料	四、四二七	八〇、九八九	九九	三、二九三
岐阜	有料	三、七三六	四六、五〇八		
岐阜	無料	一、九一〇	二〇、八三五		
廣島	有料	二四、一四二	一九八、一五三		
廣島	無料	一六七	四、四九一		
福岡	有料	五、八六二	一七、九八五		
福岡	無料				

合	小計		滿洲	
	無料	有料	無料	有料
計	一一六、五三六	一、〇三七、七二〇	五、五六一	二七、五〇一
	八三、四〇一	二八八、四七九	二、〇六一	一〇、八六七
	三三、一三五	二八八、四七九	二、一四	二、五一六
	六二一	一七、七三三	一〇	一一二
	三四五	六、八九三		
	九六六	二四、六二六		

○巡回診療所ニ於ケル救護

本年中北海道、大阪、神奈川縣、兵庫、新潟、群馬、茨城、栃木、三重、静岡、滋賀、岐阜、長野、宮城、岩手、福井、鳥取、廣島、山口、徳島、香川、愛媛、臺灣ノ二十三支部及朝鮮本部、滿洲委員部ニ於ケル巡回診療所ニテ診療セシ患者數左ノ如シ

診療患者實數

八萬七千七百二十五名

同延人員

三十六萬四千五百五十八

内詳

所管別	患者實數	同上延人員
北海道	一、三八〇	一、八七五

大	神奈川	兵	新	群	茨	栃	三	靜	滋	岐	長	宮	岩	福	鳥	廣
飯	縣	庫	潟	馬	城	木	重	岡	賀	阜	野	城	手	井	取	島
四八五	六四六	一、〇三八	一、七三四	二、三四七	三、〇八三	一、二〇五	五、三七一	一、四八七	一、八五七	一、一五七	四、四二六	四、四二六	二、九六六	三、八八一	四、三五五	一、四四三
一、六四三	二、二六〇	三、五九五	九、二〇〇	一八、〇六九	一一、七〇〇	一、四五八	三三、二〇八	八、八九九	四、九九八	七三、九二二	一一、六八一	七、四七	七、一二九	三、二八二	四、六七	三、六一三

所管別	配置数	救急人員
京 都	四一五	二二、六七五
大 阪	二二二	二二、八〇八
埼 玉	一七	二六、四八二
奈 良	一九	一、一五
三 重	三〇	六八六
愛 知	三二九	二二、〇八九
静 岡	四二〇	五三、三八二
滋 賀	三三七	四一、六五六
岐 阜	二二〇	一三、三一七
岩 手	二	四九
青 森	四一	九二
石 川	一五九	九、三三九
富 山	二四五	二、八五〇
鳥 取	八	一、五八五

内 譯

所管別	配置数	救急人員
山 口	二、〇四九	二、〇四九
徳 島	一、二二二	一、一九九
香 川	二、二二四	四、四三五
愛 媛	七、九三三	一七、九四五
愛 媛	三、三一六	六、六二〇
海 部	五、九六六	一六、一八五
朝 鮮	一九、五七八	一〇七、三七一
滿 洲	八七、七二五	三六四、五五〇

備 考

本表中ノ大阪支部ハ十一月開設ス

○救急函ニヨル救護

本年中京都、大阪、埼玉、奈良、三重、愛知、静岡、滋賀、岐阜、岩手、青森、石川、富山、鳥取、廣島、山口、和歌山、徳島、愛媛、高知、福岡、佐賀ノ二十二支部、朝鮮本部、滿洲委員部ニ於テ設ケタル救急函ニテ救護シタル患者左ノ如シ

配 置 数
三千三百六十一個
救 急 人 員
三十五万二千六百八十八人

○結核豫防撲滅事業
 本年中各支部及朝鮮本部、滿洲委員部ニ於テ取扱ヒタル結核患者數左ノ如ク
 入院患者實數 千六百四十四名
 同延人員 十萬三千三十六人

廣島	山口	山形	和歌山	徳島	愛媛	高知	福岡	佐賀	朝鮮	滿洲	計
二四三	一五〇	八八	三三二	二	一六	一一〇	三五	六七	一四四	三、三六一	三〇三、六〇八
三八、五五三	三三、九一〇	三、一一〇	四〇八	〇	二、一一八	七六五	八五一	二、七五八	〇		

外來患者實數 八千七百十四名
 同延人員 十四萬六千八百八十八人

北海道	東北	東京	京都	大阪	神奈川	兵庫	長崎	新潟	埼玉	群馬	計
八	四	二〇	一〇一	一三八	三三	三	三	一	四	二〇九	六、〇〇三
八三八	八一四	一、八一三	五、四〇一	一三、八四七	一三三	二二三	二	二四	八一	七六四	一一、七〇六
一	三五二	三一	八三九	五〇四	一五	二	二	二	二	二	二
七二	四、七七〇	六、二五六	三、四、五六四	三、一七八	一〇四	七	七	七	七	七	七

熊	佐	大	福	高	愛	香	徳	和	山	廣	岡	島	島	富	石	福
本	賀	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山	根	取	山	川	井
四八	一一	一九	八	一〇	二五	一〇	八	五七	二八	七	五	二	七	七	二	
四、二二〇	七三六	一、〇九四	三三三	五二四	三、三一五	六三五	一、〇五八	四、〇二九	一、六六二	二五六	二二二	一三二	一、三六〇	一、三七四	六〇	
一七	三	一二八	六	二五	二〇	三	一七	一三	二六	八三	一六	一七一	二、六〇六	二、一六四	二、一六四	
七六八	一一	九、三七七	二四二	二五	一、三七四	一六三	一、三八五	四九四	一、三二五	三一五	六二八	二、六〇六	五三	三、九五八	三、九五八	

秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	靜	愛	三	奈	杉	茨	千
田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	梨	岡	知	重	良	木	城	葉
八八				二九	一五	五六	七六	一二〇	一四	八三	一五				七	七
四、四五五				三、六四七	一、二六一	二、一一九	三、三二五	七、〇一四	七六一	八、一七〇	一、八六五			六〇	六八六	七〇五
三二七	四	二	六	一	五	七	六二六	一七九	七五六	八〇	八			七	二	一六
五、七一三	三三九	二二六	七六四	三三	一九九	四、八四六	八、四八四	一、六八八	六、八一〇	三五〇	三九二			二七〇	三八	一、〇六八

宮	長	筑	同	愛	同	三	奈	新	茨	千	群	同	埼	同	神	大
城	野	草	知	知	河	夜	三	鹽	東	安	神	神	大	足	鎌	象
宮城郡七ヶ浜村	上木内郡似瀧尾村	宮城郡長島町	知多郡内海町	豊前郡大瀬町	河内郡白子町	夜台郡二見町	三重郡津市	鹽谷郡藤原村	東茨城郡磯原町	安房郡富田村	神奈川郡藤沢町	神奈川郡足子町	大里郡八基村	足柄下郡他石原村	鎌倉郡鎌倉町	象北郡土佐村
海濱	林間	林間	同	同	同	同	海濱	林間	同	同	同	同	同	林間	同	海濱
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

○児童養護

(一) 夏季児童保養所

イ 本社支部ノ單獨施設セルモノ

所	所在地	開設日数	男	女	計	備考
宮	鹿島	六	七	七	一四	四六二
鹿	鹿島	六	七	七	一四	一、二六六
沖	鹿島	六	七	七	一四	一、二六六
委	鹿島	六	七	七	一四	二、六二六
朝	鹿島	六	七	七	一四	八、八〇八
滿	鹿島	六	七	七	一四	六、〇九八
計		一、六四四	一、〇〇〇	三、一六六	八、七一四	一四〇、六八六

支 部	所 在 地	種 別	開 設 日 數	教 容	男 子 数	女 子 数	計 数	共 同 名 義 団 體 名
青 森	青森市	海濱	三	遊藝	一	一	二	一部、通所
山 形	西田川郡豊浦村	同	三	遊藝	一	一	二	一部、通所
福 井	敦賀郡松原村	同	三	遊藝	一	一	二	
石 川	河北郡七家村	同	三	遊藝	一	一	二	
富 山	上新川郡高岡町	同	三	遊藝	一	一	二	一部、通所
鳥 取	藤原郡大社町	同	三	遊藝	一	一	二	
阿 波	高松郡北条町	同	三	遊藝	一	一	二	
阿 波	高松郡北条町	同	三	遊藝	一	一	二	
山 口	徳島郡佐志村	同	三	遊藝	一	一	二	
愛 媛	高松市	同	三	遊藝	一	一	二	
福 岡	高松市	同	三	遊藝	一	一	二	
佐 賀	高松市	同	三	遊藝	一	一	二	
盛 岡	高松市	同	三	遊藝	一	一	二	
朝 鮮	京城英忠社公園	同	三	遊藝	一	一	二	

支 部	所 在 地	種 別	開 設 日 數	教 容	男 子 数	女 子 数	計 数	共 同 名 義 団 體 名
新 潟	新潟市開成区	海濱	三	遊藝	一	一	二	中區原郡日根町教育會
同	西蒲原郡内野村	同	三	遊藝	一	一	二	内野村役場(通所)
同	佐渡郡野村	同	三	遊藝	一	一	二	佐渡郡教育會、野村教育會、同
同	中頸城郡各井村	同	三	遊藝	一	一	二	中頸城郡教育會、同學校教育會、各
同	西蒲原郡開成村	同	三	遊藝	一	一	二	西蒲原郡教育會、同學校教育會
同	南蒲原郡酒田町	林間	三	遊藝	一	一	二	南蒲原郡學校教育會
和 歌 山	和歌山郡三井寺酒	海濱	三	遊藝	一	一	二	和歌山師範學校附屬小學校(通所)
同	和歌山郡西野村	同	三	遊藝	一	一	二	和歌山市教育會(通所)
同	和歌山郡雜賀村	同	三	遊藝	一	一	二	
同	和歌山郡和歌山公	林間	三	遊藝	一	一	二	
同	和歌山師範學校裏	同	三	遊藝	一	一	二	

口 他ノ團體ト共同施設ノモノ

合 計 二十八支部三十五

開 設 日 數 三

男 子 数 一

女 子 数 一

計 数 二

山口	豊前	豊後	豊前	豊後	豊前	豊後
三支部十三箇所						
合計						

他ノ團體施設ノ保養所ニ本社支部ヨリ全品其ノ他ヲ以テ援助シタルモノ

支 部	保 養 所 数	収 容 兒 童 数
支 部	六	二五八
島 根	三	二六八
長 野	二	一八一
山 梨	二	五七〇
岩 手	一	二七七
合 計	一九	一、三五六

(二) 兒童健康相談所

所 管 別	相 談 所 数	取 扱 件 数
東 京	一	一、三五〇
京 都	一	八六九
群 馬	一	二、九一七

支 部	看 護 婦 数	収 容 兒 童 数
支 部	一六	七四七
奈 良	一	三二二
山 梨	一	七四七
長 野	一	七
岩 手	一	三九八
山 形	一	三〇五
福 井	一	二一五
廣 島	一	四三八
山 口	一	六七六
和 歌 山	一	二、三二五
愛 媛	一	一三
鹿 兒 島	一	一、三九二
合 計	二九	一、九五五

(三) 學校看護婦

本年中小學校及幼稚園ニ看護婦ヲ派遣セシハ東京外十九支部及滿洲委員部ニシテ其ノ數左ノ如シ

所管別	派 遣 婦 道 教 育 配 校 數	派 遣 婦 道 教 育 配 校 數	所管別	派 遣 婦 道 教 育 配 校 數
東 京	四	六	福 島	二
神 奈 川 縣	一	七	青 森 縣	一
兵 庫 縣	二	三	岩 手 縣	五
埼 玉 縣	五	六	福 岡 縣	一
群 馬 縣	一	二	山 口 縣	四
千 葉 縣	七	七	鳥 取 縣	六
栃 木 縣	六	六	廣 島 縣	六
滋 賀 縣	五	一	福 岡 縣	二
長 野 縣	二	二	佐 賀 縣	三
宮 城 縣	一	九	滿 洲 洲	三
合 計	一〇九	一六五	合 計	一〇九

(四) 千葉支部富浦海濱學校
 本年度本校ニ收容セラル兒童數左ノ如シ

收 容 期 間	男	女	合 計
第一期 自一月一日起至三月三十一日止	三一	一七	四八
第二期 自四月一日起至六月三十日止	三二	一六	四八
第三期 自七月一日起至九月三十日止	四七	一二	五九
第四期 自十月一日起至十二月三十一日止	二五	一五	四〇
合 計	一三五	六〇	一九五

○衛生及兒童養護等講習會
 本年中衛生及兒童養護其ノ他講習會ヲ開催シタルハ十九支部ニシテ其ノ回數左ノ如シ

所 管 別	衛 生 講 習 會	兒 童 養 護 講 習 會	其 他 ノ 講 習 會
北 海 道	二		
神 奈 川 縣	二		
埼 玉 縣	八		二

合 計	○産婦保護															
	愛 媛	山 口	廣 島	福 井	岩 手	福 島	宮 城	長 野	岐 阜	靜 岡	愛 知	奈 良	栃 木	茨 城	千 葉	群 馬
三 四	四	三	二	一	一	一	二	一	一	一	二	二	二	二	三	三
一 三	一	一	一	一	一	一	一	一	六	一	一	一	一	一	一	一
一 五 八								一 四								

四二

○産婦保護
 本年中本社及支那産院、巡回産婆、囑託産婆及産婦保護所等に於て取扱ヒタル産婦ノ如シ

入 院 實 數 三千三百二十三名 内 無 料 一千五十九名
 同 延 人 員 三萬五千六百五人 一 萬 一 千 七 百 三 十 九 人
 外 來、往 診 實 數 八千四百五十三名 同 三 千 五 十 九 名
 同 延 人 員 三萬九千二百八十五人 同 一 萬 三 千 七 百 九 十 三 人

内 譯

所 管 別 名 稱	種 別	入 院		外 來	
		實 人 員	延 人 員	實 人 員	延 人 員
本 社 産 院	無料	(五七)	六六〇	六三〇	六九二
	有料	(二七〇)	一九四	二〇五	四三二
愛 知 産 院	無料	(五五)	六〇	一〇八	一五六
	有料	(四九)	五二	六五七	一九六

四三

192

愛	山	岩	長	京	熊	大	石
媛	口	手	崎	都	本	分	川
保妊 護産 所婦	保妊 護産 所婦	保妊 護産 所婦	保妊 護産 所婦	保妊 護産 所婦	産院	産院	産院
有料 無料	有料 無料	有料 無料	有料 無料	有料 無料	有料 無料	有料 無料	有料 無料

四四

192

合 計		廣 島		山 口		埼 玉	
有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料
11,080	11,550	1,121	1,154	2,336	2,424	5,229	5,351
1,766	1,795	268	274	1,091	1,109	2,091	2,097
2,386	2,419	853	880	1,538	1,539	3,138	3,254
2,386	2,419	853	880	1,538	1,539	3,138	3,254

備考 表中ノ括弧内ハ産兒數ヲ示ス
右ノ外本社各病院ニ於テ本年度中取扱ヒタル産婦數左ノ如シ

入院 實數 三千九十七名 内 無料 三百四名
 同 延 人員 五萬三千二百四十九人 同 無料 五千四百十六人
 外來 實數 一萬一千九百六十七名 同 無料 二千八十四名
 同 延 人員 四萬七千六百六十三人 同 無料 一千九百二十三名
 内 譯

四五

富山		福井		秋田		岩手		宮城		同 謙 訪		長 野		滋 賀	
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
四八	二	六八	二	五二		四三		一一〇	七	六四	三	四二	五	一八七	
九三〇	五五	九四七	二一	一、二七七		六五〇		二、二四三	一九一	七九一	二七	九五〇	一一六	二、六六一	
二一一		二七四	二	二七二		三五		三二九		二三一		二〇四	七	七七二	一
五三二		九六九	九	一、〇〇四		一七二		一、二七七		七〇四		一、一一三	一九五	三、六一七	一〇

四七

194

三 重		茨 城		群 馬		兵 庫		大 阪		北 海 道		本 部		病 院 別
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	種 別
六七	一四	三二	二	二三		九六	四	八七一	一四〇	七三	二	三三四	七	官 入
一、六〇八	一八七	三七九	一三三	二七二		二、〇五二	九三	一七、一五八	三、〇四一	一、二三〇	三〇	四、四三四	一〇五	延 入 員
一三八		二五三	九五	九五		四六八	四	三、三五三	二二二	二二七	五	一、九八九	一四	官 外
五一六		二、八三六	三四〇	三四〇		一、五〇一	四六	一〇、四五七	一、二四三	六一一	二一	五、九一二	七三	延 入 員

四六

朝	臺	愛	香	和	山	國	島	取	
								有	無
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
一、一三	一、四八	六八	一、二五	二一	六三	五一	一三	六六	八
一、五〇六	一、七三三	一、三六四	一、九二一	二七八	七五六	六八二	一三五	一、〇四九	一四〇
七五二	四七三	三三三	四四七	一	三	一六九	二	二二四	一五
六、一六八	一〇九	二六	一、二八六	一三	五	八四五	二二	一、〇六〇	一四五

四八

合	計	奉	
		有	無
有	無	有	無
二、七九三	三〇四	六七	三
四七、八三三	五、四一六	一、〇七五	六四
一、六八三	二八四	三二一	一、一七五
四、一一〇	一、九二三	一、一七五	一、一七五

又本年度中本社産院及愛知支部産院ニ於テ取扱ヒタル乳兒患者數左ノ如シ

入院患者實數 四百二十名 内 無料 百三十八名

同延人員 八千八百三十六人 同 四千三百三人

外來患者實數 一千七百十八名 同 二百四十九名

同延人員 二萬五千四百七十八人 同 八千三百四十四人

内譯

本社産院	所管別	種別	入		院		外		來	
			實	延	實	延	實	延	實	延
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	
二七四	一一一	二、一五三	二、一五三	二四九	八、三四四	一、四六九	一七、一三四			

四九

95

○常備産婆數

本部	所管別任	用	年末現在數	所管別任	用	年末現在數
一〇		一〇	五一		四	一八
三浦支院	同		七			六
山田支院	同		〇			二〇
滋賀支院	同		一			二
福井支院	同		五			五
鳥取支院	同		六			九
山口支院	同		四			一
和歌山支院	同		一			一
香川支院	同		八			三
愛媛支院	同		五			一
高松支院	同		二			一
合計			一五八			二七一

五二

196

○産婆生徒養成

備考 本表ノ外大阪支院乳兒部ニ於テ取扱ヒタル乳兒患者入院實數六百六十七名(内無料八十九名)其ノ延數一萬七千三百六十四人(内無料二千七百一十一人)外來實數二千六百九十四名(内無料二千四百四十六名)其ノ延數七千四百四十人(内無料六千八百九十九人)ナリ

養成所	入	學	卒	業	退	學	年末現在
本支院 附屬養成所	二〇	二〇	二〇	四			三一
大阪支院	四五	二七	二七	一			六五
兵庫支院	一一	一一	一一				二二
合計	七六	六四	六四	五			一一九

合計	愛知支院産院	
	有料	無料
計	一三八	一七
有料	八	二、一五〇
無料	四、三〇三	一、一六六
合計	四、五三三	二、四九
有料	一、四六九	八、三四四
無料	一、一六六	一、三三三

五〇

大阪	1	九和歌山	1	八
兵庫	1	七香川	1	二
埼玉	1	四合計	1	九

○社會看護婦

(一)社會看護婦生徒

入	學	卒	業	一年末現在數
九			七	九

(二)社會看護婦卒業後ノ狀況

出身別	勤務		特別病院		計
	進	回	工	務	
本 部			1		2
廣 島 支 部					1
香 川 支 部					1
福 岡 支 部					1
合 計			1		2

○看護婦外國語學生

佐賀支部	1	1	1	1
合 計	3	1	2	7

○各病院取扱患者數

本年中本社並各地方部病院ニ於テ取扱ヒタル患者數左ノ如シ

入院患者實數	五萬一千八百二十名
内 救 助	二千七百二十六名
同 延 入 員	百三十二萬三千七百三十六人
内 救 助	十二萬七千四百人
外來患者實數	四十三萬一千九百七十名
内 救 助	二萬一千八百四十五名

病院名	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	普通	
茨城支部病院																					
三重支部山田病院																					
滋賀支部病院																					
長野支部病院																					
同 諫 訪 病 院																					
宮城支部病院																					
岩手支部病院																					
秋田支部病院																					

五五

(98)

病院名	救助	普通	救助	普通	救助	普通	救助	内 延 入 員		内 延 救 助	
								官 院 患 者	私 人 患 者	官 院 患 者	私 人 患 者
群馬支部病院											
兵庫支部姫路病院											
大阪支部病院											
北海道支富原院											
本社病院											
同 延 入 員											
内 延 救 助											
内 評											

四百五十八萬五千二百九十八
五十六萬百四十三人

五四

愛媛支部病院	香川支部病院	和歌山支部病院	山口支部病院	岡山支部病院	鳥取支部病院	富山支部病院	福井支部病院
救助	救助	救助	救助	救助	救助	救助	救助
普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通
六一	一七二	二〇五	五五	八二	二八	二七	二八
四一八〇	三二九八	七三六五	二六二六	二二八二	一〇四三	一六二八	一三〇六
三〇二	一八三五	二二〇六	一五三	三六七	一九九	六七	二四〇
二六四	九七五七	一八〇二	二四八	六二五	二五六〇	一一八	三三〇

五六

(99)

高知支部病院	臺灣支部病院	朝鮮本部病院	奉天病院	小計	合計
救助	救助	救助	救助	救助	救助
普通	普通	普通	普通	普通	普通
七〇	二二七	一五〇	一七六	二七二	五二八
二五二四	四九二七	二九二六	三二七六	一三〇〇	一三三三六
九一	二二二	二二二	一〇七	二二八	四三九七
六六六一	二五〇七	一八八七	二六二二	五〇〇八	四五六二九

七、参考館

本年度ニ於ケル参考館ノ業績左ノ如シ
 ○皇族ノ台覽
 總裁閣院宮殿下、東伏見宮妃殿下、梨本宮妃殿下、閑院若宮妃殿下、北白川、朝香兩

五七

鎌宮殿下參考館ニ成ラセラルレ陳列品ヲ台覽アラセラル

○來觀者

個	一萬九千二百三十五人
團	二萬八千四百十九人
計	四萬七千六百五十四人

開館日一日ノ入場者平均 百八十人

○圖書閱覽室公開

五月二日ヨリ公開シ本年中ニ於ケル閱覽者六百五十二人

○講堂使用

結核豫防「デー」及特別展覽會等ノ際本社及本社東京支部ニ於テ講演會等ニ使用セルコト二十回

文部省、東京府、東京市其ノ他ノ官公衙又ハ各種團體主催ノ講演會、講習會、協議會等ノ爲貸付使用セルコト四十一回

學校生徒本館見學ノ際ニ於ケル臨時活動寫真映寫、社業陳列品ニ關スル説明等ノ爲使用セルコト二十回

○特別展覽會開催

十月十三日ヨリ十一月十六日迄五週間「營養改善展覽會」ヲ開催シ其ノ間二回ノ公開講演、三回ノ調理法實演ヲ行ヒ公衆ノ觀覽ニ供セリ

○參考品館外貸出

本年度ニ於テ東京、大阪、愛知、福島、山口、三重ノ本社各支部及朝鮮本部其ノ他ノ團體ニ對シ參考品ノ貸出ヲ行ヒタルモノ十六件三百八十二點ニ達セリ

○館報ノ發行

三月參考館報第四號ヲ十二月同報第五號ヲ發行シ本社各支部、陸海軍、内務、文部、司法ノ各省、警視廳、道府縣ノ學務及衛生當局、東京府下ノ各小學校及中等程度以上ノ各學校ヘ無料配付セリ

○觀覽案内ノ刊行

五月參考館案内ヲ刊行シ道府縣其ノ他前記同様ノ各方面ニ配付セリ

八、少年赤十字

少年赤十字創設後既ニ八箇年ノ星霜ヲ經其ノ間 總裁宮殿下ノ團員御親閱、各地方部ニ於ケル本事業ニ關スル講演或ハ少年赤十字ニ關スル各種ノ小冊子並機關雜誌ノ發刊等ニ依リ其ノ趣旨普及セラレ憂國、冲繩ヲ除キ悉ク少年赤十字團ノ發團ヲ見又ハ増設スル等ノ盛況ニ達セリ

本年度各地方部ニ於ケル少年赤十字團ノ實施セル事業ノ概要左ノ如ク

- 一 少年赤十字ノ組織ヲ獎勵シ並趣旨發揚ニ努メタルコト
- 二 健康ノ保持、増進ニ關シ其ノ實行宣傳ニ努メタルコト
- 三 交通安全ノ保持、國民精神ノ體得ニ努メタルコト
- 四 德行ノ訓練、博愛ノ實踐躬行ニ努メタルコト
- 五 諸種ノ奉仕的勞役ノ補助ヲ爲シタルコト

○善行章付與

少年赤十字團善行章規程ニ據リ本年度中善行章ヲ付與セラレタル者左ノ如ク

京都支部	一	名
大阪支部	一	名
兵庫支部	二	名
栃木支部	一	名
岩手支部	一	名
秋田支部	一	名
廣島支部	一	名
合計	八	名

○外國トノ通信交換

國名	發信數	受信數
北米	九七二	六四五
合衆國		

伊	和	洪	希	芬	佛	英	丁	獨	智	加	勃	白	濠	澳
太	利	牙	牙	蘭	蘭	吉	利	利	利	奈	爾	耳	洲	太
利	蘭	利	蘭	蘭	蘭	利	利	利	利	利	利	利	利	利
三	六	七	八	三	一	六	六	一	九	一	二	二	六	一
三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

六二

○少年赤十字團
本年度中増加セル團數及團員數並年未現況左ノ如シ

合	暹	瑞	西	瑞	波	波	波	波	波	波	波	波	波	波
計	羅	典	牙	西	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭	蘭
一	一	二	二	六	一	〇	六	八	三	七	二	二	二	二
三	三	二	二	八	一	二	五	三	二	七	五	五	五	五
九	八	四	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

男
四百二十一團
五萬五千九百十四人

六三

所管別	設立年月	開数	員数	計
千葉	同十五年十二月	三五	五二八三	四九四〇
茨城	同十二年一月	一〇	一五四五	一八〇
栃木	同十四年九月	二二	四九七	四〇二
奈良	同十四年九月	一九	二四四	二二七
三重	同十五年五月	二九	二四七二	二八六一
愛知	同十三年二月	一八〇	三九二〇〇	三〇七九〇
静岡	同十四年九月	四二〇	五九八六五	五四一四六
山梨	同十二年十月	六	九六六	七〇三
滋賀	同十一年六月	二二二	二六一七	二〇〇六五
岐阜	同十三年七月	一九三	二二三四	一七六二五
長野	同十四年四月	二二	二九九九	一七六四
宮城	同十三年六月	六六	一一六三五	一〇一七三
福島	同十二年三月	二〇一	二五六三〇	一七四七二
岩手	同十二年九月	三五四	二九〇二六	二二〇六〇
青森	同十二年五月	三八	七二五〇	五二九四
山形	同十二年十二月	二	二〇五	一四六
秋田	同十一年十一月	二五	一四一三七	一〇〇三九
計				二四一七六

六五

203

團員數 女
計 五萬六千九百七十八
十萬六千六百一十一人

昭和四年十二月末日現在

所管別	設立年月	開数	員数	計
北海道	大正十三年十一月	八七	一三三三八	一〇六三三
東京	同十二年一月	八七	一九八〇〇	一七九〇
京都	同十二年八月	三八八	四三九九九	三六二〇五
大阪	同十二年七月	二三五	三二一九三	二五三三九
神奈川	同十四年十一月	八	二八七七	一五五
兵庫	同十二年三月	六二	九五四〇	七二二三
長崎	同十四年七月	二五	二九八四	二二二七
新潟	同十四年四月	二四九	二二六七一	一七二七三
埼玉	同十二年六月	一九	四八七〇	四四六三
群馬	同十二年六月	二七	三六八五	三二〇二七
計				七二〇二二

六四

熊	佐	大	福	高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	鳥	富	石	福
本	賀	分	同	同	知	坂	川	島	山	口	島	山	根	取	山	井
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十四年十月	十五年一月	十四年十二月	大正十二年十月	昭和二年二月	昭和二年七月	大正十三年三月	昭和二年七月	同十二年三月	同十二年五月	同十四年四月	同十二年八月	同十三年九月	同十三年十二月	同十三年九月	同十三年四月	大正十二年一月
七	三	四	二	一	一	四	八	六	三	二	三	一	八	三	一	二
七二五	八三〇	六二〇	一九一七	二〇二二	一五〇〇	六九五六	一一五五	七三二	三九四二	二五七四	三二七四	一四〇〇	一四〇〇	六三三七	一五三七	一四五七
五七三	七二二	四〇〇	一五九七	一四〇五	一三三〇	五〇五九	七六二	七六二	三九八〇	二二二二	二七四八	一四八八	一四八八	四二七六	一一七九	二一五九
一一九五	一五〇〇	一〇五〇	三五五	三〇七八	二八六五	一一四一	一九二四	一九二四	一六八五	七四二八	四八一六	五九三三	二九〇九	一〇五九	二七一〇	二五八六

六六

宮	鹿	沖	臺	朝	滿	樺	計
崎	島	繩	灣	鮮	洲	太	
同	昭			大	同		
十五年四月	和三年六月			正十五年七月	同十三年一月		
八	二七			三二	五	九九〇	
一五四七	三三八七			五四四一	九七	七七七二	
一〇七二	二八二九			二五二二	九八	六一九〇	
二六二八	六二六			七九五四	一五	一一八六	

○少年赤十字ニ關スル講習會
 昭和三年七月二十七日ヨリ同三十日迄四日間本社ニ於テ開會シタル第一回少年赤十字講習會ニ次テ昭和四年十一月七日ヨリ同十一日迄五日間本社ニ於テ第二回少年赤十字講習會ヲ開會セリ出席者ハ前同ト同シク各地方部代表の少年赤十字團長及少年赤十字擔任職員ニシテ總數七十二名其ノ日程及講師氏名左ノ如シ
 十一月七日

六七

化學戰ニ就テ

「ラデオ」體操

兒童ノ體育ニ就キ特ニ注意スヘキ事項

十一月八日

航空機ニ就テ

精神ノ衛生

十一月九日

通信交換ニ就テ

世界ノ經濟狀況

十一月十日

虛弱兒ノ保健健康増進附夏季兒童保養所

陸軍科學研究所長 西 同 英
陸軍少佐 北 豊 吉
文部省教育研究所長 羅 波 輝 秀
醫學博士 三 宅 鑑 一

海軍航空本部出仕 竹 中 龍 造
海軍少佐 三 宅 鑑 一
東京帝國大學教授

本社調査部長 井 上 潤 治
東京帝國大學教授 河 津 運

東京帝國大學教授 酒 井 卓 造
東京帝國大學教授

九、外國關係

○昭憲皇太后基金收入第八回分配

千九百二十八年(昭和三年)度ニ於ケル昭憲皇太后基金收入金額ハ瑞西貨一萬三千法ニ達シタルヲ以テ在ジュネーヴ國際委員會ハ第八回ノ分配ヲ行フコトトシ千九百二十九年(昭和四年)四月十一日附ヲ以テ左記ノ通分贈セル旨同委員會ヨリ通知アリタリ依テ本社社長ハ五月十八日此ノ趣ヲ皇后陛下ニ言上セリ

一 埃太利赤十字社へ 二千法

結核病撲滅事業ノ爲

一 白耳義赤十字社へ 二千法

發育不完全ナル兒童等ノ夏季休養所ノ爲

一 ダンナツヒ赤十字社へ 一千法

結核病ニ罹レル兒童收容所ノ爲

一 希臘赤十字社へ 三千法

看護婦養成所ノ爲

- 一、波蘭赤十字社ハ 一千法
- 看護婦宿舍ノ爲
- 一、羅馬尼赤十字社ハ 二千法

- 篤志看護婦講義團催ノ爲
- 一、セハグ・クロー・ド・スロヴエーヌ赤十字社ハ 二千法

貧困兒童休養所ノ爲

○外國ニ於ケル災害ニ對スル救護金ノ寄贈
 波斯コラサン地方震災救護費寄贈
 波斯コラサン地方ニ大地震アリ死者千名負傷者多數ニシテ同國赤十字社及太陽社ハ各國赤十字社ニ向テテ罹災者救護事業ノ援助方ヲ訴ヘタリ本社ハ赤十字社聯盟ヲ經テ右罹災者救護費中へ金五百圓ヲ寄贈セリ
 ○赤十字社聯盟執行委員會

赤十字社聯盟執行委員會千九百二十九年(昭和四年)度第一回會議ハ四月四日及五日、第二回會議ハ十月二十八日及二十九日何レモ在巴里赤十字社聯盟事務局ニ於テ開會セラレ本社在外委員薛延信道氏之ニ出席シテ
 兩會議ニ於テハ千九百二十八年(昭和三年)度ノ聯盟事業報告ノ外種々ノ事項ニ關シテ議ヲ爲シタルカ議題ノ主要ナルモノ左ノ如シ

- 一、地方的會議開催ニ關スル件
- 二、聯盟事務局ニ専門的援助ヲ提供スル専門家ノ選任ニ關スル件
- 三、看護婦養成ニ關スル件
 - イ、ソベツド・フ・イ・ド・カレヂニトノ協力
 - ロ、聯盟事務局ノ參考ノ爲開催ノ看護婦會議ノ提議
- 四、衛生部ノ事業ニ關スル件
 - イ、海員ニ關スル國際會議
 - ロ、國際聯盟及國際衛生局トノ協力

- ハ、盲目豫防ノ爲國際聯合創立ノ交渉
- 五、少年赤十字部ノ事業ニ關スル件
少年赤十字國際會議
- 六、赤十字社聯盟ト赤十字國際委員トノ協力ニ關スル件
- 七、第一回國際病院會議ヨリ其ノ常設事務局ヲ聯盟事務局ノ下ニ設置セムトスル提議ニ關スル件
- 八、赤十字社聯盟ノ出版物ニ關スル件
- 九、各國赤十字社ト聯盟事務局トノ密接ナル關係設定並各國赤十字社代表者ノ聯盟事務局ニ派遣ノ件
- 一〇、救護部ノ事業ニ關スル件
- イ、シリアニ於ケル避難民ノ救護
- ロ、波斯震災ノ救護
- ハ、國際救護聯合トノ將來ノ協力

七二

○第二回對化學戰人民保護國際專門委員會

赤十字國際委員會ノ招集ニ依リ千九百二十九年(昭和四年)四月二十二日ヨリ同二十六日迄伊國羅馬市ニ於テ第二回對化學戰人民保護國際專門委員會開催セラレ合スル者二十箇國五十名ノ多キニ達シタリ本社ハ海軍軍醫少佐神林美治、陸軍一等軍醫四十宮龍藏ノ兩氏ニ本社委員ヲ囑託シテ之ニ出席セシメタリ同會議ニ於テ「イペラット」檢出法國懸賞募集、對化學戰私有建築物ノ利用、航空機化學戰ニ對スル集團防禦、防禦所内毒瓦斯中和劑ノ保存法、毒瓦斯汚染食品復活ノ可能性、毒瓦斯汚染水ノ消毒、毒瓦斯「マスク」製造國際競争、赤十字國際委員會ノ經濟問題等ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シ且決議ヲ爲セリ

○少年赤十字國際會議

千九百二十九年(昭和四年)七月十八日ヨリ同二十四日迄瑞西國ジュネーヴニ於テ赤十字社聯盟主催ノ少年赤十字國際會議開催セラレ三十七箇國ヨリ代表委員參列セリ本社ハ貴族院議員東京帝國大學教授文學博士的爵林博太郎氏ニ代表委員ヲ囑託シテ之ニ出

七三

席セシメタリ

會議ノ主題ハ國際通信交換ノ問題ナリシカ其ノ他ニ少年赤十字ト衛生、少年赤十字ト救護事業、少年赤十字ト其ノ他ノ少年團トノ關係、少年赤十字團員ノ海外旅行、少年赤十字ト赤十字社聯盟事務局トノ關係等幾多ノ問題アリテ之ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シ協定ヲ爲セル事多シ

○海員ノ衛生及福祉ニ關スル第二回國際會議

諾威赤十字社、赤十字社聯盟、對花柳病國際聯合、對結核國際聯合及商船員國際協會ノ招集ニ係ル海員ノ衛生及福祉ニ關スル第二回國際會議ハ十月七日、八日及九日ノ三日ニ互リ瑞西國ジユネーグ市ニ於テ開催セラレ各國赤十字社其ノ他ノ團體ヨリ代表委員約百名ノ來會者アリタリ本社ハ國際聯盟保健委員會委員醫學博士鶴見三三氏ニ本社委員ヲ囑託シテ之ニ列席セシメタリ

○衛生材料規格統一國際常置專門委員會本社委員

在ジユネーグ赤十字國際委員會ノ主宰ニ係ル衛生材料規格統一國際常置專門委員會ノ

七四

本社委員ハ在巴里大使館附武官海軍大佐古賀肇一氏ニ囑託シアリタル處同氏ハ昭和四年三月歸朝セラレタルニ付後任トシテ佛國駐在員陸軍一等軍醫三好益來氏ニ本社委員ヲ囑託セリ

○盲目豫防國際協會執行委員會員推薦

赤十字社聯盟事務總長ヨリ千九百二十九年(昭和四年)一月十九日附書翰ヲ以テ盲目豫防國際協會創設會議ニ參加スヘキ日本専門家指名方申越アリタルニ付本社ハ東京帝國大學教授醫學博士石原忍氏ヲ推薦シタルニ同協會創設會議ニ於テ同氏ヲ同協會執行委員會員ニ指名セリ

○赤十字社聯盟顧問推薦

赤十字社聯盟事務總長ヨリ千九百二十九年(昭和四年)一月二十六日附書翰ヲ以テ同聯盟顧問推薦方申越アリタルニ依リ本社ハ本社顧問タル文部省學校衛生官醫學博士北豐吉及內務省衛生局長醫學博士高野六郎ノ兩氏ヲ推薦シタリ北博士ハ通俗衛生及少年赤十字事業、高野博士ハ災害救護事業ニ關シ聯盟事務局顧問タルコトナレリ

七五

○井上救護看護婦長歸朝
 曩ニ社命ニ依リ在倫敦ベッドフォードカレッジニ開催ノ赤十字社聯盟主催國際看護婦講習會ニ於ケル公衆看護ニ關スル講習ニ出席セル本社救護看護婦長井上なつゑ氏ハ昭和四年七月五日同講習卒業後歐米各國ニ於ケル公衆看護ノ實際ヲ視察シテ同年十月十一日歸朝シタリ

十、會 計

昭和四年度常用部歳入歳出決算書

歳入 經常部	
第一款 年 酬 金	金百九拾壹萬七千參百四拾貳圓八拾七錢
第一項 年 酬 金	金百九拾壹萬七千參百四拾貳圓八拾七錢
第二款 基金部繰入金	金百八拾參萬四千五百八拾圓五拾四錢

第一項 基金部繰入金		金百八拾參萬四千五百八拾圓五拾四錢
第三款 寄 附 金		金七拾萬貳千九百貳拾九圓四拾六錢
第一項 寄 附 金		金七千九百參拾九圓拾壹錢
第二項 指定寄附金		金六拾九萬四千九百九拾圓參拾五錢
第四款 雜 收 入		金參拾貳萬四千參百拾參圓九拾五錢
第一項 貸地貸家收入		金壹萬七千四百八圓五錢
第二項 物品賣却代		金五千八百五拾圓拾壹錢
第三項 雜 收		金參拾萬千參百拾五圓七拾九錢
歳入經常部合計金四百七拾七萬九千六百六圓八拾貳錢		
歳入 臨時部		
第一款 基金部繰入金		金七拾萬參千七百圓九拾壹錢
第一項 基金部繰入金		金七拾萬參千七百圓九拾壹錢
第二款 寄 附 金		金貳拾九萬六千六百六拾九圓貳拾五錢

第一項 指定寄附金	金貳拾九萬六千六百六拾九圓貳拾五錢
第三款 補助金	金四萬八千四百四拾圓
第一項 補助金	金四萬八千四百四拾圓
第四款 雜費	金拾壹萬四千四百拾貳圓拾五錢
第一項 雜費	金拾壹萬四千四百拾貳圓拾五錢
第五款 不動產買却代	金千九圓八拾五錢
第一項 不動產買却代	金千九圓八拾五錢
第六款 前年度繰越金	金參拾七萬參千六百貳拾七圓參拾六錢
第一項 前年度繰越金	金參拾七萬參千六百貳拾七圓參拾六錢
歳入臨時部合計金百五拾參萬七千貳百五拾九圓五拾貳錢	
歳入總計金六百參拾壹萬六千四百貳拾六圓參拾四錢	
歳出 經常部	
第一款 本部費	金九拾八萬八千七百參拾八圓四拾壹錢

第一項 事務費	金貳拾四萬八千五百六拾壹圓四拾八錢
第二項 救護費	金六萬五千八百圓五拾貳錢
第三項 少年赤十字費	金壹萬參千九百貳拾參圓六拾參錢
第四項 宣傳費	金壹萬八千九百七拾八圓六拾六錢
第五項 參考館費	金壹萬五千參百壹圓四拾九錢
第六項 社員費	金拾壹萬八千七百拾圓拾七錢
第七項 財產管理費	金四千六百五拾貳圓四拾參錢
第八項 諸負擔金	金壹萬七千參百四拾參圓四拾四錢
第九項 補助金	金貳拾萬千圓
第二項 資金移積	金貳拾八萬四千四百六拾六圓五拾九錢
第一款 支部費	金參百九拾四萬九千貳百七拾四圓四拾錢
第一項 事務費	金九拾八萬五千五百五拾八圓七拾錢
第二項 救護費	金五拾參萬六千貳拾壹圓八拾參錢

第三項	保 健 費	金七拾參萬四千六百五拾八圓貳拾壹錢
第四項	少年赤十字費	金六萬貳千參百貳拾參圓四拾錢
第五項	社 員 費	金七拾六萬七百四拾八圓七拾四錢
第六項	財產管理費	金參萬六千五百參拾九圓六拾四錢
第七項	請 負 擔 金	金參千參百八拾五圓九拾貳錢
第八項	補 助 金	金九萬貳千五拾圓拾錢
第九項	資 金 移 積	金七拾參萬七千八百八拾七圓八拾六錢
第三款	樺太委員部費	金四百六拾七圓九拾九錢
第四款	在外國特別委員部費	金四百六拾七圓九拾九錢
第五項	在外國特別委員部費	金四千參百九圓參拾九錢
第六項	在外國特別委員部費	金四千參百九圓參拾九錢
歲出經常部合計	金四百九拾四萬貳千七百九拾圓拾九錢	
歲出臨時部		

第一款	本 部 費	金參拾四萬四千八百四拾八圓五拾錢
第一項	補 助 金	金參萬九千六百四拾五圓
第二項	雜 費 借 償 還	金拾六萬圓
第三項	公衆看護婦國際講習會派遣費	金壹萬七百拾參圓貳拾八錢
第四項	災害救捐費	金五百圓
第五項	在外委員及議會費	金九千參百五拾參圓拾六錢
第六項	營 繕 費	金四萬六千九百貳拾四圓五拾七錢
第七項	社史編纂費	金九千五百拾五圓五拾錢
第八項	參考館別館調辨費	金壹萬九千九百參拾圓九拾錢
第九項	參考館附屬別館建築費	金七千參拾參圓拾錢
第十項	國際社會事業大會參列費	金壹萬五千八拾九圓拾七錢
第十一項	聖德記念繪畫館獻納費	金五千圓
第十二項	赤十字參考館建築費	金百參拾八圓參拾錢

第三項 國際看護婦會總會派遣費 金壹萬千貳拾八圓
 第四項 社 葬 費 金九千九百七拾七圓五拾貳錢
 第二款 支 部 費 金八拾參萬貳千參百四拾圓七拾六錢
 第一項 營 繕 費 金參拾壹萬四千四百六拾圓七拾貳錢
 第二項 土地買入費 金貳萬九千九百八拾參錢
 第三項 補 助 金 金四拾六萬四千四百七拾九圓
 第四項 縱替借債還 金參萬千參百八圓六拾錢
 第五項 病院設立費 金貳千七拾貳圓六拾壹錢
 歲出臨時部合計金百拾七萬七千八百八拾九圓貳拾六錢
 歲出總計金六百拾壹萬九千九百七拾九圓四拾五錢
 歲入歲出差引金拾九萬六千四百四拾六圓八拾九錢 翌年度繰越金
 右決算書面之通相違無之候也
 昭和五年四月

日本赤十字社理事
 社長 公爵 徳川 家 達
 副社長 公爵 徳川 團 順
 同 阪 本 鈺 之 助
 長 崎 省 吾
 澤 鑑 之 丞
 桑 田 熊 藏
 松 井 茂
 侯爵 大 久 保 利 武
 鶴 田 頼 次 郎
 窪 田 靜 太 郎
 右決算正備ナルヲ認ム
 昭和五年四月 日

日本赤十字監事

大谷嘉兵衛
荒井賢太郎
正木勝次郎

昭和四年度特別會計歳入歳出決算書

歳入經常部

第一款 本部病院收入	金八拾貳萬四千六百六拾四圓九拾錢
第一項 恩賜金	金壹萬五千圓
第二項 補助金	金六萬圓
第三項 指定寄附金	金千四百參拾七圓七拾壹錢
第四項 患者收入	金六拾五萬五千五百拾圓七拾六錢
第五項 外勤看護婦收入	金壹萬九千五百五拾參圓拾錢

第六項 炊事場收入	金五萬九千五百七拾圓貳拾壹錢
第七項 雜收入	金壹萬七千九拾參圓拾貳錢
第二款 本部産院收入	金貳拾萬六千八百六圓九拾七錢
第一項 補助金	金六萬圓
第二項 指定寄附金	金七拾七圓八拾七錢
第三項 患者收入	金拾參萬六千四百四拾九圓九拾參錢
第四項 炊事場收入	金九千七百七拾六圓貳拾九錢
第五項 雜收入	金千百貳圓八拾八錢
第三款 支部病院收入	金六百四拾壹萬七千參百七拾八圓拾四錢
第一項 補助金	金拾五萬百拾貳圓參拾四錢
第二項 基金部經入金	金七萬百拾四圓四拾貳錢
第四項 指定寄附金	金壹萬五千七百七拾五圓九拾貳錢
第五項 患者收入	金五百七拾九萬千拾圓參拾四錢

第六項	外動看護婦收入	金四千六百參拾壹圓五拾九錢
第七項	炊事場收入	金貳拾六萬千五百八拾八圓八拾貳錢
第八項	雜 收 入	金拾貳萬四千四百拾四圓七拾壹錢
第四款	支部療養所收入	金拾四萬七千貳百五拾九圓拾五錢
第一項	補 助 金	金壹萬八千四百六拾九圓
第二項	基金部繰入金	金百九拾圓六拾參錢
第三項	指定寄附金	金貳百八拾七圓五拾錢
第四項	患者 收 入	金拾貳萬千貳百九拾四圓五拾四錢
第五項	外動看護婦收入	金四百參拾五圓
第六項	炊事場收入	金五千百八圓五拾九錢
第七項	雜 收 入	金千四百七拾參圓八拾九錢
歲入經常部合計金七百五拾九萬五千六百九圓拾六錢		
歲入臨時部		

第一款	本部病院收入	金四萬八百貳拾八圓
第一項	基金部繰入金	金參萬千八百拾參圓
第二項	補 助 金	金九千六百四拾五圓
第二款	本部産院收入	金貳萬九千五百拾五圓七拾六錢
第一項	基金部繰入金	金貳萬九千五百拾五圓七拾六錢
第三款	支部病院收入	金百四拾六萬千八百六拾四圓八拾六錢
第一項	基金部繰入金	金四拾六萬四千貳百六圓五拾錢
第二項	補 助 金	金四拾貳萬四千六百六拾五圓
第三項	繰 替 借	金參拾壹萬六千五百圓
第四項	不動産賣却代	金貳千八百七拾七圓貳拾錢
第六項	前年度繰越金	金貳拾五萬四千百拾六圓拾六錢
第四款	支部療養所收入	金八萬七千參百六拾壹圓拾九錢
第一項	補 助 金	金七萬參百拾四圓

第二項 寄附金 全壹萬七千四百七拾七圓九錢

歳入臨時部合計金百六拾壹萬九千五百六拾九圓八拾壹錢

歳入總計金九百貳拾壹萬五千七百七拾八圓九拾七錢

歳出 經常部

第一款 本部病院費 全八拾參萬參千八百拾六圓五拾貳錢

第一項 診療費 全參拾九萬四千八拾四圓七拾四錢

第二項 財產管理費 全貳萬參千五百七圓四拾參錢

第三項 患者費 全參拾壹萬參千參百七拾六圓九拾六錢

第五項 資金移積 全拾萬貳千八百四拾七圓參拾九錢

第二款 本部產院費 全貳拾萬六千八百六圓九拾七錢

第一項 診療費 全九萬貳千參拾七圓九錢

第二項 財產管理費 全七千貳百八拾貳圓七拾參錢

第三項 患者費 全七萬七千貳百六拾四圓參拾參錢

第四項 產婆生徒養成費 全五千零百八拾四錢

第六項 資金移積 全貳萬四千九百貳拾壹圓九拾八錢

第三款 支部病院費 全六百貳拾四萬七千七百拾六圓五錢

第一項 診療費 全參百拾六萬參千八百八拾七圓七拾七錢

第二項 財產管理費 全拾七萬九拾六圓拾壹錢

第三項 患者費 全貳百貳拾貳萬四千四百拾五圓五拾四錢

第五項 資金移積 全六拾八萬九千五百八拾六圓六拾參錢

第四款 支部療養所費 全拾四萬五千五百拾五圓拾四錢

第一項 診療費 全九萬四千參百八拾參圓九拾九錢

第二項 財產管理費 全四千六百五拾九圓拾七錢

第三項 患者費 全參萬九千貳百參拾貳圓八拾參錢

第五項 資金移積 全七千貳百參拾九圓拾五錢

歳出經常部合計金七百四拾參萬參千八百五拾四圓六拾八錢

歳出臨時部

- 第一款 本部病院費 金參萬千七百七拾六圓參拾八錢
- 第一項 營繕費 金壹萬四千貳百九圓五拾貳錢
- 第二項 研究費 金壹萬六千九百六拾六圓八拾六錢
- 第二款 本部産院費 金貳萬九千五百拾五圓七拾六錢
- 第一項 營繕費 金壹萬九千五百拾五圓七拾六錢
- 第二項 備品費 金壹萬圓
- 第三款 支部病院費 金百四拾壹萬五千六百六拾圓六拾貳錢
- 第一項 營繕費 金百貳拾壹萬五百四拾圓九拾錢
- 第二項 經替借償還 金拾萬貳千八百九圓貳拾錢
- 第三項 研究費 金六萬四千五百六拾九圓參拾五錢
- 第四項 備品費 金參萬四千七百四拾壹圓七拾四錢
- 第五項 十週年記念費 金貳千九百九拾九圓四拾參錢

第四款 支部療養所費

- 第一項 營繕費 金五萬六千五百貳拾貳圓九拾參錢
- 第二項 經替借償還 金五萬四千七百七拾八圓九拾錢
- 第三項 研究費 金千七百四拾四圓壹錢
- 第四項 備品費 金千七百四拾四圓壹錢
- 第五項 十週年記念費 金千七百四拾四圓壹錢
- 第六項 臨時部合計金百五拾參萬貳千八百七拾五圓六拾七錢
- 第七項 歳出總計金八百九拾六萬六千七百參拾圓參拾五錢
- 第八項 歳入歳出差引金貳拾四萬八千四百四拾八圓六拾貳錢
- 第九項 翌年度繰越金

昭和五年四月 日

日本赤十字社理事

理事連名ハ前ニ同シ

右決算正確ナルヲ認ム

昭和五年四月 日

日本赤十字社監事

昭和四年度基金部歳入歳出決算書

歳入

第一款 根基資金收入	金千七百五拾七萬六千六百拾八圓參拾五錢
第一項 前年度繰越金	金千六百四拾參萬貳千五百六拾貳圓五拾七錢
第二款 寄附金	金貳拾圓
第三款 利子收入	金八拾參萬九千五百拾五圓九拾五錢
第四項 移積金及新入	金參拾萬四千五百拾九圓八拾參錢
第二款 救護準備資金收入	金六拾七萬四千五百六拾四圓五拾壹錢
第一項 前年度繰越金	金六拾五萬參百貳圓八拾七錢
第二項 寄附金	金參圓九拾五錢
第三項 利子收入	金貳萬貳千八百八拾四圓拾九錢

第四項 移積金及雜入	金貳千七拾參圓五拾錢
第三款 常備資金收入	金九拾萬四千六百六拾五圓九拾七錢
第一項 前年度繰越金	金八拾七萬九千九百六拾五圓八拾壹錢
第二項 利子收入	金貳萬四千七百圓拾六錢
第四款 本部建造物減損補填資金收入	金四萬參千四百參拾壹圓貳拾參錢
第一項 前年度繰越金	金四萬千七百六拾五圓九錢
第二項 移積金及利子收入	金千六百六拾六圓拾四錢
第五款 ナイナングール石黒記念牌資金收入	金五千六百五圓四拾五錢
第一項 前年度繰越金	金五千貳百五拾參圓四拾五錢
第二項 利子收入	金貳百九圓
第三項 移積金及雜入	金百四拾參圓
第六款 少年赤十字獎勵資金收入	金七千五百參拾圓
第一項 前年度繰越金	金七千五百參拾圓

第二項 利子收入	金四百圓
第七款 支部救護準備資金收入	金千四百九拾萬千貳百七拾壹圓參錢
第一項 前年度繰越金	金千四百六萬八千五百九拾參圓九拾七錢
第二項 寄附金	金貳千拾圓五拾錢
第三項 利子收入	金七拾七萬參百四拾七圓貳拾五錢
第四項 移積金及雜入	金六萬參百拾九圓參拾壹錢
第八款 支部當備資金收入	金五百七拾五萬九千六百五圓六拾貳錢
第一項 前年度繰越金	金四百八拾四萬參千圓九拾貳錢
第二項 寄附金	金九千四百八拾八圓六拾八錢
第三項 利子收入	金貳拾萬八千四百參拾六圓七拾四錢
第四項 移積金及雜入	金六拾九萬八千九百拾九圓貳拾八錢
第九款 病院資金收入	金百七拾八萬貳千八百八拾貳圓貳拾九錢
第一項 前年度繰越金	金百六拾四萬貳千參百拾六圓五錢

第三項 利子收入	金五萬九千五百參拾六圓四錢
第四項 移積金及雜入	金八萬千參拾圓貳拾錢
第九款 病院當備資金收入	金貳百七拾五萬八千六百七拾貳圓六錢
第一項 前年度繰越金	金百九拾五萬四千九百參拾六圓貳拾參錢
第二項 寄附金	金七百圓
第三項 利子收入	金九萬千五百拾貳圓壹錢
第四項 移積金及雜入	金七拾壹萬千五百貳拾參圓八拾貳錢
第二款 療養所資金收入	金貳百四拾七圓八拾四錢
第一項 前年度繰越金	金百四拾圓六拾九錢
第二項 利子收入	金七圓拾五錢
第三項 移積金及雜入	金百圓
第三款 療養所當備資金收入	金貳萬參百五拾九圓八拾九錢
第一項 前年度繰越金	金壹萬貳千八百六拾八圓四拾四錢

第二項 利子收入	金 參百五拾貳圓參拾錢
第三項 移積金及雜入	金 七千百參拾九圓拾五錢
第三項 產院資金收入	金 四萬貳千九百八拾圓四拾錢
第一項 前年度繰越金	金 參萬六千五百參拾貳圓參拾四錢
第二項 利子收入	金 千五百貳拾六圓八錢
第三項 移積金及雜入	金 四千九百貳拾壹圓九拾八錢
第四項 產院常備資金收入	金 六萬五千五百拾貳圓八拾參錢
第一項 前年度繰越金	金 四萬參千七百五拾七圓拾九錢
第二項 利子收入	金 千七百五拾五圓六拾四錢
第三項 移積金及雜入	金 貳萬圓
歳入合計金	金 四十四萬四千四百五拾四圓四拾七錢
第一款 根拠資金支出	金 千七百五拾七萬六千六百拾八圓參拾五錢
歳出	

第一項 繰入金	金 八拾壹萬五千七百參拾貳圓參拾四錢
第二項 翌年度繰越金	金 千六百七拾六萬八千八百八拾六圓壹錢
第二款 救護準備資金支出	金 六拾七萬四千五百六拾四圓五拾壹錢
第一項 繰入金	金 貳萬貳千八百八拾四圓拾九錢
第二項 翌年度繰越金	金 六拾五萬貳千參百八拾圓參拾貳錢
第三款 常備資金支出	金 九拾萬四千六百六拾五圓九拾七錢
第一項 繰入金	金 八萬五千五百五拾參圓拾六錢
第二項 翌年度繰越金	金 八拾貳萬參千一百拾貳圓八拾壹錢
第四款 本部建造物減損補填資金支出	金 四萬參千四百參拾壹圓貳拾參錢
第一項 翌年度繰越金	金 四萬參千四百參拾壹圓貳拾參錢
第五款 ナイナングール石黒記念牌資金支出	金 五千六百五圓四拾五錢
第一項 繰入金	金 貳百圓
第二項 翌年度繰越金	金 五千四百五圓四拾五錢

219

金六款 少年赤十字獎勵
 資金支出
 第一項 繰入 金
 第二項 翌年度繰越金
 第七款 支部救護準備資
 金支出
 第一項 繰入 金
 第二項 繰出 金
 第三項 翌年度繰越金
 第八款 支部常備資金支
 出
 第一項 繰入 金
 第三項 翌年度繰越金
 第九款 病院資金支出
 第一項 繰入 金
 第三項 翌年度繰越金

金七千九百參拾圓
 金四百圓
 金七千五百參拾圓
 金千四百九拾萬千貳百七拾壹圓參錢
 金七拾七萬貳千九百五拾八圓貳拾壹錢
 金百參拾壹圓七拾八錢
 金千四百拾貳萬八千八百八拾壹圓四錢
 金五百七拾五萬九千六百五圓六拾貳錢
 金八拾四萬五千貳百五拾參圓五拾五錢
 金四百九拾壹萬四千參百五拾貳圓七錢
 金百七拾八萬貳千八百八拾貳圓貳拾九錢
 金貳萬九千八百壹圓四拾錢
 金百七拾五萬參千八拾圓八拾九錢

第二〇款 病院常備資金支
 出
 第一項 繰入 金
 第三項 翌年度繰越金
 第二款 療養所資金支出
 第一項 繰入 金
 第二項 翌年度繰越金
 第三款 療養所常備金支
 出
 第一項 繰入 金
 第二項 翌年度繰越金
 第三款 産院資金支出
 第一項 翌年度繰越金
 第四款 産院常備資金支
 出
 第一項 繰入 金

金貳百七拾五萬八千六百七拾貳圓六錢
 金五拾參萬五千七百貳圓五拾貳錢
 金貳百貳拾貳萬貳千九百六拾九圓五拾四錢
 金貳百四拾七圓八拾四錢
 金七圓拾五錢
 金貳百四拾圓六拾九錢
 金貳萬參百五拾九圓八拾九錢
 金百八拾參圓四拾八錢
 金貳萬百七拾六圓四拾壹錢
 金四萬貳千九百八拾圓四拾錢
 金四萬貳千九百八拾圓四拾錢
 金六萬五千五百拾貳圓八拾參錢
 金貳萬九千五百拾五圓七拾六錢

第二項 翌年度繰越金 金參萬五千九百九拾七圓七錢
歳出合計金四千四百五拾四萬四千參百四拾七圓四拾七錢

右決算書面之通相違無之候也

昭和五年四月 日

日本赤十字社理事

理事連名ハ前ニ同シ

右決算正條ナルヲ認ム

昭和五年四月 日

日本赤十字社監事

監事連名ハ前ニ同シ

日本赤十字社財産目録

有 價 證 券 二七、〇四四、八七五・五八

銀行預金	一〇、四四一、九三八・七九
郵便貯金	一一八、九六二・一二
現金	三、八〇二、八五三・八二
現金	二、〇九三・六二
小計	四一、四一〇、七二三・九三
土地	三、七八六、二二八・二五
建物	一三、二九六、七七〇・一二
材料	一、二九五、四四五・五五
備品	三、六九九、九四七・九六
圖書	二八〇、三二四・六六
小計	二二、三五八、七一六・五四
合計	六三、七六九、四四〇・四七

十一、名譽職並有給職員

本年末現在名譽職並有給職員(職別ヲ)總數ハ四萬八千三百三十九名ニシテ内名譽職員四萬五千三百三名(内業務七十名)、有給職員二千八百三十六名(内業務七十名)ナリ其ノ内譯左ノ如シ

一本部	名譽職	四十一名
本社	社長	一
理事	副社長	二
監事	常務職員	二八(内理事一〇)
顧問	協賛職員	二
有給職員		六十二名
參事	副參事	六
	三(課長)	

1011

技師	一	書配	三四
技手	一	嚙託	一七(内部長一)
一支部	名譽職	四萬四百六十四名	
支部長	四八	支部副長	四八
參典	一〇〇	州部長	五
州部副長	五	委員監督	五
委員副監督	八	幹事	一九三
會計監事	六八	委員長	二四四
委員副長	一二〇	委員	五二
商議員	六七八	協賛員	四七五
顧問	八	支部事務委員	二二三
委員部事務委員	六九五	委員部收入委員	二〇

1013

分區長	一、七七一	分區副長	七、二〇三
分區事務委員	六、五四六	分區收入委員	九、九七九
協贊委員	一、九三三	囑託	二七
有給職員	四百六十三名(內全務二〇)		
主事	四九(西州部一)主事	補	一三
書記	三四四(內全九)	技手	三六(內全一一)
囑託	二一		
朝鮮本部			
名譽職員	三千二百十六名		
總長	一	副總長	二
評議員	三七	管理事	六
支部長	一三	支部副長	五四
幹事	三五	委員	二二

一〇四

委員副長	一九六	事務委員	二八三
分區長	一、一六九	協贊委員	四八九
贊助委員	九〇八		
有給職員	十二名		
主幹	一	書記	一〇
囑託	一		
滿洲委員部			
名譽職員	一千七百七十二名		
委員總長	一	委員副總長	三
幹事	六	委員支部長	一五
委員支部副長	四四	會計監事	二
商議員	六	事務委員	四六
協贊委員	三七二	地方委員	六七七

一〇五

有給職員	二十六名		
主事	一	主事	補
書記	一七	主事	託
一 樺太委員部			
名譽職	十二名		
總長	一	副總長	一
幹事	一	委員長	九
有給職員	一名		
嘱託	一		
一 特別委員部			
名譽職	十三名		
上海特別委員長	一		
漢口特別委員長	一		

一〇六

有給職員	二百名		
名譽職	五名		
本社病院			
マニラ特別委員長	一		
グワアオ特別委員長	一		
晚香坡特別委員長	一		
青島特別委員長	一		
浦潮斯德特別委員長	一	協賛員	一
ロシアンゼルス特別委員長	一		
桑港特別委員長	一		
天津特別委員長	一		
布哇特別委員長	一	事務委員	一
一 名譽職			
商議員	三	會計監事	二

一〇七

院 長	一	副 院 長	一
治 療 主 幹	九	研 究 主 幹	一
藥 劑 主 幹	一	事 務 主 幹	一
事 務 副 主 幹	二	醫 務 員	二六
調 劑 員	七	囁 員 助 手	一
講 師	九	看 護 婦 監 督	一
醫 員 助 手	一九	調 劑 員 助 手	二
書 記	一六	技 術 手	四
看 護 婦 副 監 督	二	看 護 婦 長	一七
看 護 婦	六九		
一 支 部、朝 鮮 本 部、奉 天 病 院			
名 稱	四十二名		

一〇八

醫 院 長	一	藥 劑 長	一
醫 員	二	調 劑 員	三
囁 員 助 手	三三		
有 給 職 員	一千六百七十五名		
院 長	二二	副 院 長	二〇
醫 務 長	一三〇	藥 劑 長	二二
事 務 長	二二	醫 務 員	二九〇
調 劑 員	七六	囁 員 助 手	九
調 劑 員 助 手	九	囁 員 助 手	五七
看 護 婦 監 督	三	書 記	一三九
技 術 手	六六	看 護 婦 長	六七
看 護 婦	七三二	產 婆	九
本 社 産 院			

一〇九

有給職員	七十四名(内兼務二)
院長	一
事務長	一
調劑員	一
調劑員助手	二
嘱託	一
産婆取締	二
産婆	三八
一 支那産院(愛知、石川、大分、熊本)	
名譽職	三十三名(内兼務二)
院長	三
醫師	六
調劑員	一
顧問	一
事務長	一
顧問	一
書記	一
看護婦長	二
看護婦	八
産婆	二
助産師	二
助産師	五
助産師	五
助産師	六
助産師	二(内兼一)
助産師	四(内兼一)
助産師	四(内兼一)
助産師	一

有給職員	二十一名(内兼務四)
院長	一
書記	四
産婆	四
一 産婦保護所(京都、長崎、岩手、山口、愛媛)	
名譽職	二十八名(内兼務二)
醫師	一四
看護婦	六
有給職員	五名
醫師	一
産婆	一
一 産婆養成所(本社産院、大阪、兵庫、三重、滋賀、鳥取、山口、和歌山、香川、愛媛、各支那産院附属)	
名譽職	百名(内兼務四六)
産婆	四
助産師	三
助産師	五(内兼二)
助産師	三
助産師	四
助産師	五(内兼四)
助産師	一
助産師	二

所長	主任	主務長	製務長	生徒取締員	有給職員	事務所長	書記	事務長	所長	調劑員
二(兼)	七(内兼二)	二(兼)	八	五(内兼三)	十名(内兼務五)	一(兼)	一(兼)	一(兼)	一(兼)	二
二(兼)	一六(兼一)	四二(内兼二六)	一一(内兼六)	五(内兼三)		一(兼)	一(兼)	一(兼)	一(兼)	三
						生徒取締員	書記	事務長	副所長	書記員
						一(兼)	一(兼)	一(兼)	一(兼)	二四
										三三(内兼二)

一 常設診療所(東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、愛知、静岡、岐阜、富山、福井、新潟、山梨、長野、群馬、栃木、茨城、千葉、埼玉、東京、大阪、京都、福岡、香川、愛媛、高松、徳島、高知、宮崎、鹿児島、沖縄) 三十四名(内兼務三)

看護婦長	看護人	有給職員	所長	醫師	書記	看護婦	産婆	巡回診療所	所長	調劑員	看護婦	有給職員
一(兼)	一	百五十二名(内兼務四)	一六(内兼二)	三	一八(内兼一)	七	一	四十六名(内兼務六)	四(内兼一)	一	一一(内兼二)	三十一名(内兼務一五)
									二五(内兼二)			
									五(内兼二)			

一 巡回診療所(大阪、新潟、群馬、三重、静岡、滋賀、長野、岩手、富山、山梨、徳島、香川、愛媛、高松) 四十六名(内兼務六)

所 長	五(内兼一)	醫 員	九(内兼三)
調 査 員	三(内兼二)	記 員	六(内兼四)
看 護 婦 長	八(内兼五)		
名 譽 職	三十一名(内兼務五)		
一 療養所(大阪、神奈川、愛知、岐阜、福島)			
所 長	五(内兼一)	醫 員	三三(内兼二)
調 査 員	二	書 記	五(内兼三)
看 護 婦 長	二	看 護 婦	四
有 給 職 員	七十一名(内兼務八)		
所 長	四	副 所 長	一
事 務 長	一	醫 員	九(内兼一)
調 査 員	四(内兼二)	書 記	一一(内兼一)
看 護 婦 長	五(内兼一)	看 護 婦	三五(内兼四)

一一四

所 長	三(内兼一)	主 幹	一(兼)
調 査 員	三四(内兼三)	調 査 員	一
看 護 婦 長	一一	産 務 員	七(内兼一)
有 給 職 員	二十四名(内兼務一五)		二
所 長	二(兼)	醫 員	六(内兼二)
書 記	四(内兼三)	看 護 婦	一一(内兼九)
名 譽 職	二名		
一 海濱學校(千葉支部富田)			
名 譽 職	二名		
調 査 員	二		

一一五

有給職員 九名

校長	一	校	一
教員	一	書記	一
寮母兼教員	四	保護婦	一

○名譽職ノ異動

理事常議員淺田徳則氏ハ四月二十六日理事ヲ辭任セリ

常議員窪田静太郎氏ハ四月二十六日理事ニ當選就任セリ

常議員元副社長タリシ名譽社員松平承承氏ハ七月九日薨去セリ

常議員石塚英藏氏ハ八月八日常議員ヲ辭任セリ

○社長社葬

社長男爵平山成信氏ハ九月二十五日薨去セリ同社長ハ本社創立以來ノ功勞著大ナルニ依リ常議會ハ社費ヲ以テ葬儀ヲ行フコトヲ議決シ九月二十八日參考館講堂ニ於テ社葬ヲ營ミタリ

○社長新任

公爵徳川家達氏ハ故社長男爵平山成信氏ノ後任トシテ十一月二日社長ニ勅任セララル

○本年末現在理事、常議員、監事ノ氏名

理事(常議員)

社長	公爵 徳川 家達
副社長	公爵 徳川 國順
同	阪本 彰之助
	長崎 省吾
	澤 鑑之丞
	桑田 熊藏
	松井 茂
	侯爵 大久保 利武
	鶴田 順次郎

○救護員合祀

十二、雜件

監

事

正木勝太郎	荒井賢太郎	大谷嘉兵衛	宇佐美勝夫	平野勇	木下正中	井上雅之助	古河虎之助	塚本清治	花房太郎	子爵
-------	-------	-------	-------	-----	------	-------	-------	------	------	----

一一九

230

常議員

志村源太郎	伯爵 佐野常羽	侯爵 蜂須賀正韶	大島健一	服部全太郎	伯爵 松平賴壽	淺田徳則	原保太郎	落合泰藏	子爵 實吉安純	子爵 石黒忠恵	窪田静太郎
-------	---------	----------	------	-------	---------	------	------	------	---------	---------	-------

一二八

明治二十七八年戦役ニ従事シ勤務中死歿セル教議員二十一名ヲ靖國神社へ合祀ノ儀
 仰出テ四月二十四日招魂式同二十五、二十六兩日臨時大祭ヲ舉行セラレタリ、因ニ
 明治三十七八年戦役及大正三四年乃至同九年戦役ノ際ニ於ケル教議員死歿者八十名ハ
 先ニ合祀セラハ

○社史稿編纂

明治四十一年以降大正十一年ニ至ル社史稿編纂成リタルヲ以テ十月印刷ニ付シ
 天皇

皇后兩陛下

皇太后陛下ニ獻上シ尙各支部及内外ノ要部ニ配布セラ

○諸規則ノ改正

發表月日	番 號	件 名
一月二十日	本達甲第一號	日本赤十字社教議員養成規則中改正
十二月二十三日	同 第二號	日本赤十字社教議員召集規則中改正

三月十五日

本達乙第一號

日本赤十字社教議員生徒養成配屬區分及派
 遣ニ關スル規程中改正

○理事会、常議會、監事會開會數

- 一 理事会 四十八回 決議 四百五十五件
- 一 常議會 十二回 決議 百八件
- 一 監事會 十回 監査 二百二十八件

○本年中取扱ヒタル書類及物品收發

- 一 接 受 三萬一千九百九十五件
- 一 發 送 二萬六千六百十八件

○社旨宣傳ニ關スル施設

- 雜誌 博 愛 月 刊
- 同 少年赤十字 年 四 回
- 同 海外少年赤十字彙報 月 刊
- 前記雜誌ノ外「ジャパン、マガジーン」誌上ニ本社事業ノ現況ヲ發表シ廣ク内外ニ社旨

ヲ宣傳スルト共ニ各種ノ啓事雜誌又ハ日刊新聞等ニ通信スルノ外「ボスター」又ハ「パンフレット」等ノ印刷物ヲ頒布シ以テ社業ノ周知ヲ期シ其ノ他各支部ニ開カラル少年赤十字又ハ各地方ノ衛生展覽會ニ對シテハ本社所屬ノ衛生材料、模型、「ボスター」等ヲ「キラム」等ヲ貸與シ社旨ノ普及ニ努メ尙左記展覽會ニ對シ各種ノ圖表、寫眞、模型等ヲ出品シタリ

内地

- 大阪支部新築記念展覽會
- 滋賀支部主催生活改善展覽會
- 神奈川縣支部主催結核豫防衛生展覽會
- 愛知支部一ノ宮第二少年赤十字團展覽會
- 福島支部日橋第一少年赤十字團成績品展覽會
- 山口支部行啓記念「パヤ」展覽會
- 長崎支部主催衛生展覽會

- 神奈川縣支部主催社會事業展覽會
- 三重支部西桑名少年赤十字團展覽會
- 福島支部梁川少年赤十字團成績品展覽會
- 三重支部野代少年赤十字團展覽會
- 國際聯盟協會主催世界國情展覽會
- 東京日日新聞主催乳兒衛生展覽會
- 東京市神田區町會聯合乳兒衛生展覽會
- 東京市淺草區衛生展覽會
- 朝鮮博覽會
- 東京府千駄ヶ谷町衛生展覽會
- 東京市政調査會主催帝都復興展覽會
- 東京府杉並町衛生展覽會
- 日本電氣株式會社主催衛生展覽會

鳥取縣米子高等女學校衛生展覽會
 長野縣須賀高等女學校衛生展覽會
 神奈川縣精華高等女學校衛生展覽會
 東洋大學主催排酒同盟「ボスター」展覽會

海外

米國國際病院會議看護婦會展覽會
 加奈陀赤十字社オントリオ支部赤十字展覽會
 ○名譽職出張
 平山社長

用務	出發月日	歸京月日
京都支部病院設立援助者招待ニ 總裁宮殿 下台臨ニ付陪席ノ爲	三月一日	三月三日
大阪支部事務所落成式、同支部御親授、長 崎支部特別社員職員總會、山口支部社員總 會、同支部病院創立十周年記念式、岡山支 部御親授等ニ 總裁宮殿下台臨ニ付 岡山支	四月七日	四月二十日

徳川副社長

佐賀支部事務所落成式ニ臨場、長崎支部視
 察 神奈川縣支部平塚少年赤十字團ニ於ケル偉
 人記念祭ニ參列 六月四日 六月十一日
 十一月十九日 即日

阪本副社長

相洲遊子ニ於ケル埼玉支部夏季兒童保養所
 視察 八月十四日 即日

澤理事

茨城縣下ニ於ケル陸軍特別大演習ニ際シ茨
 城支部施設ノ臨時救護所視察 十一月十三日 十一月十九日

大久保理事

朝鮮本部第四回社員總會ニ 總裁宮殿下台
 臨ニ付隨從 九月二十八日 十月十七日

十三、篤志看護婦人會

○本會 總裁宮殿下御名代暨名譽會員殿下台臨

三月二十六日本社病院ニ於テ救護看護婦生徒並産婆生徒卒業證書授與式舉行ノ際 總裁宮殿下御名代名譽會員梨本宮妃殿下、閑院若宮妃殿下台臨アラセラルレ 總裁宮殿下御諭旨ヲ賜フ

○慰問

八月十七日東京支部經營ノ深大寺林間兒童保養所ニ名譽會員李王妃殿下台臨親シク兒童ヲ御慰問アラセラルレ鍋島會長以下職員隨從慰問トシテ兒童四百五十名ニ菓子ヲ贈與セリ

十二月十三日日本社病院同産院ニ 總裁宮殿下暨名譽會員閑院若宮妃殿下台臨兩院收容中ノ救助患者ヲ御慰問アラセラルレ鍋島會長外職員隨從左記ノ通贈與セリ

一 英ナル 八十六反 病院救助患者ニ

一 同 五十八反 産院救助患者ニ

十一月十六日、同三十日東京市設置ニ係ル富川、千田、西平井、古石場、月島、押上、

玉姫、龍泉寺、大塚等九箇所ノ託兒所ヲ鍋島會長外幹事五名慰問シ夫々菓子料ヲ贈與セリ

○職員及會員數

職員	本會	八十八名(名譽職)
職員	支會	一千六百五十六名(名譽職)
會員	本會	二千七百九十三名
會員	支會	一萬五千六百七名

○支會及分會

支會 四十八 分會 七十四

○朝鮮本部及同支會

朝鮮本部 一 朝鮮本部支會 十四

八内佩有功章者四拾參人	—	—	508	2	517
七千參百貳人内佩有功章者六千六百五拾參人	—	—	120	2	487
四拾六萬七千參百六拾九人	—	—	181	5	375
内 納期申 百五萬貳千五百六拾五人	—	—	234	10	233
内 完納者 百四拾壹萬四千八百四人	—	—	89	1	214
表外贊助社員 參千六百參拾人	—	—	131	2	139
	見	鳥	12	—	20
	渡	國	189	2	778
	神	海	28	1	41
	奈	太	1,005	11	1,004
	佛	鮮	114	2	1,745
	德	西	—	—	—
	留	部	10	1	208
	議	部	—	—	—
	本	計	27	23	16,478
	小	計	23	23	520
			16,478	520	48,518
			—	—	1,745
合計	50	16,298	50,204		
前年	51	16,087	49,021		
比較	0	911	1,281		
減	1	—	—		

備考 本表人口比例算出ノ人口ハ昭

日本赤十字社社員統計表

昭和四年十二月末(第三期)現在

所管別 社員別	名譽社員		特別社員				正社員				小計		合計	有功章佩用者				二期以上年		人口一十 對入比例	社 員 別 所 管 別			
	男	女	功勞		篤志		完納		納期中		男	女		功勞	篤志	功勞	篤志	男	女			計		
			男	女	男	女	男	女	男	女														
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計					
北海道	—	—	458	13	2,037	43	25,240	1,415	26,658	560	54,433	2,023	56,464	26	—	109	2	100	6	106	22	10	北 道 道 道	
東北	14	19	1,382	190	2,429	453	34,515	6,271	40,786	2,553	37,339	9,486	46,825	415	27	636	136	140	27	167	13	2	東 北 道 道	
関東	1	1	296	10	1,098	142	29,182	2,934	32,116	1,372	30,744	4,406	35,150	41	2	227	19	714	27	741	50	20	關 東 道 道	
中部	—	—	214	27	2,265	218	48,879	5,879	54,758	1,005	55,763	7,729	63,492	48	—	676	78	1,074	97	1,171	23	5	中 部 道 道	
近畿	—	—	207	4	781	75	16,726	880	17,606	385	17,991	1,344	19,335	20	—	101	8	—	—	—	19	—	近 畿 道 道	
四国	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四 国 道 道	
九州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	九 州 道 道	
支店	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	支 店 道 道
小計	27	23	16,478	220	48,518	1,786	1,354,903	59,901	1,414,804	31,156	1,445,960	1,021,307	2,467,267	1,636	67	4,661	230	—	—	—	—	—	—	小 計 道 道
合計	27	23	16,478	220	48,518	1,786	1,354,903	59,901	1,414,804	31,156	1,445,960	1,021,307	2,467,267	1,636	67	4,661	230	—	—	—	—	—	—	合 計 道 道
前年	—	—	16,998	—	60,294	—	1,392,015	—	1,452,309	—	1,412,304	—	1,021,307	—	—	4,991	—	4,943	204	5,207	—	—	—	前 年 道 道
増減	—	—	16,087	—	49,922	—	1,062,815	—	1,060,495	—	2,413,656	—	2,445,960	—	—	4,761	—	4,761	202	5,012	—	—	—	増 減 道 道
比	—	—	911	—	1,241	—	21,789	—	2,162	—	25,399	—	26,142	—	—	152	—	182	12	194	—	—	—	比 較 道 道

備考 本表人口比例算出ノ人口、昭和二年十月一日現在推計人口ヲ用ク

裏面白紙

名譽社員
 特別社員
 功勞
 篤志
 完納
 納期中
 有功章佩用者
 二期以上年
 人口一十
 對入比例
 支店
 小計
 合計
 前年
 増減
 比

支部、朝鮮本部及奉天病院職員一覽表

昭和四年十二月末日現在

職別	病院別	職員																		
		院長	副院長	醫長	藥劑長	事務長	醫員	調劑員	助手	調劑員	看護婦	看護婦	寫字	技手	看護長	看護婦	産婆	星	計	
	奉天病院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	朝鮮本部病院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	遼瀋支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	高知支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	愛媛支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	香川支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	和歌山支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	山口支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	岡山支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥取支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	富山支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	福井支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	秋田支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	岩手支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	宮城支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長野支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長野支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	滋賀支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	三重支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	茨城支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	群馬支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東京支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	北海道支院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

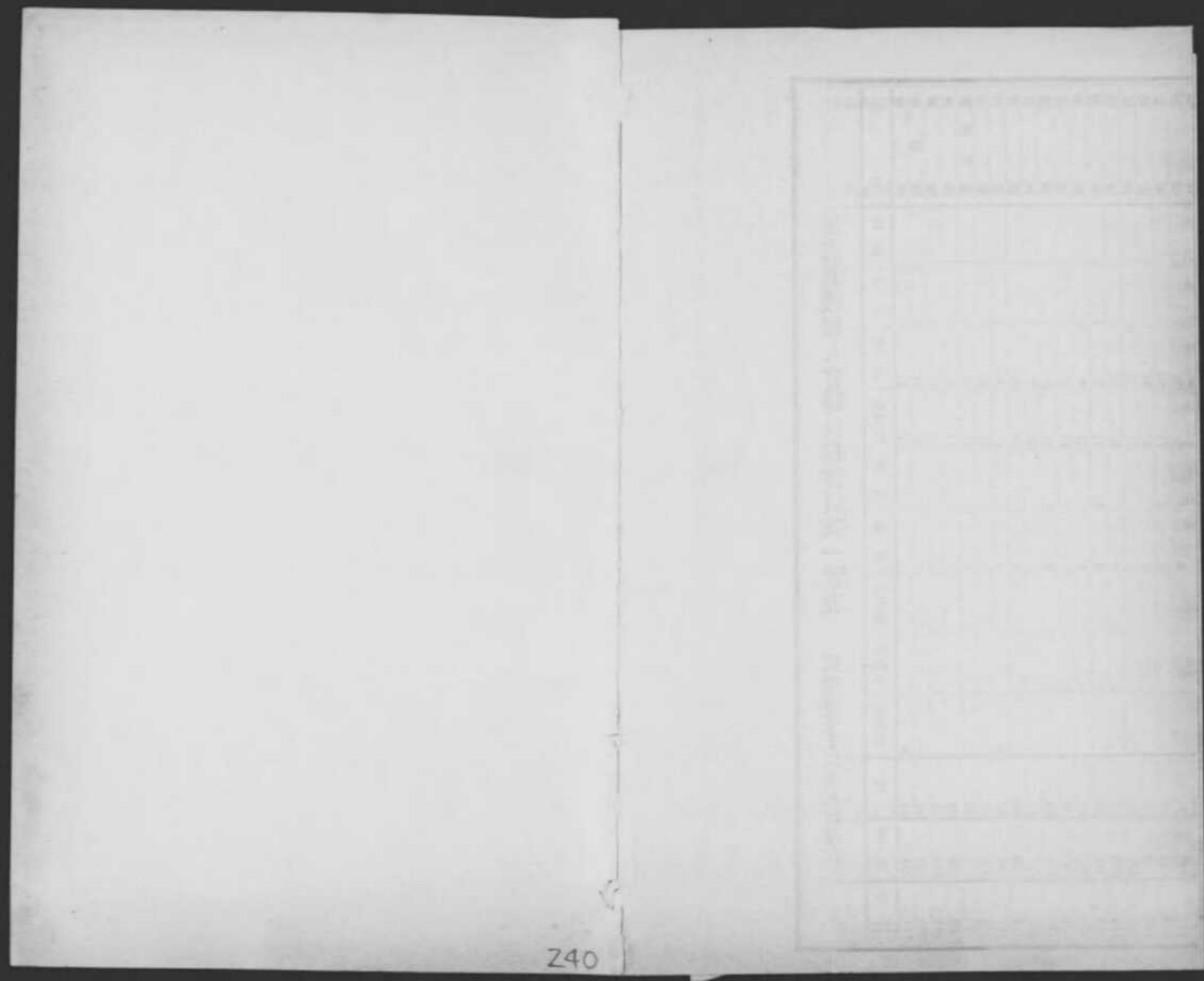
表甲ノ(ケ)ハ業務、(休)ハ休職ノ略ナリ

裏面白紙

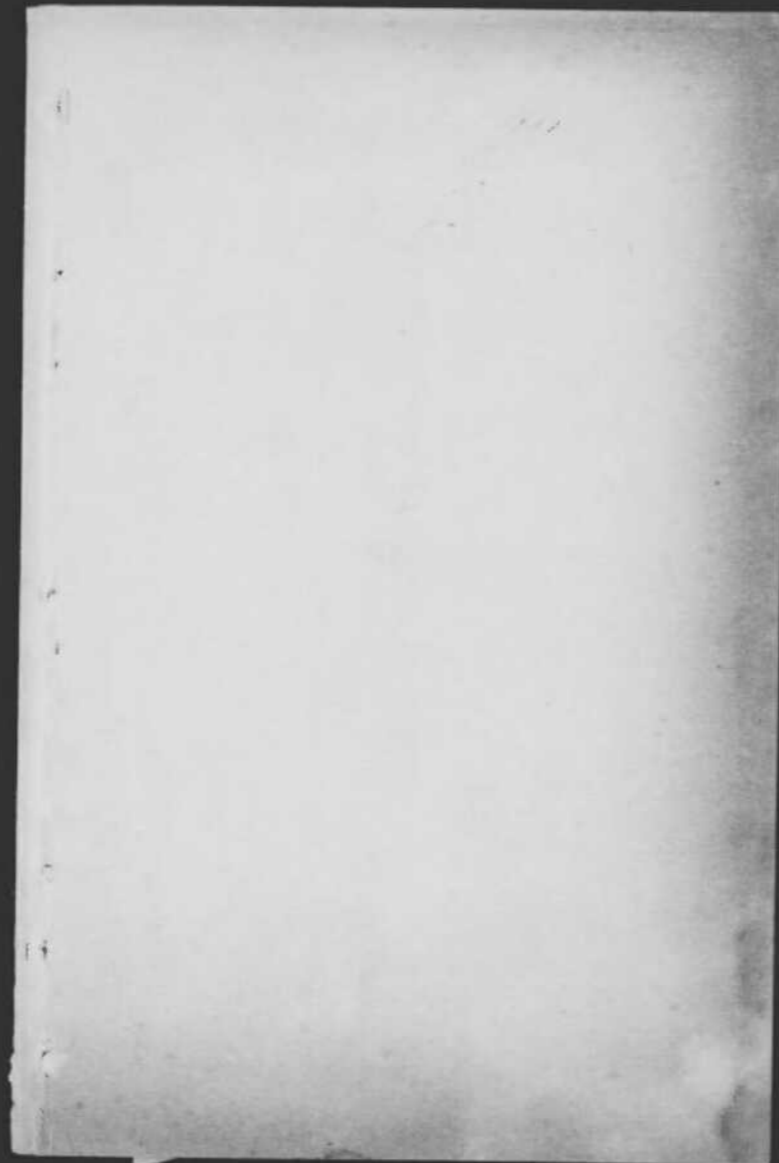
裏面白紙

篤志看護婦人會職員並會員數一覽表
昭和四年十二月末日現在

部名	會長	副會長	幹事	評議員	國體	講師	分會長	副分會長	職員	計	會員	合計
北海道												
青森縣												
岩手縣												
秋田縣												
山形縣												
福島縣												
茨城縣												
栃木縣												
群馬縣												
神奈川縣												
山梨縣												
長野縣												
新潟縣												
富山縣												
石川縣												
福井縣												
岐阜縣												
愛知縣												
三重縣												
滋賀縣												
京都府												
大阪府												
兵庫県												
奈良縣												
和歌山縣												
徳島縣												
香川縣												
高松縣												
愛媛縣												
高知縣												
福岡縣												
佐賀縣												
熊本縣												
鹿兒島縣												
那霸縣												
朝鮮												
總計												



240



昭和五年度事務竝決算報告書

日本赤十字社

241

一 帝室ノ恩眷

昭和五年度事務並決算報告書(自昭和五年一月至同十二年二月)

天皇

皇后陛下ヨリ本院維持費金壹萬圓及

皇室下部各病院救助患者施療費金五千圓ヲ例年ノ通御下賜アラセラレ尙向蒙ニ

ヲ御下賜アラセラレ十二月二日拜受セリ

昭憲皇后基金利子分配

昭和五年(一九二〇年)四月十一日(皇太后御祭日)ヲ於テ照憲皇太后基金利子第九回分

配ヲ行ヒ瑞西貨一萬四千法ヲ左ノ通分贈セル旨同委員會ヨリ通知アリタリ

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

一 瑞西貨一萬四千法

形(一)兒童健康相談所 東京、京都、埼玉、群馬、栃木、奈良、山梨、長野、岩手、山形、廣島、山口、和歌山、愛媛、島根、十五支部十五箇所ニ設置シ取扱件數六萬九千七百七十三件ニ達セリ
(二)學務部ニシテ其ノ人員百三十五名、派遣學校數百九十六校ナリ
(三)委員及兒童養護等講習會ヲ開キタルハ北海道、大阪、神奈川縣、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、奈良、静岡、岐阜、長野、宮城、福島、岩手、鳥根、廣島、山口、愛媛等ノ十支部ナリ
(四)千葉支部富浦海濱學校 本年中本校ニ收養セル兒童ハ男百八名、女六十名、合計百五十八名ナリ
(五)京都支部長崎、岩手、山口、愛媛、三重、滋賀、岩手、福井、鳥取、山口、和歌山、埼玉、長崎、鹿兒島、熊本、熊本ノ四支部ニ入院セル児童ハ百三十八名ナリ
(六)東京支部長崎、岩手、山口、愛媛、三重、滋賀、岩手、福井、鳥取、山口、和歌山、埼玉、長崎、鹿兒島、熊本、熊本ノ四支部ニ入院セル児童ハ百三十八名ナリ
外來及往診人員數 九萬四千四百八十八名
同入院人員數 九萬四千四百八十八名
同外來及往診人員數 九萬四千四百八十八名
一 產婆生徒養成 本社產院及大阪、兵庫、三重、滋賀、岩手、福井、鳥取、山口、和歌山、香川、愛媛ノ十一支部病院ニ附設セル產婆養成所ニ於テ養成シタル本年度ノ卒業生ハ百八名ニシテ生徒現在數ハ三百十六名ナリ
一 常備產婆 本部員大阪、兵庫、埼玉、滋賀、和歌山、香川ノ六支部ニ於ケル年末現在數百二名ナリ
一 社會看護婦 本年入學セル者八名、卒業セル者九名ニシテ卒業者(前年ノ卒業者共)

ノ勤務別ハ巡回看護ニ從事セル者七名、工場、學校各二名、特殊病院勤務五名ナリ
一 看護婦外國語學生 本年中新ニ入學セシメタル看護婦外國語學生ハ一名、年末現在數五名ナリ
一 病院取扱患者數 本年中本部及北海道、大阪、兵庫、群馬、茨城、三重、滋賀、鹿兒島、長野、宮城、岩手、秋田、福井、富山、鳥取、岡山、山口、和歌山、香川、愛媛、高知、臺灣ノ二十二支部、二十三箇ノ病院、鈺朝鮮本部、奉天病院等ノ各病院ニ於テ取扱ヒタル患者數左ノ如シ
同上 延人員數 五萬三千九百九十九名
同上 譯人員數 百二十六萬八千二百二十二名
一 普內 四萬六千三百三十八名
一 施療ヲ爲シタル者 二百九十九萬三千八百八十三名
一 定額ヲ輕減シタル者 九百九十二萬二千七百七十八名
一 他團體ノ依頼患者ニシテ定額ヲ輕減シタル者 四百四十名
一 同外來患者實數 延人員 四百一十一萬六千九百六十八名
一 同上 譯人員數 延人員 四百四十二萬八千四百七十九名
一 普內 延人員 三十八萬九千九百九十名
一 施療ヲ爲シタル者 二萬七千七百六十二名

監事會 十二回

昭和五年度常用部歳入歳出決算書

第一項 年歳入經常部	金百六拾壹萬參千五百六拾圓九拾參錢
第一項 年歳入經常部	金百六拾壹萬參千五百六拾圓九拾參錢
第二項 寄附金	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第二十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第三十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第四十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第五十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第六十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第七十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第八十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十一項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十二項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十三項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十四項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十五項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十六項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十七項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十八項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第九十九項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢
第一百項 雜項收入	金七拾貳萬八千九百九拾圓九拾參錢

一 少年赤十字 本年加入者ニシテ定額ヲ輕減シタル者 六十六萬八百三十五人
 他團體ノ依託患者ニシテ定額ヲ輕減シタル者 三十二人
 一 外國ニ於ケル災害ニ對シテ救援金ノ寄贈 本年度中外國ニ於ケル災害ニ對シテ寄贈シタル金額ハ約一千七百五十圓ニシテ前年度比約八百圓ノ多シ
 一 佛蘭西赤十字會 佛蘭西赤十字會ニ於ケル災害ニ對シテ寄贈シタル金額ハ約八百圓ニシテ前年度比約四百圓ノ多シ
 一 印度赤十字會 印度赤十字會ニ於ケル災害ニ對シテ寄贈シタル金額ハ約三百六十六圓ニシテ前年度比約二百圓ノ多シ
 一 伊太利赤十字會 伊太利赤十字會ニ於ケル災害ニ對シテ寄贈シタル金額ハ約二百四十四圓ニシテ前年度比約一百圓ノ多シ
 一 サント・ドミンゴ赤十字會 邦貨五百圓
 一 同年十月サント・ドミンゴ暴風雨被害者救援ノ爲 四十六圓

豫算部

昭和五年度常用部歳入歳出決算書

第一款 年 歳入 經常部	金百六拾壹萬參千五百六拾圓九拾參錢
第二款 寄附金	金百七拾貳萬九千四百拾圓九拾參錢
第三款 寄附金	金七拾參萬八千九百拾圓四錢
第四款 寄附金	金貳萬貳千七百七拾圓七錢
第五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第二十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第三十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第四十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第五十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第六十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第七十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第八十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十一款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十二款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十三款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十四款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十五款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十六款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十七款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十八款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第九十九款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢
第一百款 寄附金	金七拾貳萬八千九百拾圓四錢

少年赤十字 本年増加セル團數ハ北海道外四十五支部及朝鮮本部、滿州委員部ニシテ通數六千三百六十、團員百四十九萬一千六百六十六名ナリ又本年中外少年赤十字團トシテ通信ノ交換ヲ爲シタルハ未滿外三十箇國ニシテ發信一千三十二件、受信一千百九十七件ナリ

外國ニ於ケル災害ニ對シ救援金ノ寄贈 本年度中外國ニ於ケル災害ニ對シ左記ノ通寄贈シテ同情ヲ表セリ

- 一 哈爾濱救濟團シテ大洋五千元 (邦貨約二千七百五十圓)
- 一 佛蘭西赤十字社 佛蘭西地方水害罹災者救護ノ爲 (邦貨約八百圓)
- 一 印度赤十字社 印度地方水害罹災者救護ノ爲 (邦貨約三百六十六圓)
- 一 伊太利赤十字社 伊太利地方地震罹災者救護ノ爲 (邦貨約一千四百九十四圓)
- 一 サント・ドミンゴ赤十字社 邦貨五百圓

同年十月サント・ドミンゴ暴風雨被害者救護ノ爲 理事會常事議會 監事會 開會數 四十六回

豫算関係

第四款	不動產	金壹萬四千八百八拾圓
第五款	補助	金四萬六千六百九拾圓
第六款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第七款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第八款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第一款	本	金八拾萬七千七百九拾圓
第二款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第三款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第四款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第五款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第六款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第七款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第八款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第九款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第十款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓

第四款	不動產	金壹萬四千八百八拾圓
第五款	補助	金四萬六千六百九拾圓
第六款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第七款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第八款	前年	金八萬六千六百九拾圓
第一款	本	金八拾萬七千七百九拾圓
第二款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第三款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第四款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第五款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第六款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第七款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第八款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第九款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓
第十款	特別	金貳拾萬七千七百九拾圓

右歲出總計金八百貳拾八萬九千八百參拾貳圓八拾參錢
 昭和六年四月

日本赤十字社
 社長 公島

右決算正確ナルヲ認ム
 昭和六年四月

日本赤十字社
 子爵 侯爵

監事 德島 長松 大鶴 花房 田久 田保 静太郎 久太郎 寛太郎
 理事 德島 長松 大鶴 花房 田久 田保 静太郎 久太郎 寛太郎
 事務 德島 長松 大鶴 花房 田久 田保 静太郎 久太郎 寛太郎

第五項	第四項	第三項	第二項	第一項	第一項	第一項	第一項	第一項	第一項
支金	支金	支金	支金	支金	支金	支金	支金	支金	支金
移費	移費	移費	移費	移費	移費	移費	移費	移費	移費
金七拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金六拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金五拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金四拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金三拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金二拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金一拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金一拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金一拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢	金一拾貳萬七千九百九拾貳圓四拾貳錢

昭和五年度基金部歳入歳出決算書

第一項	歳入	金千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢
第一項	根拠金	金千六百七拾六萬八千八百五拾七圓五拾壹錢
第二項	寄附金	金七拾八萬參千參百四圓九錢
第三項	利息	金貳拾四萬六千四百六拾七圓四拾壹錢
第四項	移積金及雑入	金六拾七萬七千壹圓七拾七錢
第二項	歳出	金六拾五萬貳千參百八拾圓參拾貳錢
第一項	前年度繰越金	金七拾八萬四圓九錢
第二項	常備金	金八拾貳萬九千五百八拾貳圓九拾七錢
第三項	前年度繰越金	金六千四百六拾八圓五拾五錢
第四項	補填費	金四萬參千八百六圓貳拾六錢
第五項	前年度繰越金	金四萬參千四百參拾壹圓貳拾參錢
第六項	前年度繰越金	金參百七拾五圓參錢
第七項	前年度繰越金	金五千七百參拾五圓四拾五錢
第八項	前年度繰越金	金五千四百五圓四拾五錢
第九項	前年度繰越金	金百參拾圓
第十項	前年度繰越金	金百參拾圓

第六款	少年赤十字獎勵	金七千九百參拾參圓
第一項	前年度繰越金	金七千五百參拾圓
第二項	寄附金	金四百圓
第三項	利息	金千四百九拾參萬九千百貳拾壹圓拾五錢
第四項	移積金及雑入	金千四百九拾貳萬八千八百八拾壹圓四錢
第五項	前年度繰越金	金七拾五萬九千貳百五拾參圓參拾貳錢
第六項	前年度繰越金	金五萬七千貳百八拾七圓七拾九錢
第七項	前年度繰越金	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢
第八項	前年度繰越金	金四百九拾壹萬四千參百五拾貳圓七錢
第九項	前年度繰越金	金八拾五萬六千六百參拾伍圓八拾參錢
第十項	前年度繰越金	金四拾八萬九千七百九拾九圓四錢
第十一項	前年度繰越金	金百八拾八萬九千八百四拾九圓九錢
第十二項	前年度繰越金	金七萬九千五百八拾七圓四拾五錢
第十三項	前年度繰越金	金七萬六千參百八拾七圓四拾五錢
第十四項	前年度繰越金	金參百參萬八千五百九拾六圓四拾六錢
第十五項	前年度繰越金	金貳百貳拾貳萬九千參百四拾圓四拾四錢
第十六項	前年度繰越金	金七拾萬九千四拾壹圓九拾六錢

第九款	第三項	第二項	第八款	第三項	第二項	第七款	第二項	第六款	第二項	第五款	第一項	第四款	第一項	第三款	第二項	第二款	第一款
病院資金支出	雜費	雜費	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出
金八百八十八萬九千九百五拾四錢	金八千五百七拾四圓七拾參錢	金八千五百七拾四圓七拾參錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢

第一款	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款	第七款	第八款	第九款	第十款	第十一款	第十二款	第十三款	第十四款	第十五款	第十六款	第十七款	第十八款	第十九款	第二十款
支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出	支那常備資金支出
金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢	金七千七百七拾九萬八千八百五拾七圓五拾壹錢

第一項	病院常備資金支	金參萬五千百參拾四九錢
第二項	病院常備資金支	金百八拾五萬參千八百七拾貳圓四拾五錢
第三項	病院常備資金支	金參百參萬八千五百九拾六圓四拾六錢
第四項	病院常備資金支	金六拾七萬九百五拾四圓四拾貳錢
第五項	病院常備資金支	金貳百參拾六萬七千六百四拾貳圓四錢
第六項	病院常備資金支	金貳百四拾壹圓六拾九錢
第七項	病院常備資金支	金貳萬九百貳拾九圓八錢
第八項	病院常備資金支	金六千參百貳拾貳圓五拾九錢
第九項	病院常備資金支	金參萬四千五百九拾六圓四拾九錢
第十項	病院常備資金支	金五萬參千四百貳拾九圓七拾六錢
第十一項	病院常備資金支	金五萬七千六百五拾九圓六拾八錢
第十二項	病院常備資金支	金壹萬九千七百四拾八圓
第十三項	病院常備資金支	金參萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十四項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十五項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十六項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十七項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十八項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第十九項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
第二十項	病院常備資金支	金壹萬七千九百拾壹圓六拾八錢
合計	病院常備資金支	金參萬五千百參拾四九錢
右決算書面之通和六年四月		

日本赤十字社
 社長 公爵 阪徳
 理事 本川川
 副社長 公爵 本川川
 同 公爵 本川川
 之 公爵 本川川
 助 公爵 本川川

右決算正確ナルヲ認ム
 昭和六年四月 日

日本赤十字社
 監事 長 桑 大 松 鶴 雀 花
 監事 井 田 久 田 崎
 監事 保 静 田 房
 監事 省 熊 太 太 利
 監事 吾 藏 茂 武 郎 郎 郎
 監事 寬 郎 郎 太 太 太 太

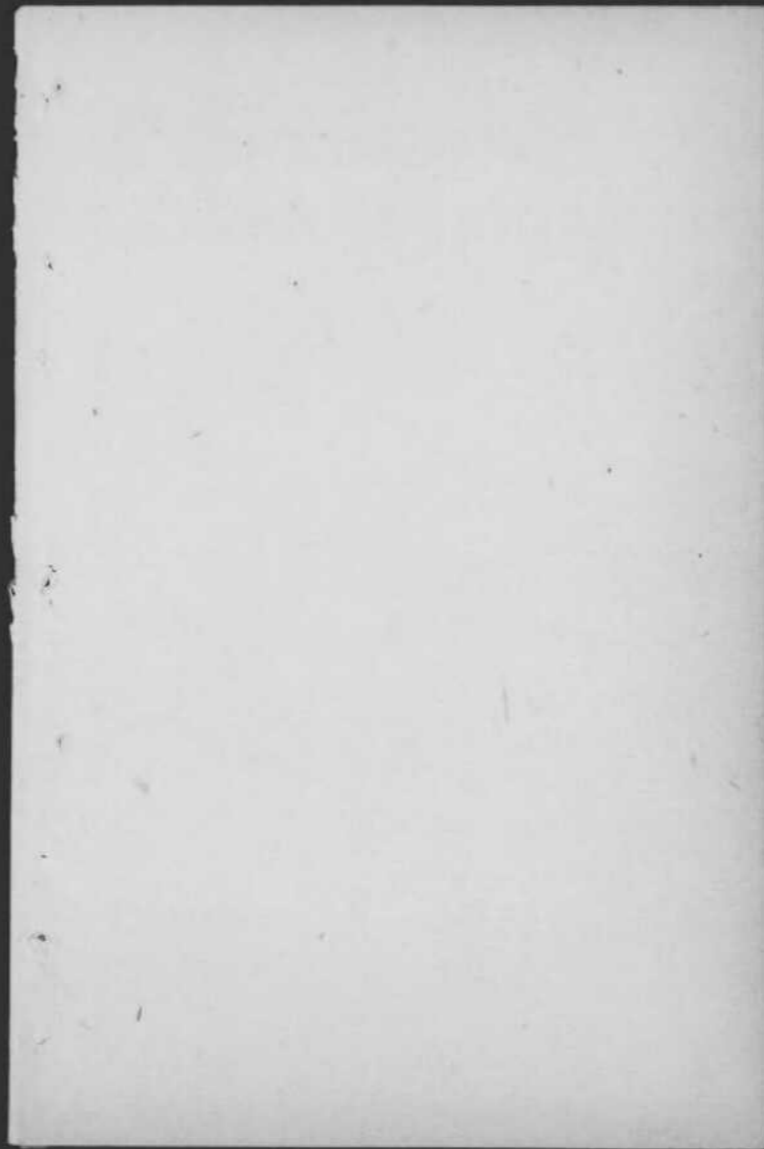
日本赤十字社財産目録

(昭和五年度末)

二六

合	關備教建士	線現郵銀有
小	小	
	護	便行價
		替
	材	貯預設
計	計	
計	書品料物地	金金金金券

六二	一	四	二
五三	四一	三三	九八
七四	三六	二八	五七
八四	一四	六八	五四
二六	四三	六五	二二
〇四	二三	六一	六九
七六	二六	五〇	一四
四一	八八	九〇	三三
五三	二九	五九	六二
七六	九六	九一	一一



昭和五年度事務並決算報告書

日本赤十字社

256

一 災害救護 本年各支部臨時救護所ニ於テ取扱ヒタル救護ノ状況左ノ如シ

救護事件 本年七月二十日 二七四件
 救護患者日數 二四七名
 救護延入者日數 二四七名
 救護延入者日數 二四七名

右事件ノ種類ハ地震一件、風水害二件、火災四件、臺灣霧社蕃人
 前揭災害救護中ノ最モ著明ナリシハ十一月二十六日北伊豆地方震災ニシテ四部五十三
 病者ノ救護ニ從事セリ、救護ヲ以テ静岡、神奈川、東京各支部ヨリ救護班ヲ派遣シ、
 病者ノ救護ニ從事セリ、救護ヲ以テ静岡、神奈川、東京各支部ヨリ救護班ヲ派遣シ、
 病者ノ救護ニ從事セリ、救護ヲ以テ静岡、神奈川、東京各支部ヨリ救護班ヲ派遣シ、
 病者ノ救護ニ從事セリ、救護ヲ以テ静岡、神奈川、東京各支部ヨリ救護班ヲ派遣シ、

一 常設診療所ニ於ケル救護 本年中東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、長崎、
 愛知、静岡、岐阜、宮城、廣島、福岡ノ十二支部及滿州委員部ノ診療所ニ於テ取扱ヒ
 タル患者日數左ノ如シ
 診療患者日數 一三萬一千三百八十六名
 同診患者日數 百一十九名
 本年中北海道、大阪、神奈川、兵庫、新潟、埼玉、

患者日數	七、四四〇
延入者日數	八、八七五

一 救急 函二 依ル救護 本年中京都、大阪、埼玉、奈良、三重、愛知、静岡、滋賀、
 岐阜、岩手、青森、石川、富山、鳥取、廣島、山口、和歌山、徳島、高知、福岡、佐
 賀、熊本ノ二十二支部及朝鮮本部、滿州委員部等ニ於テ設ケタル救急函ニテ救急處置
 ヲ行ヒタル人員左ノ如シ
 救急人員 四十萬三千五百五十九名
 本年中各支部及朝鮮本部、滿州委員部ニ於テ取扱ヒタル結核
 患者日數左ノ如シ
 結核患者日數 六千六百八十二名
 同診患者日數 六千六百八十二名
 同診患者日數 六千六百八十二名

一 兒童及妊産婦保護 本年夏季林間又ハ海濱ニ於テ兒童保養所ヲ施設セルモノ左ノ如
 シ
 兒童及妊産婦保護 本年夏季林間又ハ海濱ニ於テ兒童保養所ヲ施設セルモノ左ノ如
 シ
 兒童及妊産婦保護 本年夏季林間又ハ海濱ニ於テ兒童保養所ヲ施設セルモノ左ノ如
 シ

本社支部ノ舉辦施設セルモノ	二七	支 部 數	二七	設 置 數	三五	取扱兒童數	三、九九五
他ノ團體ト共同施設セルモノ	一一				一一		三、一九四
他ノ保養所ヲ援助シタルモノ	二七				二七		二、二五四

一、勤務別へ巡回看護ニ従事セル者七名、工場、學校各二名、特殊病院勤務五名ナリ
 一、看護婦外國語學生 本年中新入學セシメタル看護婦外國語學生ハ一名、年末現
 在數五名ナリ
 一、病院取扱患者數 本年中本部及北海道、大阪、兵庫、群馬、茨城、三重、滋賀、愛
 媛、高知、香川、宮城、岩手、秋田、福井、富山、鳥取、岡山、山口、和歌山、香川、愛
 ナ取ヒタル患者數左ノ如シ 五萬三千九百九十九名
 入院患者實數 百二十六萬八千二百二十二名
 同上 延人員 四萬六千三百三十八名
 普内 譯 二百九十萬四千三百八十三人
 施療ヲ爲シタル者 九百八十一名七百七十人
 定額ヲ經シタル者 九百八十一名七百七十人
 他團體ノ依託患者ニシテ定額ヲ經シタル者 四百四十名
 同上 延人員 四百四十名
 外來患者實數 四百四十名
 同上 延人員 四百四十名
 普内 譯 四百四十名
 施療ヲ爲シタル者 四百四十名

一、産婆生徒養成 本社産院及大阪、兵庫、三重、滋賀、岩手、福井、鳥取、山口、和
 歌山、香川、愛媛ノ十一支部病院ニ附設セル産婆養成所ニ於テ養成シタル本年度ノ卒
 業生ハ百八名ニシテ現在數ハ三百十六名ナリ 産婆養成所ニ於テ養成シタル本年度ノ卒
 業生ハ百八名ニシテ現在數ハ三百十六名ナリ
 一、常備産婆 本部並大阪、兵庫、埼玉、滋賀、和歌山、香川ノ六支部ニ於ケル年末現
 在數百二名ナリ 本年入學セル者八名、卒業セル者九名ニシテ卒業者(前年ノ卒業者共)
 一、社會看護婦 本年入學セル者八名、卒業セル者九名ニシテ卒業者(前年ノ卒業者共)

一 少年赤十字 同上 延人員 六十六萬八百三十五人
 定額ヲ經減シタル者 三千二百三十六名
 他團體ノ依託患者ニシテ定額ヲ經減シタル者 一千二百二十二人
 一 外國ニ於ケル災害ニ對シ救援金ノ寄贈 本年度中外國ニ於ケル災害ニ對シ
 左記ノ通寄贈シテ同情ヲ表セリ 本年寄附約二千七百五十四圓
 一 哈爾濱救濟團體 大洋五千元 (邦貨約二千七百五十四圓)
 一 佛蘭西赤十字社 佛蘭西赤十字社 (邦貨約八百圓)
 一 印度赤十字社 印度赤十字社 (邦貨約三百六十六圓)
 一 伊太利赤十字社 伊太利赤十字社 (邦貨約二千四百九十四圓)
 一 ナント、ドミンゴ赤十字社 邦貨五百圓
 同年十月サント、ドミンゴ暴風雨被害者救護ノ爲
 一 理事會 常議會 監事會 開會數 四十六回

監事會 十二回

昭和五年度常用部歳入歳出決算書

第一項 歳入 經常部	金百六拾壹萬參千五百六拾圓九拾參錢
第一款 年 歲入 經常部	金百六拾壹萬參千五百六拾圓九拾參錢
第二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第二十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第三十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第四十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第五十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第六十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第七十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第八十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十一款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十二款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十三款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十四款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十五款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十六款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十七款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十八款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第九十九款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢
第一百款 寄附金	金七拾柒萬九千九百四拾圓九拾參錢

昭和五年度基金部歳入歳出決算書

第一項	根拠	金七百七拾九萬八千五百七拾七圓五拾壹錢
第二項	前年度繰越	金千六百七拾六萬八千八百八拾六圓壹錢
第三項	寄附	金七拾八萬參千參百四圓九錢
第四項	移積金及雜入	金貳拾四萬六千四百六拾七圓四拾壹錢
第五項	救護準備金	金六拾七萬七千壹圓七拾七錢
第六項	前年度繰越	金六拾五萬貳千參百八拾圓參拾貳錢
第七項	寄附	金七拾八萬參千參百四圓九錢
第八項	前年度繰越	金貳拾四萬六千四百六拾七圓四拾壹錢
第九項	常備金	金八拾貳萬九千五百八拾貳圓九拾七錢
第十項	前年度繰越	金六拾四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十一項	補填	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十二項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十三項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十四項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十五項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十六項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十七項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十八項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十九項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第二十項	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢

第六款	少年赤十字獎勵	金七千九百參拾參圓
第七款	寄附	金七千五百參拾圓
第八款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第九款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十一款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十二款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十三款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十四款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十五款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十六款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十七款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十八款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第十九款	寄附	金四萬參千八百六拾貳圓六錢
第二十款	前年度繰越	金四萬參千八百六拾貳圓六錢

第九款	第三項	第一項	第八款	第三項	第一項	第七款	第一項	第六款	第一項	第五款	第一項	第四款	第一項	第三款	第一項	第二款	第一項	第一款	第一項	
病院資金支出	雜年度繰越金	雜年度繰越金	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支	支部常備資金支
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
百八拾八萬九千貳圓五拾四錢	金八拾七萬七千九拾五圓拾五錢	金八拾七萬七千九拾五圓拾五錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢	金五百六拾貳萬六千九百貳拾六圓參拾四錢

第二項	第一款	第二款	第三款	第四款	第五款	第六款	第七款	第八款	第九款	第十款	第十一款	第十二款	第十三款	第十四款	第十五款	第十六款	第十七款	第十八款	第十九款	第二十款
療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入	療養所資金收入
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢	金貳百五拾圓貳拾四錢

第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第七項	第八項	第九項	第十項	合計
出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出
醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金	醫院常備資金
金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢	金參萬五千參拾四圓九錢

日本赤十字社理事
 社長 公野 德
 副社長 公野 德
 同 公野 德
 本 川 川
 之 圓 家
 助 順 逸

右決算正確ナルヲ認ム
 昭和六年四月 日

日本赤十字社

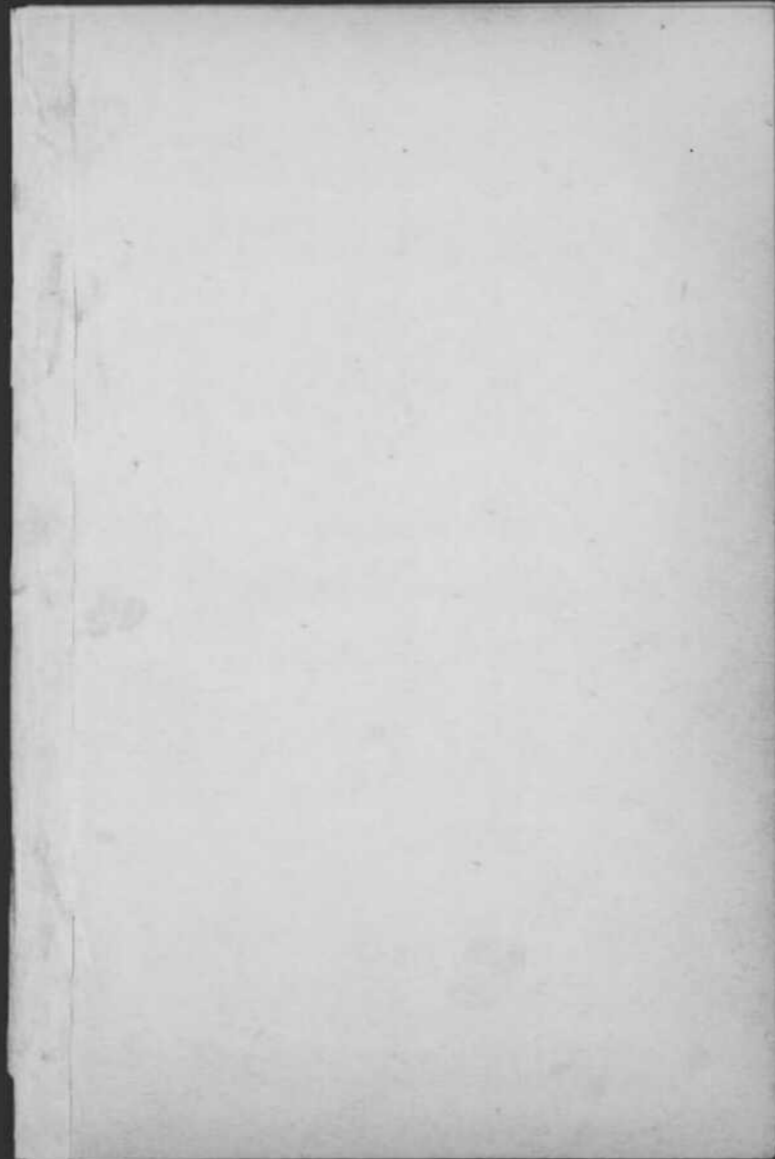
侯爵 長松 桑
 子爵 鶴田 久
 花庄 鶴田 久
 内正 荒 藤 静
 藤 井 静
 藤 井 静
 久 大 太 利
 寛 郎 郎 武 茂 藏 吾

日本赤十字社財産目録

(昭和五年度末)

有銀郵現 建士教備 圖書 合小
 銀行價 替 貯預證 材 計
 券金金金 地物料品 計

六二	一	四	二
五三	四一	三三	九八
七四	三六	二八	五七
八四	一四	六八	五四
二六	四三	六五	二二
〇四	二六	一一	六九
七六	二六	五〇	一四
四一	八八	九〇	三三
五三	二九	五九	六二
七六	九六	九一	一一



日本赤十字社定款

明治三十一年七月九日第十回總會ニ於テ議定
明治三十四年十二月五日ヨリ實施
明治四十三年六月三日第十八回總會ニ於テ改正議決
明治四十三年七月二十三日認可
大正十二年五月十六日第三十一回總會ニ於テ改正議決
大正十二年七月十七日認可

(大正十三年十月印刷)

271

緒言

本社ハ明治十年西南ノ戦争ニ際シ戦地ノ傷者病者ヲ彼我ノ別ナク治療
愛護スルノ目的ヲ以テ創立セルモノニシテ博愛社ト名ツケ當時征討總
督府ノ允許ヲ得テ實地ニ就キ業務ヲ行ヒ役託ルノ後之ヲ永設ノ一社ト
シ平時務メテ諸般ノ準備ヲ爲シ有事ノ日救護ノ事ニ從フヲ期セシカ明
治十九年我政府デニネーグ條約ニ加盟セラレシヲ以テ本社モ亦益事業
ヲ擴張センコトヲ決シ明治二十年社名ヲ日本赤十字社ト改稱シ社則ヲ
更定シ進テデニネーグ赤十字國際委員ト交渉シ同盟國ノ諸社ト聯伍セ
リ而シテ明治二十七八年及三十七八年ノ戦役ニ於テハ救護員ヲ内外各
地ニ派遣シテ彼我ノ傷者病者ヲ救護シ畏クモ

天皇
皇后兩陛下ヨリ優渥ナル勅語令旨ヲ賜ハリタリ今ヤ社運ノ隆盛ト共ニ

二
愈其ノ基礎ヲ鞏固ニセシカ爲メニ定款ヲ改正スルコト左ノ如シ

日本赤十字社定款

第一款 總 則

第一條 本社ハ民法ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ許可ヲ得テ社團法人ト爲ス

第二條 本社ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ至貴至高ナル保護ヲ受ク

第三條 本社ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第四條 本社ハ西曆千八百六十三年十月瑞西國ヂュネーテグ府ニ開設セル
萬國會議ノ議決及赤十字事業ニ關シテ帝國政府ノ編置ニ係ル國際條約
ノ主義ニ從フ

前項ノ外西曆千九百十九年五月佛蘭西國巴里府ニ於テ創設セル赤十字

社聯盟ノ條規ノ主義ニ從フ

第五條 本社ノ記章ハ白地赤十字トス

第六條 本社ノ定款ハ總會ノ議決ヲ經タル後主務官廳ノ認可ヲ受クルニ
非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本社ハ法定ノ解散事由アルニ非サレハ解散スルコトナシ
解散ノ議決ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 目的及事業

第八條 本社ハ戰時傷者病者ヲ救護スルヲ以テ主タル目的トス

前項ノ外天災事變ノ救護ヲ行ヒ及ヒ平時健康ノ増進疾病ノ豫防苦痛ノ
軽減ヲ圖ルモノトス

第九條 本社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一 戰時ニアラフニ當該官憲ノ命令ニ從ヒ傷者病者ヲ救護スルコト
二 前號ノ爲メニ必要ナル人員ヲ養成シ物品材料ヲ蒐集シ其ノ準備ヲ

完整スルコト

三天災事變ニ應スル準備及救護ヲ爲スコト

四健康ノ増進疾病ノ豫防苦痛ノ軽減ヲ圖ルコト

本社ハ前記事業ニ必要ナル病院其ノ他ノ機關ヲ設ク

第三款 名務及事務所

第十條 本社ハ日本赤十字社ト稱ス

第十一條 本社ハ主タル事務所ヲ東京市芝區芝公園第五號地一番ニ置ク
但シ常議會ノ議決ニ依リ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四款 資 産

第十二條 本社ノ資産ハ左ノ如シ

一 本社ノ所有ニ屬スル動産不動産

二 帝室ノ恩賜金

三 社員ノ年賦金有志者ノ寄附又ハ遺贈ニ係ル金錢物品

四

四 本社ノ財産ヨリ生スル收益及雑收入

第十三條 資産ノ管理及處分ニ關スル規則ハ常議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五款 社 員

第十四條 本社ノ社員ハ左ノ三種トス

一 正社員

正社員ハ年賦金奉還以上ヲ納ムル者トス年賦金ハ十箇年ヲ一期トス一期ヲ完了シタル者及一時金二十五圓以上ヲ納メタル者ハ終身社員トス

二 特別社員

特別社員ハ本社ノ事業又ハ社資ヲ補助シタルノ功ヲ以テ常議會ノ議決ニ因リ推薦シタル者トス

三名譽社員

五

名譽社員ハ常議會ノ議決ニ因リ推崇シタル者トス
 第十五條 名譽社員特別社員正社員ニハ一定ノ社員章ヲ交付ス
 第十六條 入社ノ拒絶及社員ノ除名ハ常議會ニ於テ議決シ其ノ理由ハ之ヲ告知セス

第六款 常議會

第十七條 本社ニ常議會ヲ置ク
 常議會ハ常議員三十名ヲ以テ組織ス
 常議員ハ總會ニ於テ東京市在住ノ社員中ヨリ選舉シ其ノ當選ハ陸軍大臣海軍大臣ヲ經由シテ上奏スルモノトス
 常議員ニ非スレバ社長及副社長ニ勅任セラレタル者ハ選舉ヲ用キスシテ常議員トシ常議員ノ數ヲ増加ス
 常議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三箇年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス
 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

常議員交代ノ場合ニ於テハ前議員ハ新議員ノ就職マテ其ノ任ヲ俾續スルモノトス
 第十八條 常議會ハ社長ノ招集ニ依リ開會シ本社重要ノ事件ヲ議決ス
 第十九條 常議會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第二十條 常議會ハ定員三分ノ一以上出席スルニ非サレバ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 出席員定足數ニ滿タサル場合ニ於テハ社長ハ二週日內ニ於テ更ニ常議會ヲ招集スルモノトス
 第二十一條 前條第二項ノ規定ニ從ヒ更ニ常議會ヲ招集シタル場合及天災事變ニ際シ招集ヲ爲シタル場合ニ於テハ出席員ノ數ニ拘ラス議決ヲ爲スコトヲ得
 第二十二條 天災事變ニ際シ至急救護ヲ要スルトキハ社長ハ救護ノ事業

ヲ執行シタル後ニ常議會ノ承認ヲ求ムルモノトス

第七款 理事及監事

第二十三條 本社ハ一切ノ社務ヲ處理セシムル爲理事十名ヲ置キ理事中ニ左ノ職員ヲ置ク

社長 一名

副社長 二名

第二十四條 社長及副社長ニ勅任セラレタル者ハ理事トス其ノ他ノ理事ハ常議會ニ於テ常議員中ヨリ之ヲ選舉ス

理事ノ當選ハ陸軍大臣海軍大臣ヲ經由シテ上奏スルモノトス

社長副社長及理事ハ名譽職トス

理事ノ任期ハ常議員ノ任期ニ依ル但シ重任スルコトヲ妨ケス

第二十五條 社長ハ社務ヲ提理シ本社ヲ代表シ委員屬員ヲ任免シ總會及常議會ノ議長タルモノトス

副社長ハ社長ヲ補佐シ社長支障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ代理ス

第二十六條 本社ニ監事三名ヲ置ク

監事ハ總會ニ於テ社員中ヨリ選舉シ其ノ當選ハ陸軍大臣海軍大臣ヲ經由シテ上奏スルモノトス

第二十七條 監事ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三箇年トス但シ重任スルコトヲ妨ケス

補副監事ノ任期ハ前監事ノ任期ニ依ル

第八款 總會

第二十八條 本社ハ毎年一回通常總會ヲ招集ス

前項通常總會ノ外社長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十九條 社員十分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ社長ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ五週日內ニ臨時總會

ヲ招集スルコトヲ要ス

第三十條 總會ノ招集及會議ノ目的タル事項ノ通知ハ特ニ指定シタル新聞紙ヲ以テ爲スモノトス

第三十一條 總會ニ於テ表決ヲ爲スハ出席社員ニ限ル

總會ニ出席セザル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得ス

第三十二條 總會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ社長ノ決スル所ニ依ル

第九款 戦時ノ特例

第三十三條 戦時救護ノ事業ヲ執行スルニ付常議員ヲ招集スルトキハ第二十條ノ規程ヲ適用セス

第三十四條 戦時ニ於テハ理事常議員及監事ノ任期滿ツルト雖平和ノ後ニ非テレバ之ヲ改選セス

第三十五條 戦時ニ執行シタル事業ハ總會ニ報告スルモノトス

第十款 支部及特別ノ機關

第三十六條 北海道各府縣及臺灣ニ支部ヲ置キ其ノ他必要ノ地ニ特別ノ機關ヲ置ク

第三十七條 支部及特別ノ機關ニ關スル規則ハ常議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

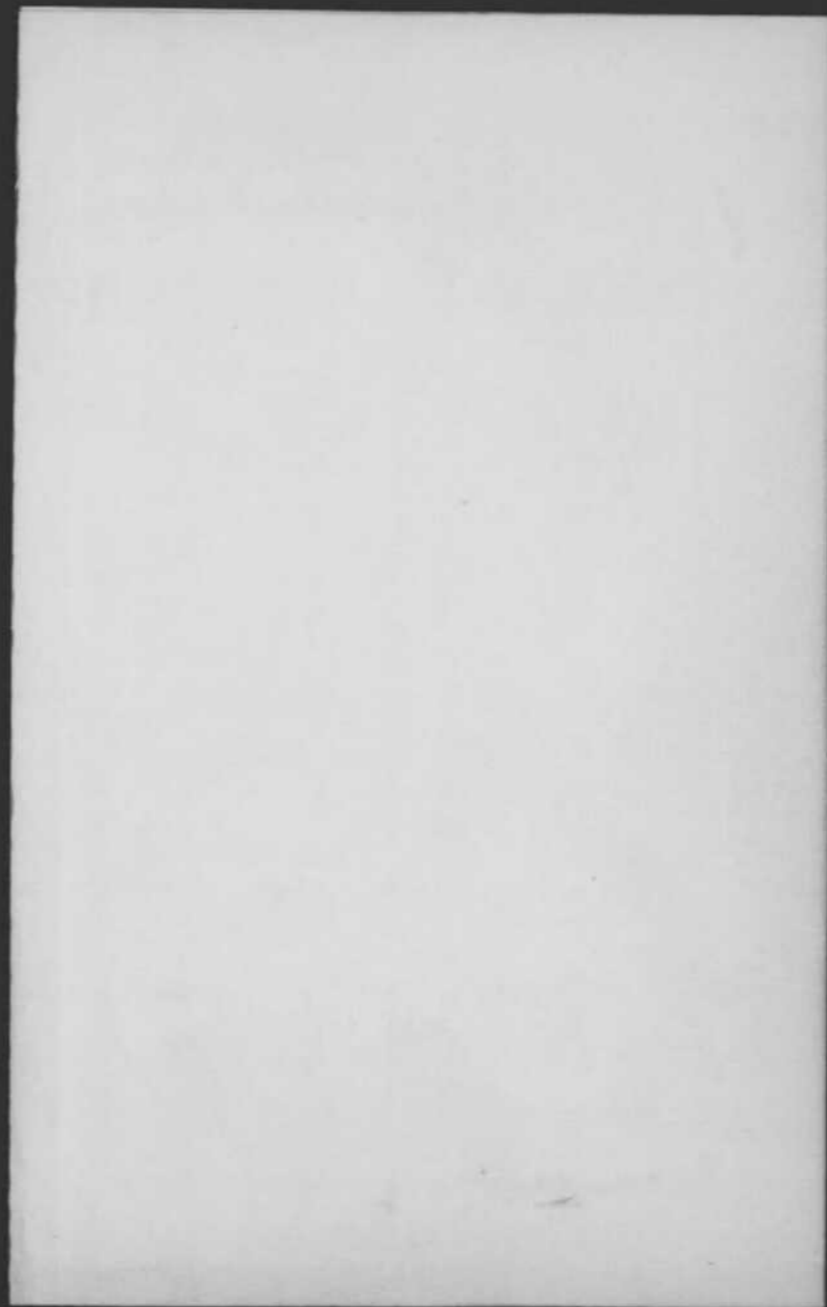
第十一款 有功章

第三十八條 本社ノ事業又ハ社員ヲ幫助シ特別ノ功勞アリト認めタル者ニハ常議會ノ議決ニヨリ有功章ヲ授與ス

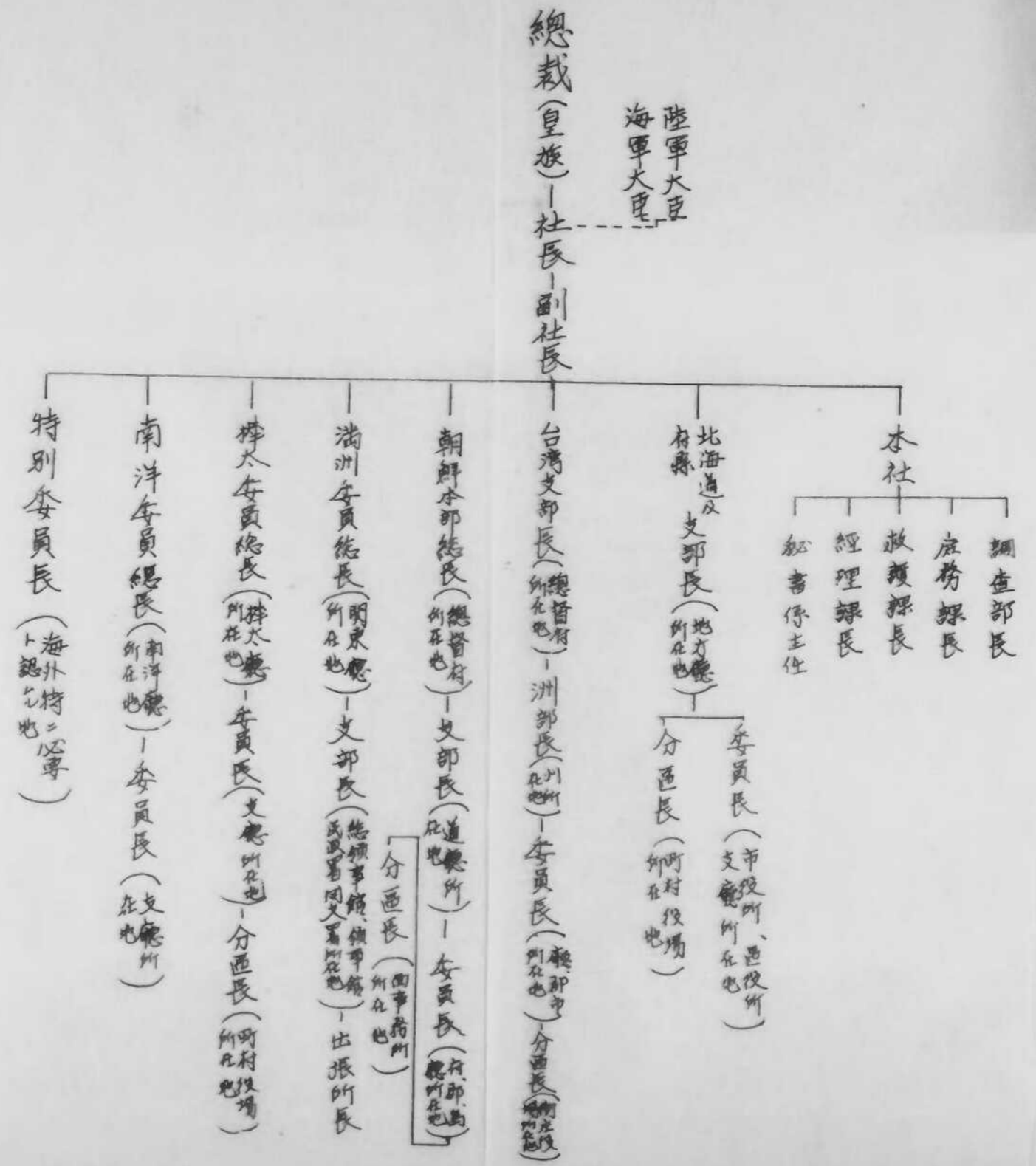
附 則

第三十九條 従前ノ贊助社員ニハ其ノ名稱ヲ存續セシメ年醜金其ノ他取扱仍従前ノ例ニ依ル

Faint, illegible text within a rectangular border on the right page of the document.



日本赤十字社業務系統



日本赤十字社事業進展概観

(大正六年)

年度

赤十字社活動セル
臨時、事件

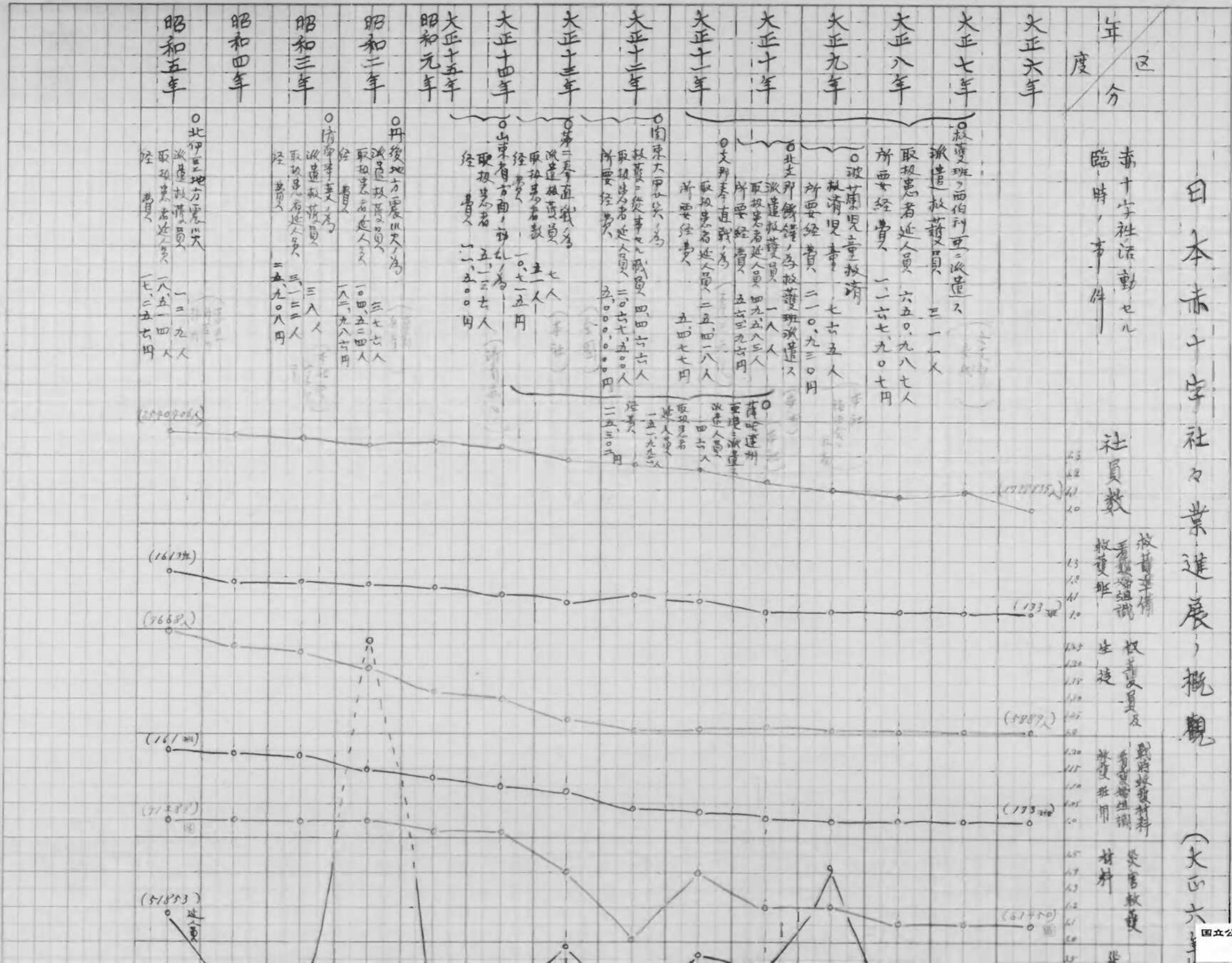
社員数

救護準備
看護婦組織
救護艇

救護員及
生徒

戦時救護材料
看護婦組織
救護艇

災害救護
材料



○救護班之西伯利亞派遣
派遣救護員 三十一人
取扱患者延人員 六五〇、九八七人
所要經費 一、二六七、九〇七円

○波蘭兒童救護
救護員 七十五人
所要經費 二一〇、九三〇円

○北支那飢饉ノ為救護班派遣
派遣救護員 一八人
取扱患者延人員 四九、五八三人
所要經費 五、六三九、九六円

○支那赤十字會
取扱患者延人員 二五、四一八人
所要經費 五、四七、七四円

○南支那赤十字會
取扱患者延人員 四、四六六人
所要經費 一、五二九、九三円

○山東省方面
取扱患者延人員 五、三三六人
所要經費 一、一五〇、〇〇円

○丹後地方震災
取扱患者延人員 三、七七六人
所要經費 一、〇四五、二四円

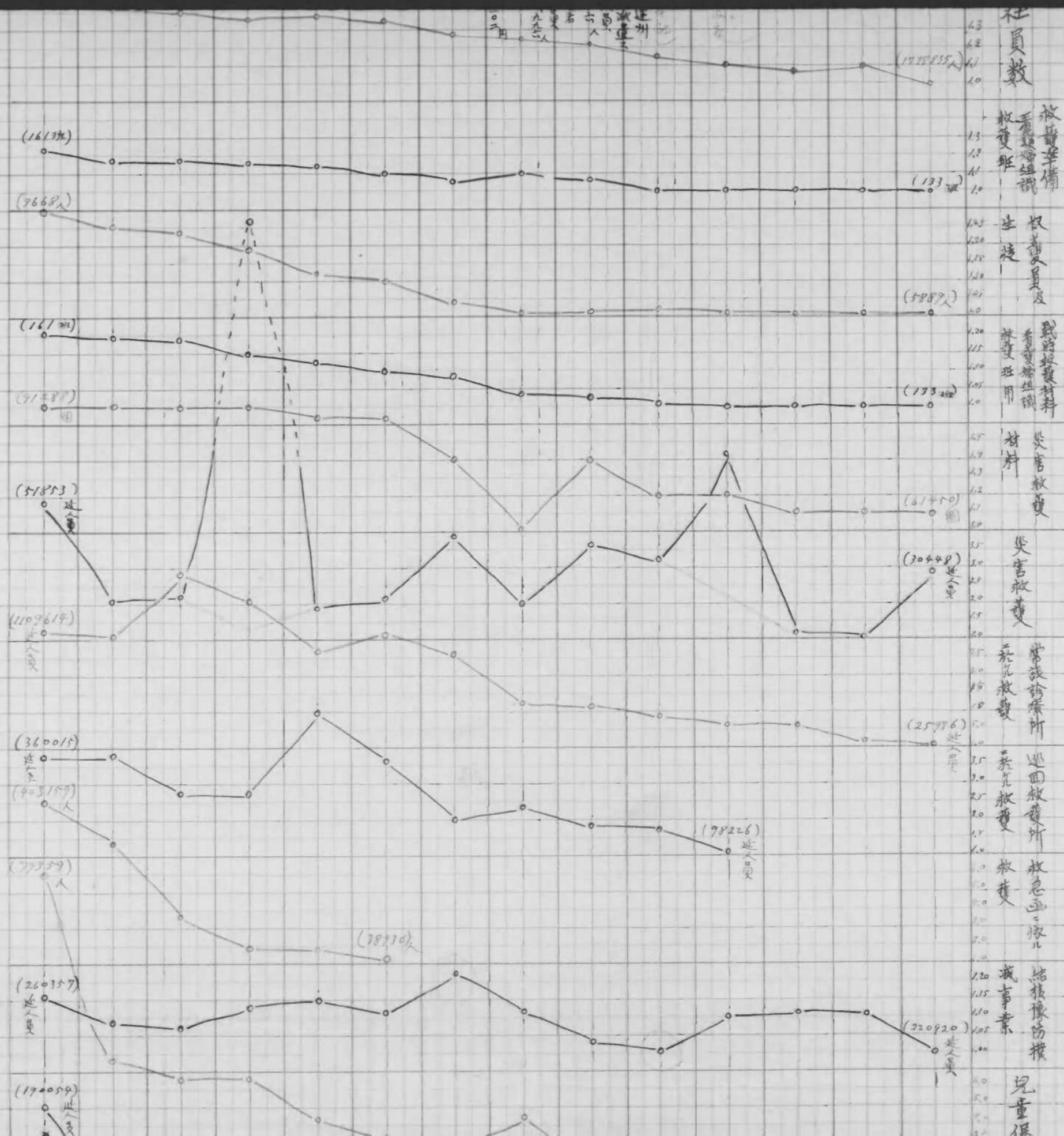
○防府赤十字會
取扱患者延人員 三、八八八円

○北支那地方震災
取扱患者延人員 一、二一九人
所要經費 一、七二五、七四円

日本赤十字社

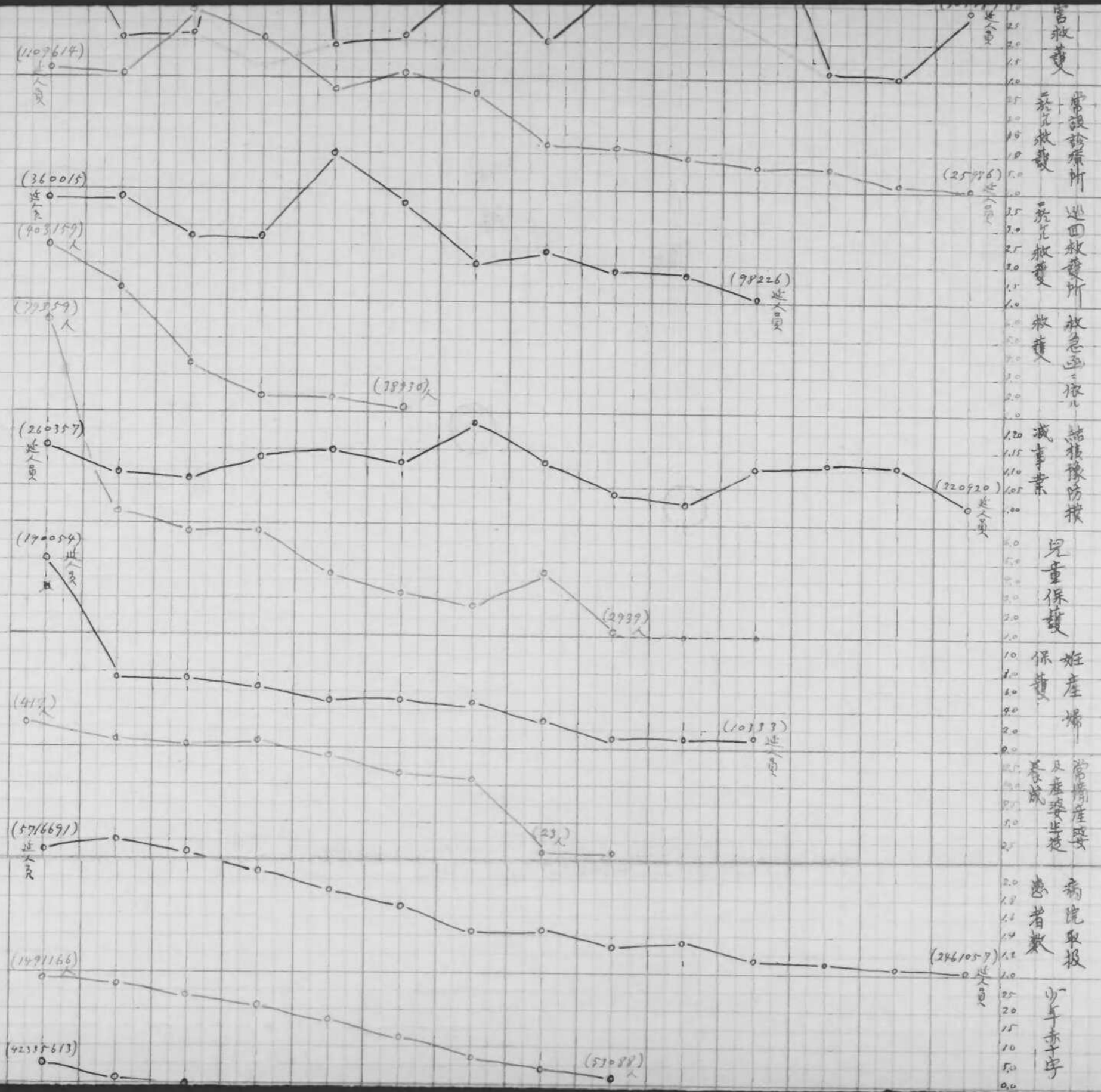
社業進展概観

(大正六年以降)



東京山手区社会局

以降)



裏面白紙



○社負數

大正六年	一、七九八、八三五	大正十三年	二、三〇〇、〇四一
全七年	一、八五三、一七〇	全十四年	二、四二一、七七六
全八年	一、九二二、〇五六	全十五年	二、四八〇、七九六
全九年	二、〇〇三、二三八	昭和元年	二、四七〇、三七一
全十年	二、〇六四、二〇〇	全三年	二、五〇八、五七八
全十一年	二、一八五、六七二	全四年	二、五三四、七二一
全十二年	二、二三二、二六九	全五年	二、五四〇、四〇六

○救護準備

年度/區分	看護婦組織救護班 定數	看護婦組織救護班 準備數	看護婦組織救護班 定數	看護婦組織救護班 準備數	病院 定數	病院 準備數	病院 定數	病院 準備數
大正六年	一三六	一三三	三九	二八	二	二	一	一
全七年	一三六	一三三	三九	三〇	二	二	一	一
全八年	一三六	一三三	三九	三〇	二	二	一	一
全九年	一三六	一三三	三九	三〇	二	二	一	一
全十年	一三六	一三三	三九	三〇	二	二	一	一
全十一年	一七九	一三九	一〇	一〇三	二	二	二	一
全十二年	一七九	一四九	一〇	三三	二	二	二	一
全十三年	一七九	一四四	一〇	一三	二	二	二	一

日本赤十字社

年/分	救護員	生徒	年/分	救護員	生徒
大正六年	五、一四七	七四二	大正十三年	四、七四二	一、三九七
全七年	五、二六一	七〇九	全十四年	四、九六二	一、四九四
全八年	五、一四八	七四九	昭和十五年	五、二二三	一、四八六
全九年	五、〇三二	八六五	昭和元年	五、五三〇	一、四八四
全十年	五、〇五九	九六八	全三年	五、七七三	一、五一四
全十一年	四、七一一	一、〇九五	全四年	五、八三〇	一、五八三
全十二年	四、六三八	一、二五四	全五年	六、〇九四	一、五七四
昭和元年	一七九	一五二	全十四年	一七九	一四七
全十五年	一七九	一五二	全十五年	一七九	一四七
全二年	一七九	一五五	全三年	一七九	一五七
全三年	一七九	一五七	全四年	一七九	一五八
全四年	一七九	一五八	全五年	一七九	一六一
全五年	一七九	一六一	全六年	一七九	一六一

○救護員及生徒

日本赤十字社

備考
大正十一年救護規則改正ニ依リ救護團體數ハ前年ニ比シ
看護婦救護班四十三班ヲ病院列車一列車ヲ増加シ看
護人救護班ハ三十九班ヲ減少セリ
看護人救護班準備救護班△印ハ改正當時ノ現數ニシテ
大正十五年迄ニ漸次看護婦組織ニ變換セラレタリ

○戰時救護材料

年度/區分	看護婦組織救護班用	看護人組織救護班用	病院 船用
大正六年	一三三箇班分	二九箇班分	二隻分
全七年	一三三箇班分	三〇箇班分	二隻分
全八年	一三三箇班分	三〇箇班分	二隻分
全九年	一三三箇班分	三〇箇班分	二隻分
全十年	一三三箇班分	三〇箇班分	二隻分
全十一年	一三九箇班分	一三箇班分	二隻分
全十二年	一四五箇班分	(大震災火災三艘分)	一隻分
全十三年	一四四箇班分	三箇班分	
全十四年	一四七箇班分	五箇班分	二隻分
全十五年	一五二箇班分	五箇班分	二隻分
昭和元年	一五五箇班分	一〇箇班分	二隻分
全二年	一五七箇班分	一〇箇班分	二隻分
全三年	一五八箇班分	一〇箇班分	二隻分
全四年	一六〇箇班分	一〇箇班分	二隻分
全五年	一六一箇班分	一〇箇班分	二隻分

日本赤十字社

○災害救護材料

年度/區分	治療器械類	病衣類	作業被服類	寢具類	患者運搬機類	天幕
大正六年	五〇二一箇	三、八三九枚	一、七七四人分	三〇、八二八箇	七九〇具	二〇八張

年/區	事件数	救護日数	患者実人数	同 延人数	救護員数
全七年	四、三三六	三三、八九四	一、四七七	二八、一八三	五八九
全八年	四、八二六	三三、八九九	一、六〇六	二八、〇〇九	五八三
全九年	八、七四三	三三、一五二	二、一八九	三〇、二一六	六二四
全十年	六、二八四	三三、三二九	一、五九三	三一、三三三	六〇五
全十一年	八、八五五	三三、三五〇	一、九三六	四一、九三八	六七三
全十三年	七、八四六	一八、三三〇	一、八一五	二九、二一六	六四〇
全十三年	二、八六八	一八、八三七	三、六六三	三七、二七八	六四一
全十四年	一、六〇七	二一、四三二	四、一五〇	四四、六一五	七六〇
全十五年	一、六四七	二〇、四三二	四、七七一	四四、一七四	七六四
昭和元年	一、七、三七四	二二、一四六	六、一九四	四六、九〇七	七二六
昭和三年	一三、三〇〇	二二、三〇〇	九、九六五	四九、三八八	七三一
全四年	三、四三三	三三、四四七	九、三三六	五〇、三〇四	七二七
全五年	二、一八九	二二、九七三	九、二二四	五〇、三〇五	七二四
大正六年	二五一	六八三	一四、二六七	三〇、四四八	二〇一九
全七年	二二五	七五九	九、九八〇	一〇、四七二	一、二九四
全八年	二七九	六八五	六、一一七	一一、六二六	一、四四六
全九年	三一八	二、一八八	四二、四四一	六六、六六四	一、七〇七

七〇災害救護

日本赤十字社

全十年	三八八	一七七七	一三〇五一	三四〇〇九	一七一五
全十年	三八一	一二〇三	五九三四	三八二七五	一八〇八
全十年	三六九	一三三三	一六、五八九	二〇、七七一	二、五三〇
全十三年	四三三	一三七四	一、二五七九	四一、五三七	一九六一
全十四年	五〇四	一七七九	一四、三七八	二二、五四七	三、三三一
全十五年 昭和元年	五二六	一六四二	一〇、六九六	一五、一九七	四、六七九
全二年	五二四	二〇九八	三七、四三六	一三四、八九二	二、七三二
全三年	八〇三	二、四七六	一八、七二四	二二、五三八	三、九六四
全四年	六三七	二、一三四	一四、六九八	二二、七二五	二、六四九
全五年	七七〇	二、四六六	二二、一三〇	五、八五三	三、〇八五

○常設診療所ニ於ケル救護

大正六年	七、五四二	二、九七六	大正十三年	一三、八七〇	六八〇、九九〇
全七年	一一〇四〇	五、三〇七	全十四年	一六〇、九二〇	八二四、五九一
全八年	二四、六〇六	一三七、〇九三	全十五年 昭和元年	九七、三二六	七一四、三三一
全九年	二六、三〇五	一四八、三四五	全二年	一〇四、三六二	一〇四、六一〇
全十年	三三、六六八	三九、八三〇	全三年	八九、四一八	一三七、三三三
全十一年	五、九九三	二九四、三四七	全四年	一七、五〇七	一〇六、三三六
全十二年	四〇、四六九	三一五、〇九八	全五年	三三、三八六	一、〇九、六一四

日本赤十字社

めぐれず

○巡回救療所ニ於ケル救護

年度/區分	患者實人負同	延人負	年度/區分	患者實人負同	延人負
大正九年	七、九七二	九八、三二六	大正十五年	七三、七〇一	四八七、九七六
全十年	九、四八三	一七五、八六九	昭和元年	五九、八一六	二六七、四〇三
全十一年	二三、二七二	一八二、八六四	全二年	六五、三七一	二七五、五七五
全十二年	三六、五九一	二四四、九九〇	全三年	八七、七二五	三六四、五五〇
全十三年	二八、八六五	二二六、六六六	全四年	九六、三九九	三六〇、〇一五
全十四年	五三、二八四	三六四、四〇八	全五年		

○救急函ニ依ル救護

年度/區分	救急人負	年度/區分	救急人負
大正十四年	三八、九三〇	昭和三年	一四一、五八三
全十五年	六九、二一六	全四年	三〇二、六〇八
昭和元年	七七、九四七	全五年	四〇三、一九九

日本赤十字社

○結核豫防撲滅事業

年度/區分	入院患者	延患者	年度/區分	入院患者	延患者
大正六年	一四八三	一〇六、七四二	昭和元年	七〇九一	一一六、一七八
全七年	一四〇二	一〇九、八三一	全二年	一一、三一八	一四二、二四七

年/區分	夏季保養所 收容児童数	健康相談所 取扱人員数	學校看護婦 講習會 講習學校	海濱學校 收容児童数	産院 乳兒患者 実人員 延人員
全八年	一、二二二	九〇、六三一	一三、二七一	一四二、九一〇	
全九年	一、〇七四	八七、一一八	一〇、四〇六	一五九、七〇八	
全十年	一、〇七三	九〇、四五七	九、五四二	一三二、二四四	
全十一年	一、二四二	八九、六〇二	六、〇四一	一四〇、四七五	
全十二年	一、二九八	八九、五二九	七、二一九	一六一、七七二	
全十三年	一、五四六	一〇九、五二一	七、五三三	一六八、三一二	
全十四年	一、四二二	一〇一、三三三	八、六六六	一四九、六九四	
全十五年 昭和元年	一、五九七	一〇六、五五三	九、三六〇	一五〇、九二五	
全十二年	一、五四七	一〇六、二七四	七、二二二	一四六、九八一	
全十三年	一、五〇二	九九、二六六	七、二四〇	一四九、一四九	
大正四年	一、六四四	一〇〇、三一六	八、七一四	一四〇、六八八	
全十五年	一、六八二	一〇二、一七六	六、六三六	一五八、一八一	
日本赤十字社					
二〇 兒童保護					
大正九年	三五七				
全十年	一、三〇九				
全十一年	二、〇九七	五八三	四	六	二五九
全十二年	三、九五二	八、四六四	一四	三〇	二、七〇一
全十三年	三、九五三	一、三四四	二五	四八	八四三
					二、四二五
					二、四八八
					九、七七一

年/區分	一〇〇 妊産婦保護				一〇〇 外來及性診			
	実人負	延院	実人負	延性診	実人負	延性診	実人負	延性診
大正十一年	三六六	六、六六六	六四八	三、六六七	六四八	三、六六七	三、六六六	三、六六六
大正十三年	一一三九	二一、五六〇	一、八二七	八、一八二	一、八二七	八、一八二	一一三九	一一三九
全十三年	一九七九	三〇、三九六	三八一四	一七、四三九	一九七九	一七、四三九	一九七九	一九七九
全十四年	二、二一八	二九、九四〇	八、一〇七	二一、〇四三	二、二一八	二一、〇四三	二、二一八	二、二一八
全十五年	二〇五九	二六、七六二	五、八二八	二四、二六一	二〇五九	二四、二六一	二〇五九	二〇五九
昭和元年	二、五七七	三三、六一八	七、二二〇	三三、四〇八	二、五七七	三三、四〇八	二、五七七	二、五七七
全二年	三、〇八六	三五、八一九	七、六七七	三七、三七八	三、〇八六	三七、三七八	三、〇八六	三、〇八六
全三年	三、三二三	三五、六〇五	八、四九三	三九、二八五	三、三二三	三九、二八五	三、三二三	三、三二三
全四年	七、三八八	九四、四一九	二、三、三六三	九、九、六三五	七、三八八	九、九、六三五	七、三八八	七、三八八
全五年	七、三二二	九四、四一九	二、三、三六三	九、九、六三五	七、三二二	九四、四一九	七、三二二	七、三二二

一三〇 常備産婆及産婆生徒養成

日本赤十字社

年度/區分	常備産婆	産婆生徒	年度/區分	常備産婆	産婆生徒
大正十年	四	一〇	昭和二年	七六	三〇一
全十二年	四	一九	全三年	八六	二六七
全十三年	二七	二〇八	全四年	九九	二七一
全十四年	四二	二二八	全五年	一〇二	三一五
全十五年	五七	二七三			
昭和元年					

〇病院取扱患者数

年度/區分	病院数	入院患者		外来患者	
		実人負	延人負	実人負	延人負
大正六年	一六	三三,五二六	六三,六六六	五三,四一〇	一八,三九,三九一
大正七年	一六	二六,八七〇	六七,八六六	五八,一九七	一九,四六,〇七八
全八年	一六	二七,一五六	七三,一〇三	二〇,三,九五七	二〇,三,九五七
全九年	一八	三三,〇六八	八〇,一八七	七二,六,二八四	二,三四一,七八七
全十年	一八	三〇,四四八	八四,七,七五〇	七九,九,三七五	二,四六八,八二八
全十一年	一八	三一,四九六	八六,八,一三八	七九,六,四七九	二,四二九,八四四
全十二年	二〇	三八,三九六	九八,六,二七三	七二,三,九八二	二,六三三,六一一
全十三年	二〇	三八,五〇〇	九三,八,六四七	七三,三,三六九	二,五九四,二二六
全十四年	二一	四三,五七六	一〇二,三,九八七	七九,八,八五四	二,九六七,八九七
全十五年	二二	四七,二八九	一〇九,六,三四五	一,二二〇,四九六	三,五一一,〇三五
昭和元年	二三	四八,六四六	一二三,一,三二四	七一〇,一五七	四,一五三,四九七

日本赤十字社

全三年	二二	四八、三九九	一、三三三、一八二	七二四、五〇四	四、三八五、二七四
全四年	二五	九一、八二〇	一、三三三、七三六	四三一、九七〇	四、五八五、二九〇
全五年	二六	五〇、三九九	一、二六八、三二二	四二一、二九〇	四、四四八、四七九

少年赤十字

年度/區分	團數	團負數	年度/區分	團數	團負數
大正十年	二四三	五三〇、八八	大正十五年	四、三八〇	九九〇、五二二
全十年	九三九	二一〇、一五八	昭和元年	四、八九二	一、一一三、二四四
全十一年	一、三六九	三三八七、三三	全三年	五、五〇九	一、二七九、七五七
全十三年	二、七四〇	六五五、六六	全四年	五、九三〇	一、三八六、三六八

昭和五年 六、三六〇 一、四九一、一六六

日本赤十字社

○各種資金合計

大正六年	三一、二二一、三九五	大正十三年	三六、四七五、〇三四
全七年	三二、八九六、八六四	全十四年	三七、二五〇、六二二
全八年	三五、二〇三、〇一〇	全十五年	三八、一四一、一二二
全九年	三七、〇七二、九四三	昭和元年	三九、二六四、六九三
全十年	三八、三八七、三三三	全三年	四〇、六一九、六二五
全十一年	三九、一五七、五七〇	全四年	四一、四一〇、七二三
全十二年	三八、五三九、六七二	全五年	四二、三三九、六一三

日本赤十字社

292

日本赤十字社戦時救護事業準備計畫

日本赤十字社ハ戦時事變ニ應スル爲平時ヨリ錢多ノ準備計畫ヲナシ居レリ而シテ大正十一年既往ノ戦役及國軍ノ状態ニ鑑ミ戦時救護規則ヲ改正レ爾來之ニ基キ救ヲトシテ完成ニ努メマハリ日本赤十字社ノ戦時事變ニ對レ平時ヨリ準備及計畫レアル至テモノヲ與テレハ尤ノ如シ
一、救護員ノ養成

戦時事變ニ應スル爲準備計畫スルキ救護團體ヲ示ヒハ厄表ノ如ク此ノ右救護團體ヲ出勤セシムトモハ如何ニ多數ノ救護員ヲ要スルカハ言フ俟

陸軍

タス殊ニ軍部ノ衛生勤務ヲ幫助スルニ適當ナル訓練アリ救養アル救護員ハ一朝一夕ニシテ養成ヒラレヘキモノニアラスカ爲本事業ノ實施ヲ確實ナラシメンカ爲本部並右支部及朝鮮、滿州右各員部ヲシテ救護團體ノ整備數ヲ分擔セシメ大正十一年ヨリ十二箇年ヲ期シ完成セシメント努力カレマリ而シテ之ニ要スル人員ハ救護醫員四九六、救護看護長四六〇、救護看護人長二八、救護看護婦一九三〇、救護看護人三六〇ヲ要シ尙必要ニ應シ救護醫長、救護調劑員、齒科醫員、救護看護婦監督、救護書記、救護調劑員補

等ヲ準備スルモノニシテ此ノ多數ナル人員ハ平戰兩時ニ於ケル救護事業ヲ實施スルニ遺憾ナカラレル準備數アレモ其ノ主ナル目的ハ戰時事業變ニ存スルモノニ外ラスセカ局本社並右支部等ハ各分擔整備數ニ對シ年々救護員ノ減耗則チ死亡、義務年限ノ經過等ヲ顧慮シ一決ノ計畫ヲ立テ救護看護婦長（救護看護人）生徒ヲ採用シ之ニ教育ヲ施シ或ハ救護看護員ヲ選定任用スル等セカ補充ニ多額ノ經費ト苦心ヲ拂ヒマシマフ

九 記

陸 軍

救護團體名稱	定 數	昭和五年年度 實 績 數	未 完 成 數	備 考
看護婦組織發達班	一七九	一六一	一八	未 完 成 數ハ 昭和五年年度 迄ニ 完 成 ノ 際 也
看護人組織發達班	一〇	三	七	
病 院 船	二	二	〇	研究中
病院列車	二	〇	二	
救護自動車				

二、救護材料ノ準備

救護團體ノ整備ニ伴ヒ重要ナルモノハ救護材料トス
救護材料トハ 衛生材料、普通材料ニ分ケ更ニ
衛生材料ヲ 器械、藥物消耗品、患者被服、履
具及患者運搬具ニ 普通材料ヲ 事務用品、救

護員貸與品、救護員給與品、天幕、食器、
厨具及雜品ニ分ツ、而シテ右救護團體カ獨力
充ク勤務ヲ實施シ得ル如ク材料ヲ整備スル必
要ナルト共ニ軍部ト行動ヲ共ニスルヲ以テ運搬並使
用ノ輕便ト毀損ヲ防遏スル装置ヲ施ナ、ルハカラス
茲、於テ日本赤十字社ニ於テハ材料ノ制式及支數
表ヲ制定シ更ニ準備規程ヲ設ケテ救護團
體ノ要員充實ノ時期迄ニ本此並ニ各支隊等
ハ其ノ令格ニ對シ整備ヲ完了スヘキ計畫ノ下
ニ着々進捗シテ、マリ主要衛生材料タル救護班
醫械、病洗船醫械、携帶外科囊、醫員携帶

陸軍

囊、醫療囊、携帶藥籠等、陸軍ニ於ケル戰用
衛生材料ト殆ト規格ヲ同フレ比、外病洗船ニハ工
ヲキス放線器械、調劑器械、蒸氣消毒器械、藥
物消毒器械、水滅菌器等ノ諸材料ヲ兼シ其他
輸送用擔架、輸送車及諸種ノ病衣、寢具等
ノ準備ヲ行ハルハカラス尙既任ノ戰役ノ実績、鑑
ミ救護自動車ノ整備ヲモ計畫シタルヲ以テ之
ニ要スル經費モ巨額、達シ平時救護事業ヲ支
障ナク實施スル傍ラ救護材料ノ準備ヲナシテ、
アルハ其ノ計畫ノ適切周到ナル結果ナラト認メラル

三、病院ノ經營

赤十字社經營ノ病院ハ平時ニ在リテハ救護員ヲ養
成シ戰時ニ在リテハ其ノ全部又ハ一部ヲ陸海軍傷
病者ノ收容ニ供スルヲ本旨トシ 現在本社病院ノ
外ニ二十五個ノ支部病院ヲ有ス其ノ病院ノ裝備
ニ就テハ我國ノ各病院中優良ナル部類ニ屬シ殊
ニ本社病院及大阪支部病院ノ如キハ其ノ設備ノ完全
ナル点ニ於テ全國一流ノ病院ニ比シ遜色ヲ見ス。病
院業務中主ナル救護員ノ養成ハ救護教育ヲ行テ
赤十字事業ノ主義ヲ體セシメ戰時事變ニ際シ軍
部ノ衛生部員ト共ニ患者ノ救護ニ服スルモノナルヲ
以テ特別ノ訓育ヲ要スルノミナラス 醫 軍
駿々トシテ進歩

スル 醫界ノ趨勢ニ伴ヒ 不斷ノ演練ヲ行ヒ技術ノ
進歩ヲ圖ラサレハカラス 陸海軍ノ傷病者ノ收療ニ関
シテハ戰爭ノ進展ニ伴ヒ多數ノ傷病者ヲ出シ軍
部ノ病院ノミニテハ到底收容シ難ク各國赤十字社
ニ於テモ之カ收容ニ苦難ヲ嘗メタリ 斯ル場合ニ際シ
我カ日本赤十字社ノ完全ナル病院ヲ所有シアルコトハ
國家ニ執リテ大ナル利益ト謂ハサレハカラス

四、病院船ノ艦裝計畫

戰時軍部ニ對スル病院船ノ整備數ハ二隻ニシテ
毎年陸海軍大臣ノ指定スル船舶ニ就キ使用計
畫ヲ立テ必要ニ臨ミ之ニ艦裝ヲ施スモノトス。艦

米計重トシテハ勿論軍部ヨリ指示スルモノカ 患看輸
送ニ必要ナル諸設備 殊ニ輸送間ニ於ケル 診療ニ
関レ 間然スルコトナキ 完全ナル 設備ヲ求レ 船内ノ
區分トシテ 事務室、病室、手術室、治療室、屍
室、藥室、エフキス先線室、病理試験室、蒸氣消
毒室、材料倉庫等ニ分ケ之ニ各必要ナル材料
ヲ備付ケ次テ 治療、看護、洗滌給養ニ適應ナ
カラシメヤルヘカラス

五、戰時救護事業準備ニ関スル事務

戰時救護事業ノ實施計畫ハ平時、於テ克ク
整理シテラカレヘカラス、命令一下直ニ救護員ノ召集

陸軍

救護材料ノ交付 貸與品、給與品ノ支給、救護
團體ノ輸送等 着々トシテ 遲滞ナク進捗セ
シメヤルヘカラス 殊ニ救護員ト連絡ヲ保テ居所ノ
明瞭ニシテ戰時名簿、救護員ノ配属區分等ノ整
理等 容易ナラカレテ手數ヲ要スルモノナリ

日本赤十字社ニ於ケル戦時救護事業ノ實施
及業務系統

日本赤十字社ニ於ケル戦時救護事業ハ戦時又ハ事
變ニ際シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ社
長統轄シ下ニ戰時救護規則ニ基キ救護部及
救護團體ヲ編成シ實施スルモノトス

一、救護部

(イ) 救護部本部ハ救護ニ関スル諸般ノ業務ヲ
總理スルトコロニシテ分一、分二、分三ノ部ヲ置キ救
護、材料、及經理ノ事務ヲ分掌ス、本部長ハ
救護理事長ヲ以テ長トシ社長ノ意圖ニ從ヒ救

陸軍

護團體ノ衛生勤務ニ関シテハ野戰衛生長官(陸
軍省醫務局長)又ハ海軍醫務部長(海軍省醫
務局長)ノ指揮ヲ受ク

(ロ) 救護部ハ各支部所在地ニ置キ救護理事
ヲ以テ長トシ支部長ハ上長ノ命ニ從ヒ衛生勤務
ニ関シテハ所在地外管軍醫部長又ハ海軍鎮守
府軍醫部長ノ指揮ヲ承ケ所轄救護團體ヲ監
督シ部務ヲ掌ル

(ハ) 派出所 救護部本部及同支部ハ業務ノ實施
上派出所ヲ設ケルコトアリ主事ヲ以テ長トシ所轄
官憲ノ部下ニ任ラテ上長ノ指揮ヲ承ケ関係救

護園體ノ事務ヲ掌理シ衛生勤務ニ関シハ當該
陸海軍醫官ノ指揮ヲ受ケルモノトス
以上ノ救護部ハ時宜ニ依リ之ヲ置カス社長其ノ
業務ヲ直轄スルコトアリ

ニ救護園體

(1) 救護班 看護婦組織ト看護人組織ノ二種
アリ班長(醫員) 看護人長又ハ看護婦長各
一、看護婦又ハ看護人ニシテ編成ニ必要ニ
應ジ調劑員、書記、通譯及使下ヲ加フルコト
アリ而シテ其ノ配屬箇所ニ依リ兵站總監部、兵
站監部、留守師團司令部又ハ船舶輸送諸

陸軍

部等ノ管轄ニ属シ其ノ衛生勤務ニ関シテハ野
戰衛生長官 海軍軍醫部長、當該軍醫部長、
鎮守府軍醫部長及所屬長ノ指揮ヲ受テ軍
部、衛生機關ノ間ニ位レ陸海軍ノ病院、病院
列車、患者自動車及患者看護等ノ勤務ヲ幫
助ス、戰地ニ於テハ主トシテ兵站管区内ニ於テ
作業スルヲ例トスルモ情況ニ依リ更ニ前方ニ進出
レ作業スル場合アリ

(4) 病院船、病院船ハ陸海軍ノ傷病者及難航者
ノ收療輸送ノ勤務ニ服スルモノトシテ獨自ノ力
ヲ以テ作業スルモノトス、救護醫員六、調劑

員、主事、看護婦監督各一、書記四、調劑員
補一、看護婦長二、看護婦五〇、磨工一ヲ以
テ編成シ必守ニ應シ通譯役支ヲ配屬ス、主
ナル材料トシテハ病院船醫仗、調劑行李、エフキ
ス救線器械、擔架、病衣、寢具、庖厨具
等ヲ備フ

(四) 病院列車

陸海軍傷病者ノ輸送勤務ニ取スルモノニシテ勤
務ノ性質上看護人組織トス 收護醫員二、調
劑員、主事、書記、調劑員補各一、看護
人長二、看護人二〇ヲ以テ編成シ必守ニ應シ

陸軍

通譯、厨丈、及役支ヲ既屬ス主ナル携行材
料、病院列車醫仗、擔架、病衣、寢具、庖
厨具等トス

(五) 救護自動車

編制及設備ニ関シテハ 銳意研
究中ナルモ近キ將來ニ於テ實現スル豫定

(六) 病院 本社及各支那病院ハ其ノ全部又ハ
一部ヲ陸海軍傷病者ノ收療ヲ實地ス

(七) 其他地方支那ニ於テハ戰地ニ非ラサル破泊場
又ハ停車場ニ患者休憩所ヲ置キ還運患
者ノ接待慰慰ニ精ノ方法ヲ講ス

日本赤十字社ニ於ケル平時事業ノ大要

(昭和十三年)
持家長創刊

一、災害救護
地震、火災、洪水、暴風、海嘯、噴火、艦艇及汽車遭難等ノ場合救護班ヲ派遣シテ傷病者ノ救療ニ努ム

二、結核療防撲滅 (大正三年)
各地ニ診斷所ヲ設ケ患者ノ早期發見ニ努メ又收容機關トシテ療養所ヲ設置ス尙本社各病院ニ結核病室ヲ設ケ其ノ外衛生展覽會、講習又ハ印刷物等ニ依リ公衆ニ對シ療防撲滅ニ関スル知識ヲ普及普及ヲ圖リツ、リ

陸軍

一般結核患者ノ外陸海軍除役兵ノ收容治療ニ力ヲ致シ良好ノ成績ヲ擧ケテワ、リ

三、貧困患者救療 (昭和十三年)
本社各病院ノ外診察所及巡回診察班等ニ於テ救療シ毎年十數万ノ患者ヲ取扱フ

四、児童及妊産婦保護 (大正九年ヨリ)
児童健康相談所、夏季児童保養所、海濱學校、學校看護婦派遣等ノ設置ニ依リ保育ノ相談、虛弱児童ノ養護ニ努ム
産院、妊産婦保護所、巡回産婆等ノ機關ヲ以テ妊産婦ノ保護ニ努ム

五、衛生講習會（一九一五年より）

各地ニ於テ講習會ヲ開キ衛生教育ノ普及ヲ圖レリ

六、少年赤十字（一九一五年より）

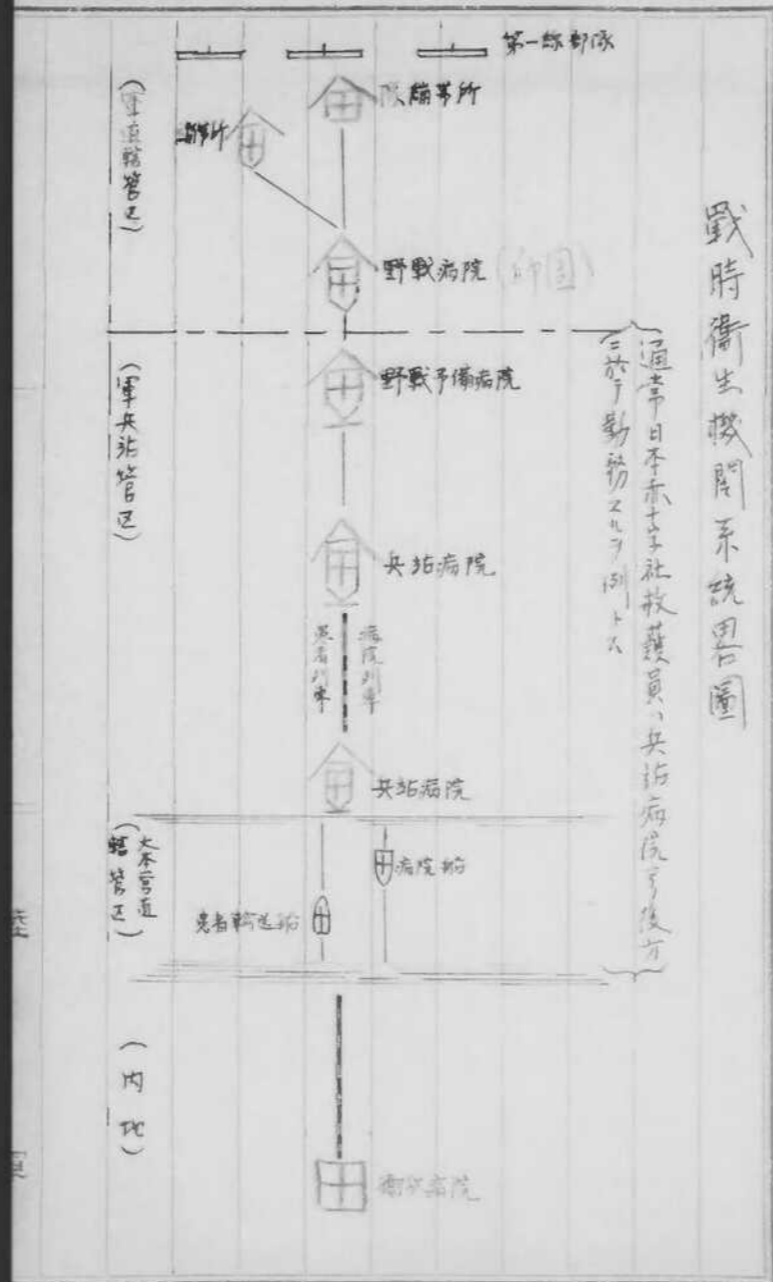
小學五年以上ノ男女兒童ヲ以テ少年赤十字團ヲ組織セシメ博愛ノ精神、良國民タルノ理解、體得、健康ノ保全、及増進ニ関レ實際的教育ヲ施スニ當リ活用スルヲ趣旨トス

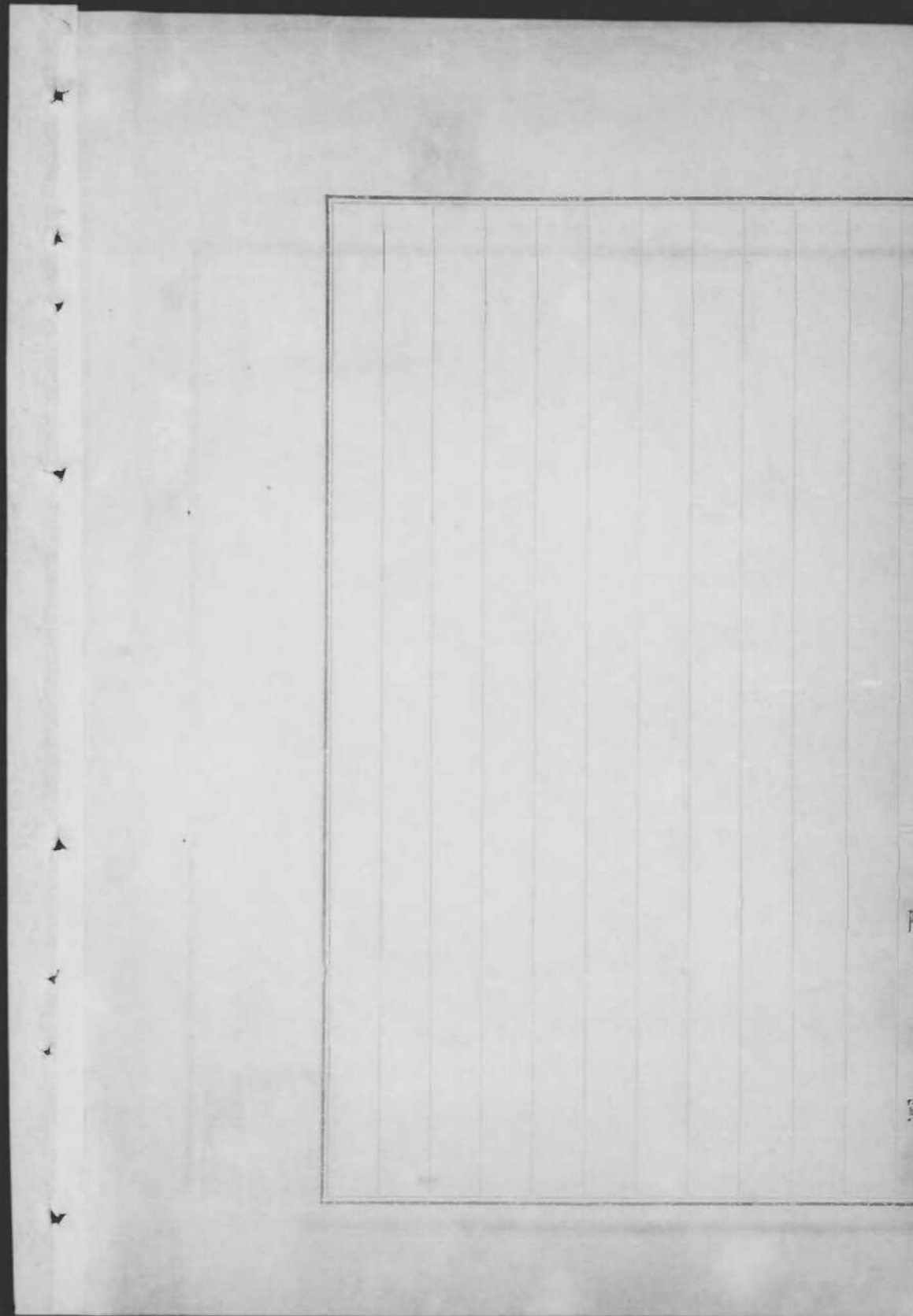
右ニ掲ケル各事業ハ本社ノ綿密ナル計畫及適切ナル指導トニ依リ着々實績ヲ擧ゲテ、マウテ日本赤十字社ノ國家及社會ニ盡ヒレ功績ハ偉大ナルモノ

陸軍

アリ

戰時衛生救護系統圖







實錄第六六二號

昭和六年十二月二十二日

長黃松院書記官長



本林内閣書記官長 敬

本院議多取本鈔之助行
由録書及以送一斤也

貴族院

裏面白紙

功 績 書

貴族院議員正四位勳二等 本 鈺之助

右ハ明治十二年八月内務卿ニ任セラレテヨリ控訴院書記官及滋賀縣
奈良縣、岡山縣ノ書記官及參事官ニ歷任シ同三十年一月更ニ貴族院
書記官ニ轉任シ同三十一年三月以來内務省及東京府ノ書記官ヨリ福
井縣、鹿兒島縣知事ニ歷任シ帝國議會事務及地方行政事務ニ盡瘁シ
治績ヲ舉ケ同四十四年七月名古屋市長ニ舉ケラレ永年地方自治制ノ
發達ニ力ヲ致シ頗ル令名アリ

貴 族 院

トナルコト五十八回ニ及ヒ就中常任委員ニ在テハ殆ント毎議會豫算
委員ニ舉ケラレ又特別委員トシテ臨時停止法律案、恩給法案、大正
十二年勅令第四百九號（承諾ヲ求ムル件）外一件、府縣制中改正法
律案外六件（委員長）慶賀手形損失補償公債法案外一件ノ如キ尤モ
重要ナル法案トテ社會ノ輿論ヲ輯ムル法案ノ審査ニ當リ世相ノ趨
向ニ鑑ミ當ニ公平ノ態度ヲ持シ案ノ要旨ヲ検討シ終始一貫熱心ニ審
議ヲ盡シ協贊ノ任ヲ全フセルノ功績顯著ナルモノアルノミナラス嘗
テ道路會議議員、臨時大都市制度調査會委員、小作調査會委員等ト
ナリ内務行政ニ換リ又水久新史料編纂會委員トシテ維新史籍ノ編
纂ニ力ヲ現ニ其ノ職ニ在リ其功亦尠ナラサルモノアリト認ム

露光量違いにより重複撮影